取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

VELLFIRE

TABLE OF CONTENTS
目次

メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着された方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。
サイドリフトアップシートを装着された方は、別冊「サイドリフトアップシート取扱書」も併せてお読みください。

1 運転する前に

2 運転するときに

1
2
3
4
5
6

3 室内装備の使い方

4 お手入れのしかた

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両の仕様

6-1. 仕様一覧

6-2 カスタマイズ機能

6-3 初期設定

さくいん

1
2
3
4
5
6

外観

ヘッドランプ（ハイビーム）
P. 248
方向指示灯 P. 225
ワイパー P. 257
ドアミラー P. 138
ボンネット P. 395
BTO00CE003
方向指示灯 P. 225
補助確認装置 P. 142
車幅灯 P. 248
フォグランプ P. 256
ヘッドランプ（ロービーム）
P. 248

方向指示灯 P. 225
リヤウインドウ
デフォッガー P. 334
給油口 P. 150
リヤワイパー P. 260
スライドドア P. 74
バックドア P. 85
ドア P. 70
BTO00CE004
タイヤ
●ローテーション P. 389
●交換 P. 466
番号灯 P. 248
尾灯 P. 248
尾灯 P. 248

運転席 SRS エアバッグ
P. 159
シフトレバー
P. 216、P. 222
ヘッドレスト P. 110
シートベルト P. 127
パワーウインドウ
スイッチ P. 144
A
B
C
助手席 SRS
エアバッグ
P. 159
グローブボックス
P. 343
フロントシート P. 95
SRS サイドエアバッグ
P. 159
セカンドシート P. 101
サードシート P. 108
BTO00CD112

A

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B

▶ オート電動格納式ミラー装着車

▶ オート電動格納式ミラー非装着車

C

▶ スライド式コンソールボックス装着車（ガソリン車）

▶ 回転式コンソールボックス装着車（ガソリン車）

C

▶ ハイブリッド車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

インストルメントパネル

▶ ガソリン車

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

▶ ハイブリッド車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

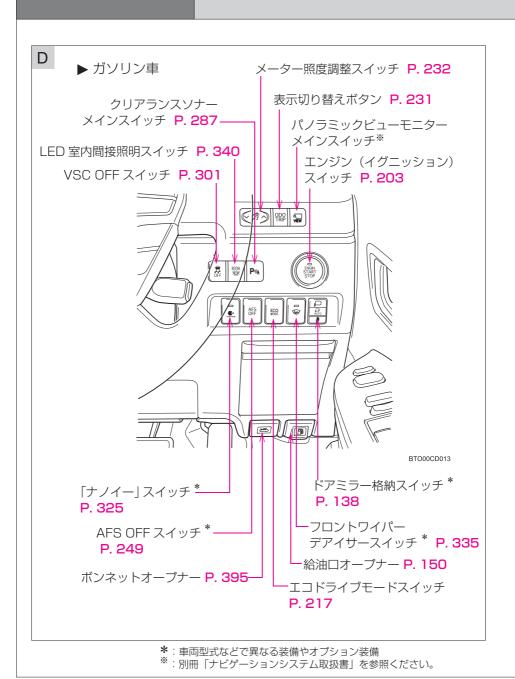
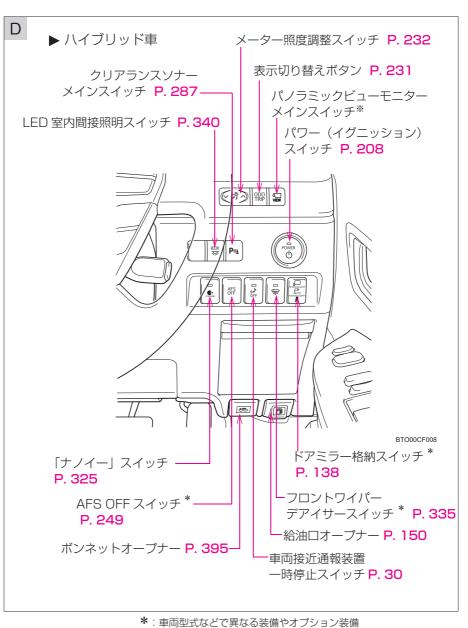
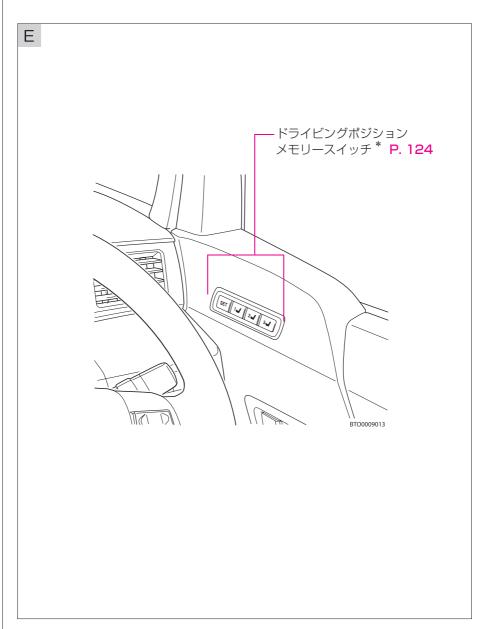
A
リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 334
時計 P. 359
エアコン P. 320
非常点滅灯スイッチ P. 439
BTO00CI001

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

E

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

車両の制御データ・操作データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

· エンジン回転数
· アクセルの操作状況
· 車速
· モーター回転数*
· ブレーキの操作状況
· シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

· お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
· 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
· 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-BOOK によるデータの取り扱いについて

お客様が G-BOOK をご利用の場合、記録データとその使用について、G-BOOK 利用規約をご覧ください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピューターを搭載しています。このコンピューターはシステムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに次のデータを記録します。

・エンジンの回転数
・車速
・ブレーキペダルの操作状況
・アクセルペダルの操作状況
・トランスミッションのシフトポジション
・エアバッグ作動に関する情報
・エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

● EDR データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

・お車の使用者の同意がある場合
・裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行うなどの、使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務付けられています。)

⚠ 警告

■**お子さまを乗せるときは**

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取りつけかたなどをまとめた「チャイルドシートの取りつけ」（→P. 180）をお読みください。

■**駆動用電池の廃棄について（ハイブリッド車）**

駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターに触れると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本書の中の表示について

ハイブリッド車特有の記載について

ハイブリッド車特有の部品名称やスイッチ名称を“〈○○○〉”で表示しています。（〈“パワー”スイッチ〉など）

警告、注意、知識について

⚠警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

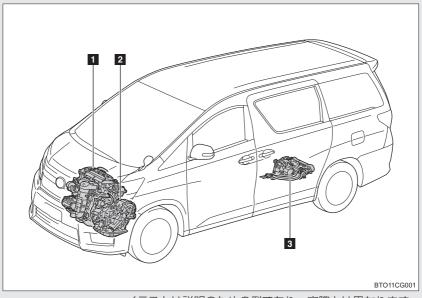
操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

1 運転する前に

ハイブリッドシステムの特徴

ヴェルファイアハイブリッドのハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減・クリーン化した、環境に配慮した技術となっています。

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 ガソリンエンジン
2 フロントモーター
3 リヤモーター

■ **停車時・発進時・低速走行時**

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。車両停止時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも、D、S または B で運転してください。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→P. 31）

■ **通常走行時**

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

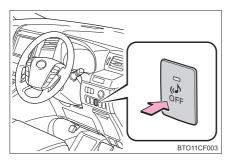
■ **急加速時**

アクセルペダルを大きく踏み込んだときは、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ **減速時・制動時（回生ブレーキ）**

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で車両接近通報装置をOFF にして消音することもできます。

OFF にするには、“パワー” スイッチが ON モードのとき、スイッチを押す

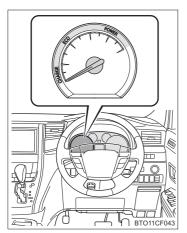
スイッチ上のインジケーターが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。“パワー” スイッチを ON モードにするごとに、車両接近通報装置は ON になります。

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D、S または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D、S または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P. 233）

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。※

● ガソリンエンジン暖機中
● 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
● 駆動用電池充電時
● 暖房をかけたとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

● ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため、少なくとも 2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。
● シフトレバーが N のときは、駆動用電池の充電が行われません。駐車・停車時は必ず P にしてください。また、渋滞時などでも D、S または B で運転してください。

■補機バッテリーの充電について

→P. 495

■補機バッテリーがあがってしまったり、交換などで取りはずしたときは

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2、3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトレバーを P にしてください。
ハイブリッドシステム始動前・始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからの電気モーターの作動音（加速時の“キーン”音、減速時の“ヒューン”音）

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる駆動用電池からの音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッションから聞こえる“ コツコツ ”“ カタカタ ”という音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ブレーキペダルを操作したときに聞こえる、作動音やモーター音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●駆動用電池冷却用吸入口（→P. 35）から聞こえるファンの音

●エアコンの作動音（エアコンコンプレッサー、ブロワモーター）

■**車両接近通報装置について**

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

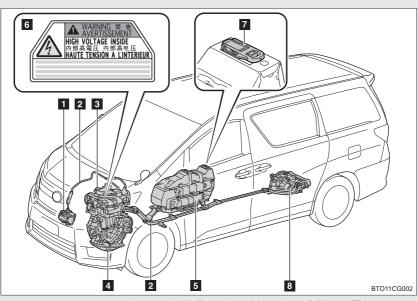
●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■**メンテナンスや修理・廃車について**

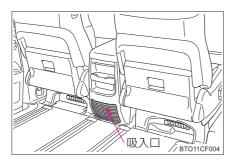
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。とくに廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示にしたがって正しい取り扱いをしてください。

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 エアコンコンプレッサー
2 高電圧ケーブル（オレンジ色）
3 パワーコントロールユニット
4 フロントモーター
5 駆動用電池・DC ／ DC コンバーター
6 コーションラベル
7 サービスプラグ
8 リヤモーター

駆動用電池冷却用吸入口

駆動用電池冷却用の吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因になります。

センターコンソールうしろ側に吸入口があります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に表示されます。

BTO11CF044

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示にしたがってください。（→P. 454）

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、補機バッテリーとの接続が断たれたときは

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P. 451）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量は車両水平状態で約 10L です。車両の傾きによって給油量はかわります）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

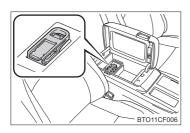
駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示にしたがい、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●コンソールボックス下部にサービスプラグがあります。サービスプラグはトヨタ販売店で車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。

警告

■事故が発生したときは

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車する
  停車時は、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを停止します。そのあとブレーキペダルからゆっくり足を離してください。
- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
  駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚に触れると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- タイヤが接地した状態でけん引しない
  電気モーターから発電され、破損の状態によっては、漏電による火災のおそれがあり危険です。必ず４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
  （→P. 445）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
  この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

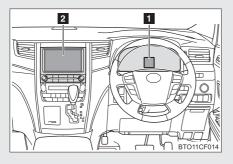
駆動用電池を不法に投棄または放置すると、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れた場合に、生命にかかわる感電事故などにつながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

- 吸入口のまわりに荷物などを置いたりしないでください。
  吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、故障の原因になります。
- 吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
  駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
  誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

燃費画面＊／ESPO 画面＊／エネルギーモニター

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイやメーカーオプションのナビゲーション画面に表示します。

1 マルチインフォメーションディスプレイ
- エネルギーモニター
（→P. 48）

2 ナビゲーション画面
（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）
- 燃費画面
（→P. 41、P. 43）
- ESPO 画面
（→P. 45）
- エネルギーモニター
（→P. 50）

■ 燃費画面

燃料の消費率などを表示します。

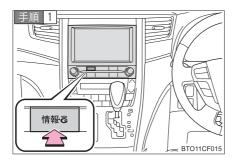
■ ESPO 画面

エコドライブをサポートするさまざまな情報を表示します。

■ エネルギーモニター

車両の走行状況などにより、エネルギーの流れを表示します。

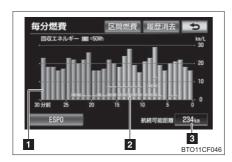
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

毎分燃費の見方（ナビゲーションシステム装着車）

画面外の“情報・G”スイッチを押す

を選択する

燃費画面または ESPO 画面が表示されます。

手順 3 ESPO 画面が表示されたときは、［燃費］を選択する

区間燃費が表示されたときは、［毎分燃費］を選択します。

1 過去 30 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

2 過去 30 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

［E］マーク 1 つが 50wh です。

3 航続可能距離（→P. 242）

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■燃費データをリセットするには

毎分燃費画面で 履歴消去 を選択すると、平均燃費、エネルギー回収量がリセットされます。

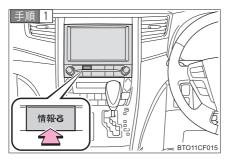
■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■画面を左右2分割して表示するには（地図／車両情報）

地図画面の右側に車両情報（燃費表示など）を表示させることができます。
画面を左右 2 分割しての表示は全画面での表示よりも、表示される情報は少なくなります。
画面を左右 2 分割で表示するには次の順で操作してください。

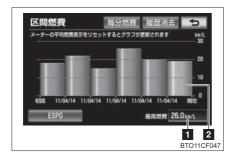
また、画面を左右 2 分割で表示している状態から全画面での表示にもどすには次の順で操作してください。

区間燃費の見方（ナビゲーションシステム装着車）

画面外の“情報・G”スイッチを押す

を選択する

燃費画面または ESPO 画面が表示されます。

手順 3 ESPO 画面が表示されたときは、燃費 を選択する

毎分燃費が表示されたときは、区間燃費 を選択します。

1 過去最高燃費

2 通算燃費

マルチインフォメーションディスプレイの平均燃費をリセットするごとの平均燃費を表示します。
（→P. 241）

リセット時の通算燃費が過去最高燃費を上まわっていた場合、過去最高燃費が更新されます。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

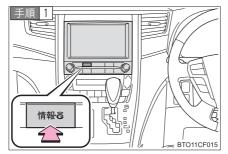
■燃費データをリセットするには

区間燃費画面で 履歴消去 を選択すると、通算燃費と過去最高燃費がリセットされます。

■画面を左右2分割して表示するには（地図／車両情報）

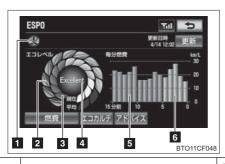
地図画面の右側に車両情報（燃費表示など）を表示させることができます。
画面を左右 2 分割しての表示は全画面での表示よりも、表示される情報は少なくなります。
画面を左右 2 分割で表示するには次の順で操作してください。

また、画面を左右 2 分割で表示している状態から全画面での表示にもどすには次の順で操作してください。

ESPO 画面の見方（ナビゲーションシステム装着車）

画面外の“情報・G”スイッチを押す

を選択する

燃費画面または ESPO 画面が表示されます。

手順 3 燃費画面が表示されたときは、ESPO を選択する

1	ステータス表示※	エコ運転の採点結果や走行情報を G-BOOK センターに送信し、計算されたステータスなどを表示します。 ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。
2	エコレベル平均値	エコレベルメーターの平均値を表示します。 が増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。
3	エコレベルメーター	エコ運転のレベルを表示します。 が増えるほど、環境に配慮した運転を継続していることになります。
4	エコレベルインジケーター	エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。
5	毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）	1分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。 今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。
6	毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）	

※：G-BOOK オンラインサービスをご利用されているときに表示されます。

■ 更新スイッチ／アドバイススイッチについて

BTO11CF049

1	更新スイッチ※	走行情報などを G-BOOK センターへ送信し、ステータスなどを更新します。
2	アドバイススイッチ	ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果や、エコ運転、環境についての豆知識を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
3	エコカルテスイッチ※	G-BOOK の ESPO メニューが表示され、燃費ランキングなどが確認できます。

※：G-BOOK オンラインサービスをご利用されているときに表示されます。

知識

■G-BOOK センターへ送信する走行情報について

G-BOOK センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

■画面を左右2分割して表示するには（地図／車両情報）

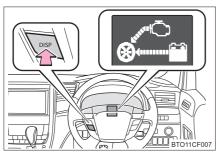
地図画面の右側に車両情報（燃費表示など）を表示させることができます。
画面を左右 2 分割しての表示は全画面での表示よりも、表示される情報は少なくなります。
画面を左右 2 分割で表示するには次の順で操作してください。

地図画面→ 表示変更 → 地図表示 → 地図&車両情報

また、画面を左右 2 分割で表示している状態から全画面での表示にもどすには次の順で操作してください。

表示変更 → 地図表示 → 地図1画面

エネルギーモニターの見方

■ マルチインフォメーションディスプレイ表示

“DISP”スイッチを押し、エネルギーモニターを表示させる

＜マルチインフォメーションディスプレイ表示一覧＞

	電気のエネルギーで走行しているとき
	ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき
	ガソリンのエネルギーで走行しているとき
	駆動用電池に充電しているとき
	エネルギーの流れがないとき
少ない　多い	駆動用電池の残量表示

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ ナビゲーション画面（ナビゲーションシステム装着車）

表示変更 を選択する

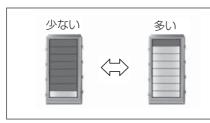
地図表示 を選択する

を選択する

手順 4 右画面の < または > にタッチしエネルギーモニターを表示する

＜ナビゲーション画面一覧＞

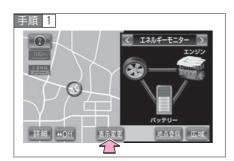
	電気のエネルギーで走行しているとき
	ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき
	ガソリンのエネルギーで走行しているとき
	駆動用電池に充電しているとき
	エネルギーの流れがないとき

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

	駆動用電池の残量表示

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ナビゲーション画面を全画面での表示にするには、

表示変更 を選択する

地図表示 を選択する

を選択する

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

■ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。
（→P. 223）

■ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリア（グリーンエリア）の範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。
（→P. 233）

■ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 渋滞

加速・減速の繰り返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

■ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどしゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。なお、設定温度の上げすぎなど必要以上の暖房を避けると、燃費向上につながります。

■ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

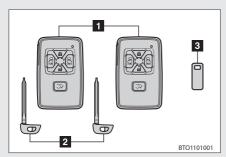
■ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。
また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

■ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行の繰り返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

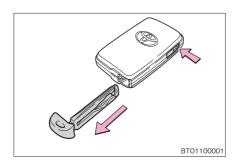
キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 57）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 67）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 486）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一キーを紛失した場合、キーナンバーと残りのキーからトヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーが作製できます。（→P. 485）

■航空機に乗るときは

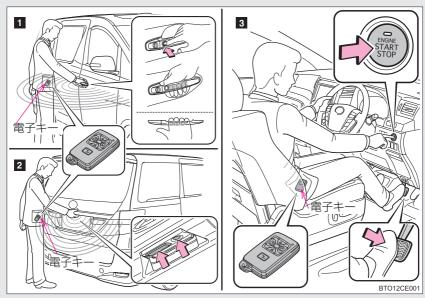
航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

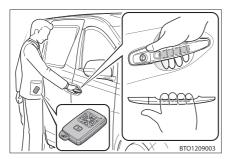
- キーに衝撃を与えたり、直射日光の当たる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼りつけたりしないでください。

スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯するだけで次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください。）

1 ドアの解錠・施錠　（→P. 58）

2 バックドアの解錠・施錠　（→P. 59）

3 エンジンの始動（ガソリン車）　（→P. 203）
ハイブリッドシステムの始動（ハイブリッド車）　（→P. 208）

ドアの解錠・施錠（フロントドアハンドルのみ）

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

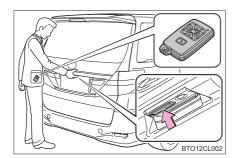
施錠操作後３秒間は解錠できません。

ロックスイッチを押して施錠する

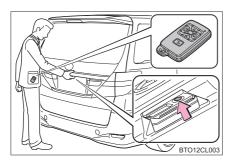
押し続けるとドアガラスが閉まります。

販売店で設定することにより、作動させることができます。（→P. 517）

バックドアの解錠・施錠

BTO12CL002

バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後３秒間は解錠できません。

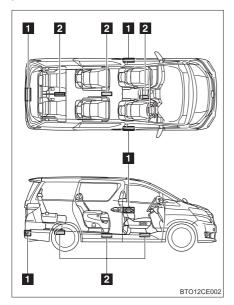
BTO12CL003

バックドアロックスイッチを押して施錠する

押し続けるとドアガラスが閉まります。

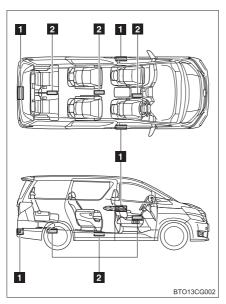
販売店で設定することにより、作動させることができます。（→P. 517）

アンテナの位置と作動範囲

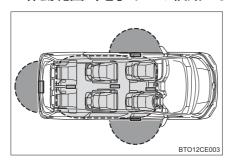
■ アンテナの位置

▶ ガソリン車

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

▶ハイブリッド車

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動時、または“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞切り替え時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）
ドアガラス：ブザーで知らせます。*

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー＜補機バッテリー＞保護のため、次の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

●2 週間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

●車両の外約 70 cm 以内に電子キーを 10 分以上放置した

次のいずれかを行うと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

●ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する

●ワイヤレス機能で解錠・施錠する（→P. 67）

●メカニカルキーで解錠・施錠する（→P. 486）

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は１～２年です。（電子キーを使用しなくても電池は消耗します。）スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 430）

●電池残量が少なくなると、エンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 65, 463）

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。

・ ＴＶ
・ パソコン
・ 充電中の携帯電話やコードレス電話機
・ 電気スタンド

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯したうえで作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの解錠・施錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・バックドアの解錠・施錠時に電子キーがリヤバンパー中央に近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・エンジン <ハイブリッドシステム> 始動時またはモード <“パワー”スイッチ> 切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン <ハイブリッドシステム> の始動が可能になる場合があります。

●洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）

●手袋をはめていると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。）

●作動範囲（→P. 61）への急な接近や、急なドアハンドル操作をしたときは、ドアが解錠されないことがあります。その場合は、一度ドアハンドルをもとの位置にもどして、再度、解錠操作をしてください。

■**長期間運転しないときは**

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■**解錠操作のセキュリティ機能**

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■**警告音と警告表示について**

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。（→P. 454）

●警告灯が点灯した場合
（セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車）
状況に応じて適切に対処してください。（→P. 447）

●マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示された場合
（ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車）
ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P. 454）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ <“ パワー ” スイッチ > を OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ <“ パワー ” スイッチ > を OFF にしたあと、再度施錠してください。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン”と 1 回鳴る※	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換してください（→P. 430）
車内から“ピー”と鳴り続ける※	シフトレバーを P 以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P にしてください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞をアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞を OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞を OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

※：セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドアの解錠・施錠：→P. 486
- エンジン始動：→P. 481
- ハイブリッドシステム始動：→P. 483

■電池が切れたときは

→P. 430

■カスタマイズ機能

ドアガラスの閉機能を作動させたり、スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧 →P. 517）

警告

■**電波がおよぼす影響についての警告**

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 60）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

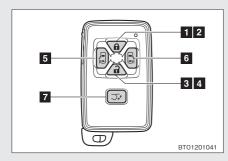
注意

■**機能が正常に働かないおそれのある状況**

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 486）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
  - ・ほかの車の電子キー
  - ・電波式ワイヤレスリモコン
  - ・パソコン
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

1 全ドア施錠

2 ドアガラスが閉まる（長押し）

販売店で設定することにより、作動させることができます。（→P. 517）

3 全ドア解錠

4 ドアガラスが開く（長押し）

販売店で設定することにより、作動させることができます。（→P. 517）

5 助手席側パワースライドドア開閉（約 1 秒長押し）

ドア解錠時に作動させることができます。

6 運転席側パワースライドドア開閉*（約 1 秒長押し）

ドア解錠時に作動させることができます。

7 パワーバックドア開閉*（約 1 秒長押し）

ドア解錠時に作動させることができます。

販売店で設定することにより、施錠時でも開作動させることができます。（→P. 517）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ドア施錠時のパワーバックドアの開閉について

販売店で設定することにより、施錠されている状態でもパワーバックドアを開けることができます。この場合、バックドアを閉めても施錠されないため、もう一度施錠操作を行ってください。(→P. 517)

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

パワースライドドア：ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

パワーバックドア：ブザーと非常点滅灯の点滅（2 回）で知らせます。（ブザーは作動開始時に 1 回、作動中は継続）

ドアガラス：ブザーで知らせます。*

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■電池の消耗について

→P. 62

■解錠操作のセキュリティ機能

→P. 64

■電池が切れたときは

→P. 430

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 66

■カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンでのドアガラス、パワーバックドアの操作や、ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 517）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■パワースライドドア、パワーバックドアの反転作動について

作動中に再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押すと、反転作動に切り替わります。ただし、自動開閉作動が開始して約 1 秒間は、再度ワイヤレスリモコンのスイッチを押しても反転作動に切り替わりません。

■制限事項について

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ <“ パワー ” スイッチ > が OFF 以外のときは、ワイヤレスリモコンが作動しません。

注意

■パワーバックドアの開閉について

バックドアの後方に十分な間隔があることを確認してください。壁などの障害物に当たり、バックドアが傷つくおそれがあります。

フロントドア

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム

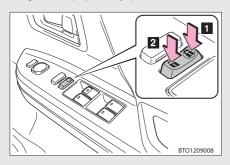
→P. 58

■ ワイヤレス機能

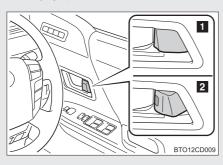
→P. 67

■ キー

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。（→P. 486）

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード < “ パワー ” スイッチがアクセサリーモードまたは ON モード > のときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能

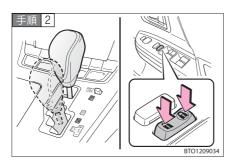
次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中 < ハイブリッドシステム作動中 > にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動 オートアンロック	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ < “ パワー ” スイッチ > を OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

▶ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

手順 1 すべてのドアを閉め、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード＜“パワー”スイッチを ON モード＞にする（その後 20 秒以内に手順 2 を行う）

シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。

機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	🔒
シフト連動オートアンロック		🔓
車速感応オートロック	N	🔒
運転席ドア連動オートアンロック		🔓

設定または解除の切り替え操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

▶ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

設定の変更は、ナビゲーションシステムの画面で行います。
(→P. 517)

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ムーンルーフ開警告ブザー（ムーンルーフ装着車）

リヤムーンルーフが閉まっていない状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチ<“パワー”スイッチ>を OFF にし、運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

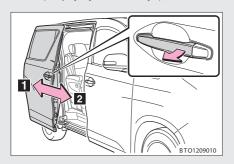
- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまをセカンドシート、サードシートに乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

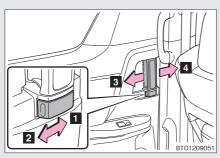
スライドドア

ドアハンドルやパワースライドドアスイッチ、ワイヤレス機能を使って開閉することができます。

■ スライドドアハンドル

1 開く

2 閉じる

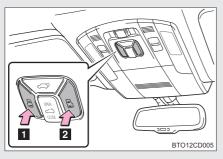
ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

■ インサイドドアハンドル、ロックレバー

1 施錠

2 解錠

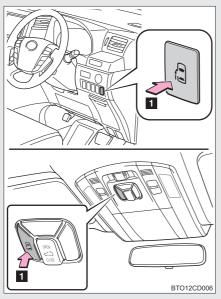
3 開く

4 閉じる

■ パワースライドドアスイッチ（両側パワースライドドア装着車）

1 助手席側スイッチ（約 1 秒長押し）

2 運転席側スイッチ（約 1 秒長押し）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切り替わりません。

■ パワースライドドアスイッチ
（助手席側パワースライドドア装着車）

1 助手席側スイッチ
（約 1 秒長押し）

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切り替わりません。

・運転席右側にスイッチがあります。（ツインムーンルーフ非装着車）
・オーバーヘッドコンソール部にスイッチがあります。（ツインムーンルーフ装着車）

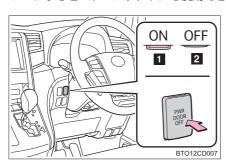
■ ワイヤレス機能

→P. 67

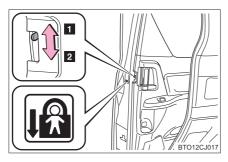
パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

OFF にするとパワーバックドアも使用できなくなります。（パワーバックドア装着車）

1 ON

ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

2 OFF

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります

1 解錠

2 施錠

お子さまが内側からスライドドアを開けないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。

知識

■給油口ストッパー

給油口が開いていると、助手席側のスライドドアは途中までしか開きません。（給油口ストッパーの位置で停止します。）

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

● “エンジン スタート ストップ”スイッチ <“パワー”スイッチ> が OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。

●イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。）

■パワースライドドアの作動可能条件

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワースライドドアが解錠されている

●給油口が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

●" エンジン スタート ストップ " スイッチがイグニッション ON モード <" パワー " スイッチが ON モード> のときは上記に加え、車速が 3km/h 未満かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

・シフトレバーが P のとき
・パーキングブレーキがかかっているとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について

●パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ハンドルを操作してブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。

●作動開始時にブザーが鳴ります。また、閉作動中はブザーが断続的に鳴ります。

●パワースライドドアメインスイッチがOFFのときは､パワースライドドアは作動しませんが、手動で開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。ただし、自動で開けているときに全開位置から約 5cm 手前の範囲で異常を感知すると、その位置で作動を停止する場合があります。

●連続して 2 回以上同方向への異常を感知すると、ブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。
もう一度ドアを自動で作動させるときは、メインスイッチを OFF にしたあと、ドアをいったん手動で全閉または全開にしてから行ってください。

■**給油口開警告ブザー**

助手席側パワースライドドア開閉中に給油口を開けるとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。このとき約 8 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

■**バッテリー < 補機バッテリー > を再接続したときは**

パワースライドドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

●スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にします。

■**挟み込み防止機構**

パワースライドドアの前端部には、センサー（ 1 ）がついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

■**サイドリフトアップシート装着車について**

サイドリフトアップシートが完全に上昇しきっていない状態で、パワースライドドアを閉めようとしても、ブザーが鳴りドアは自動で閉まりません。

⚠警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートベルトを必ず着用する
- ●すべてのドアを施錠する
- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない
- ●お子さまを乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする

■お子さまを乗せているときは

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ●お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

■スライドドアの操作にあたって

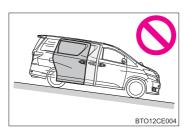
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

- ●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手、足、顔などを出さないでください。
- ●人がいるときは安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

警告

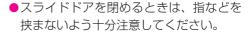
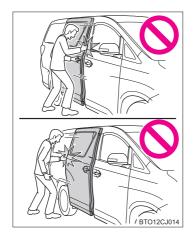
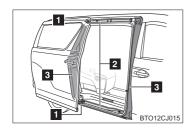
●半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜地での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。

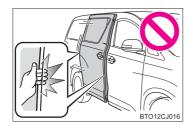
●スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます。）スライドドアが確実に固定されていないと不意に動き出すおそれがあります。

●スライドドアが給油口ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。

●傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアが体に当たったり挟んだりしないように注意してください。

●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

⚠警告

●スライドドアのアーム（1）やレール（2）およびピラー部（3）には、手足をかけないでください。

■イージークローザーについて

●スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

●イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引いても作動は停止しません。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

⚠ 警告

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切り替わります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件（→P. 77）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではスライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切り替わることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時＜ハイブリッドシステム停止時＞でパワースライドドアが自動作動しているときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード＜“パワー”スイッチを ON モード＞にしたりエンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動したりして、バッテリー＜補機バッテリー＞電圧が急に低下したとき

●ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

●チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。

警告

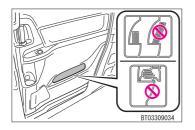
■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- ●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- ●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

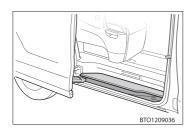
■スライドドアについて

- ●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

- ●スライドドアのドアポケットには、雑誌などをドアポケットからはみ出した状態で収納しないでください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりでなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷がついたり、故障につながるおそれがあります。(→P. 356)

⚠ 注意

■スライドドアについて

●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。

BTO1209036

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

■スライドドアイージークローザーについて

●イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■パワースライドドアについて

BTO1209058

パワースライドドア前端部のセンサー（ 1 ）を刃物などの鋭利なもので傷つけないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、ドアはただちに停止します。

バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開けることができます。

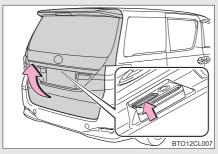
■ バックドアの解錠・施錠

▶ ドアロックスイッチ
→P. 70

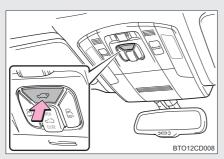
▶ スマートエントリー＆スタートシステム
→P. 57

▶ ワイヤレス機能
→P. 67

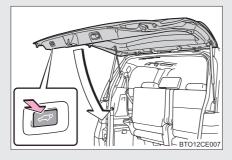
■ 車外からバックドアを開けるには

BTO12CL007

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

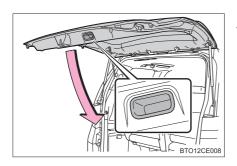
■ 車内からバックドアを開けるには（パワーバックドア装着車）

BTO12CD008

スイッチを約 1 秒長押しする

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切り替わりません。

■ 車外からバックドアを閉じるには（パワーバックドア装着車）

スイッチを押す

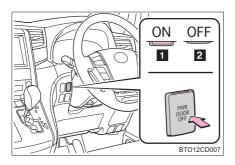
バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び開きます。

バックドアを閉めるときは

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

パワーバックドアを使用するときは（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアメインスイッチを ON にする

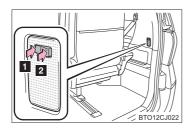
パワーバックドアメインスイッチは、パワースライドドアメインスイッチ（→P. 75）と兼用のため、OFF にするとパワースライドドアも使用できなくなります。

1 ON

ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

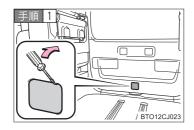
2 OFF

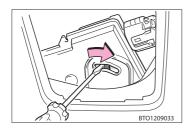
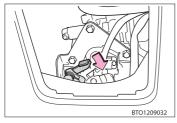
知識

■ラゲージルームランプについて

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

1 OFF
2 ON

■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

カバーをはずす。

手順 2 レバーを押す。

（イージークローザー非装着車）

（イージークローザー装着車）

■バックドアイージークローザー（イージークローザー装着車）

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動しバックドアが自動で閉まります。

●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ <“ パワー ”スイッチ > が OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワーバックドアが解錠されている

●“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モード<“パワー”スイッチが ON モード>のとき開作動するには上記に加え、車速が 3km/h 未満かつシフトレバーが P になっていることが必要です。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。また開閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワーバックドアメインスイッチが OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、手動操作に切り替わります。

●パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置から自動的にドアは反対方向に動きます。

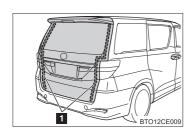
●連続して 2 回以上の閉方向の異常を感知するとブザーが鳴り、手動操作に切り替わります。

■バッテリー<補機バッテリー>を再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、下記の初期設定を行ってください。

●ドアロックスイッチでドアを解錠します。

●バックドアのバックドアハンドルを持って、手動で一度全閉にします。

■挟み込み防止機構（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの左右端部には、センサー（1）がついています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

⚠警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを車内に遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

BTO12CE013

- 半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

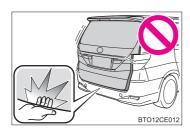
BTO12CE011

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないように十分注意してください。
- バックドアは必ず外から押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

警告

●バックドアダンパーステを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取りつけると、開けたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取りつけは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■**イージークローザーについて（イージークローザー装着車）**

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

●イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチが OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■**パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切り替わります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

警告

●自動開閉中に作動可能条件（→P. 89）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切り替わる場合があります。
この場合、傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが落ちる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切り替わることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン < ハイブリッドシステム > 停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード <“パワー”スイッチを ON モード > にしたりエンジン < ハイブリッドシステム > を始動したりして、バッテリー < 補機バッテリー > 電圧が急に低下したとき

●バックドアにキャリアなどの重いものを取りつけると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが落下し、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取りつけは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

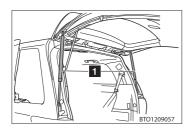
●挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

■**ダンパーステーについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステー（ 1 ）が取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

●ロッド部を軍手などで触れない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■**イージークローザーの故障を防ぐために（イージークローザー装着車）**

●イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、イージークローザーの故障の原因となります。

●バックドアの開け閉めを短時間に繰り返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

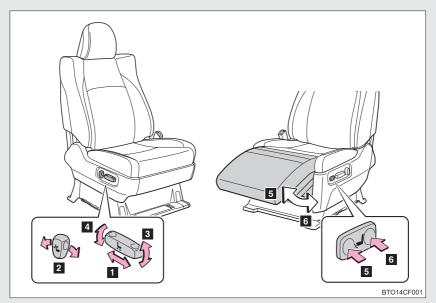
■**パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）**

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼りつきがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P. 89）を刃物などの鋭利なもので傷つけないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

フロントシート

▶ パワーシート装着車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 クッション前端の上下調整
（運転席のみ）

4 シート全体の上下調整
（運転席のみ）

5 オットマン角度調整
（助手席のみ）

6 オットマン角度調整、格納
（助手席のみ）

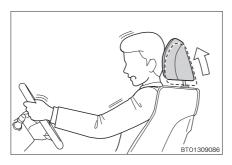
▶ マニュアルシート装着車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 クッション前端の上下調整（運転席のみ）

4 シート全体の上下調整（運転席のみ）

アクティブヘッドレスト

背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

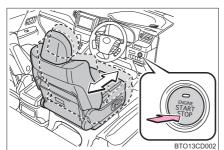
助手席側面スイッチ*

運転席またセカンドシートから助手席を操作できます。

1 リクライニング調整

2 前後位置調整

オートシートスライドアウェイ＆リターン機能*

運転者が乗り降りする際に、運転席シートが自動で、次のように動きます。

降車時：運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

乗車時：運転席シートがもとの位置※に移動（オートリターン機能）

※オートアウェイ機能が作動する前のシートの位置

知識

■アクティブヘッドレストについて

●背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

●解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げようとすると、ヘッドレストステーのサポートが見えますが、故障ではありません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について*

降車時に、シートの位置が最後方に近い位置にある場合、オートアウェイ機能を行わない場合があります。

■オートアウェイ機能の作動条件*

●次の条件を満たすと作動します。

・シフトレバーをPにする
・"エンジン スタート ストップ"スイッチ <"パワー"スイッチ> をOFFにする
・シートベルトのバックルをはずす
（車両カスタマイズ機能の「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）

●作動中に次の操作をすると作動が停止します。

・シフトレバーを操作する
・運転席のシート調整スイッチ（→P. 95）のいずれかを操作する
・ドライビングポジションメモリーの 1・2・3 いずれかのボタン（→P. 124）を押す

■オートリターン機能の作動条件*

●次の条件のいずれかを行うと作動します。

・"エンジン スタート ストップ"スイッチ<"パワー"スイッチ>をアクセサリーモードまたはイグニッションONモード<ONモード>にする
・運転席シートベルトのバックルを装着する
（車両カスタマイズ機能の「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）

●作動中に次の操作をすると作動が停止します。

・運転席のシート調整スイッチ（→P. 95）のいずれかを操作する
・ドライビングポジションメモリーの 1・2・3 いずれかのボタン（→P. 124）を押す
・車両を発進させる

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■オートシートスライドアウェイ＆リターン機能でのシートの作動について＊

- オートアウェイ機能作動中・オートアウェイ機能作動終了後に、運転席のシート調整スイッチ（→P. 95）のいずれかを操作、またはドライビングポジションメモリー（→P. 124）の操作をした場合、オートリターン機能は作動しません。
- エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動時にシートの作動が一時停止し、エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動後に作動が再開することがあります。
- オートリターン機能作動中に、車両を発進させるとシートの作動が停止します。停止したときは、車両を停止しシートの前後位置を適切な位置に調整してください。

■カスタマイズ機能

オートシートスライドアウェイ＆リターン機能のシートスライドを非作動にしたり、シートスライド量の変更ができます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 517）

⚠ 警告

■シート調整について

- シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■前後調整やオットマン＊の操作をするときは

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠警告

■オットマンの使用について*

●走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけががをするおそれがあります。

■オートシートスライドアウェイ＆リターン機能でシートが作動しているときは*

体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

⚠注意

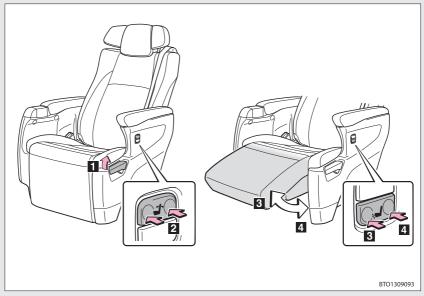
■オットマンの故障を防ぐために*

●足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。

●オットマン部分に重いものを乗せないでください。

●オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

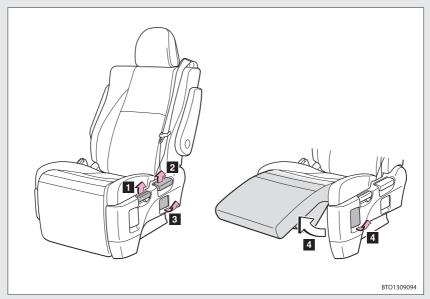
セカンドシート

▶ 7 人乗りパワーシート装着車

1 前後位置調整（手動）

2 リクライニング調整（電動）

3 オットマン角度調整（電動）

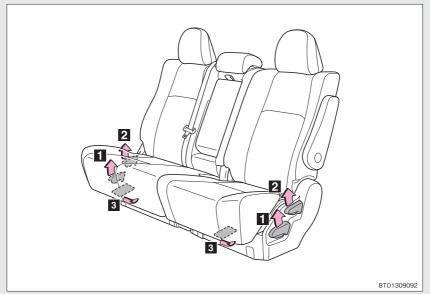
4 オットマン角度調整、格納（電動）

▶ 7 人乗りマニュアルシート装着車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 左右位置調整

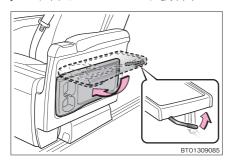
4 オットマン角度調整、格納

▶ 8 人乗り車

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 チップアップ操作（→P. 120）

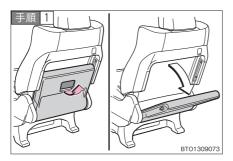
サードシートへの乗り降り

▶ 7 人乗りパワーシート装着車

センターテーブルを使用しているときは格納する。

▶ 7 人乗りマニュアルシート装着車、8 人乗り車

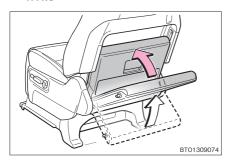
リクライニングレバー（1）を引く、または前倒しペダル（2）を踏む。

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

フロントシート背裏付フットレスト*

フットレストのロック解除レバーを引く。

ロックを解除すると、フットレストが中立位置まで下がります。

手順 2 中立状態のフットレストに足を乗せる。

■ 格納するときは

フットレストから足を離すと中立状態になり、その状態から手で押し込み格納する。

知識

■ セカンドシートアームレスト*

使用するときは、いっぱいまで前方に倒します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■シート調整について

●シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■サードシートへの乗り降りについて

サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

■前後調整やオットマンの操作をするときは

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■オットマンの使用について

●走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

警告

■フロントシート背裏付フットレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中はフットレスト操作をしない

●操作時は可動部や結合部に手や足を挟まない

●フットレストの上には絶対に乗らない

●格納時は確実に固定されていることを確認

●車を乗り降りするときや使用しないときは格納しておく

●フロントシートの乗員がシートの調整をするときは、足元に気をつける

注意

■フロントシートを前側に移動させているときは

フロントシートの土台部分に足をのせないでください。土台部分が損傷するおそれがあります。

■サードシートへの乗り降りについて

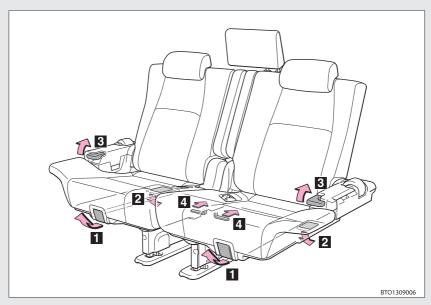
●可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートクッションを持ち上げているときは、前倒しペダルを通常よりも強く踏み込んでください。(8 人乗り車)

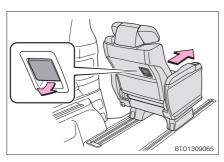
■オットマンの故障を防ぐために

●足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。

●オットマン部分に重いものを乗せないでください。

●オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

サードシート

1 前後位置調整（シート前方）
2 前後位置調整（シート裏側）
3 リクライニング調整（リクライニングレバー）
4 リクライニング調整（スペースアップレバー）

サードシートからのセカンドシートの操作について＊

セカンドシートを前後へ移動

セカンドシート背もたれのうしろ側にあるレバーを引き、前後に動かします。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■サードシート調整について

シートの裏側にあるレバーや、スペースアップレバーを操作してサードシートを調整するときは、バックドア側から行ってください。

警告

■シート調整について

- シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

■サードシートからのセカンドシートの操作について*

セカンドシートに乗員がいるときは操作をしないでください。
セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

注意

■サードシートからのセカンドシートの操作について*

操作するときはセカンドシートの足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヘッドレスト

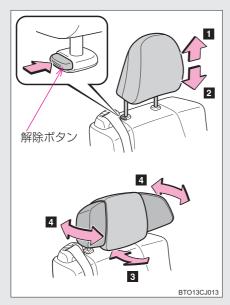
■ フロントシート

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

■ セカンドシート、サードシート

▶ 7 人乗り車セカンドシート、8 人乗り車セカンドシート（左右席）

1 上げる

2 下げる

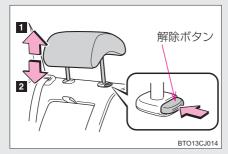
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

3 前後調整*

4 左右調整*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ 8 人乗り車セカンドシート（中央席）、サードシート

BTO13CJ014

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの取りはずし

BTO13CJ017

解除ボタンを押しながら取りはずします。

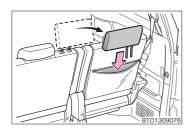
■ヘッドレストの高さについて

BTO14CF002

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■セカンドシート中央席、サードシートのヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から上げた位置にしてください。

■サードシート中央席のヘッドレストの収納について

運転席側サードシート背面のファスナーを開けてヘッドレストを収納します。

⚠警告

■ヘッドレストについて

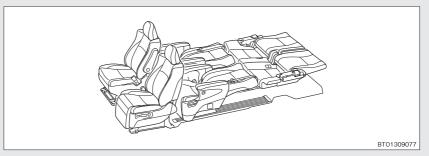
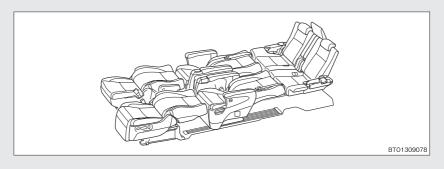
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

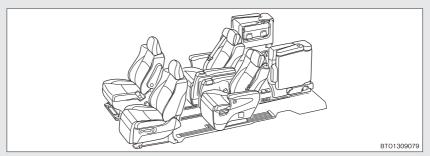
シートアレンジ

シートは状況に応じて次のようなアレンジを行うことができます。それぞれの説明ページを読んでから行ってください。

■ フラットシート

● セカンドシート、サードシートをフラットシート状態にするとき（→P. 115）

● フルフラットシート状態にするとき（→P. 116）

■ ラゲージモード

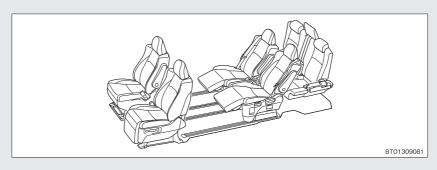
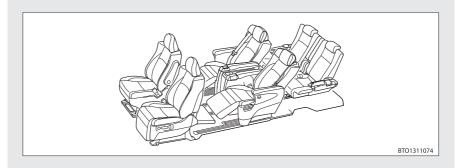
● サードシートを格納状態にするとき（→P. 117）

BTO1309079

● 最大ラゲージモードにするとき（→P. 119）

BTO1309080

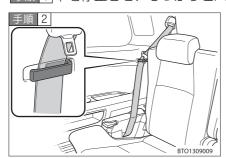
■ スーパーリラックスモード（7 人乗りマニュアルシート装着車）

→P. 120

BTO1309081

■ エグゼクティブモード（7人乗りパワーシート装着車）
→P. 120

BTO1311074

セカンドシート、サードシートをフラットシート状態にするとき

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

BTO1309009

サードシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟む。

中央席シートベルトはホルダーに格納します。（→P. 129）

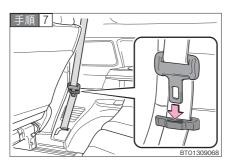
手順 3 サードシートをいちばん前まで移動させる。（→P. 108）

手順 4 サードシートのヘッドレストをはずす。（→P. 110）

中央席ヘッドレストは、運転席側サードシート背面に収納します。（→P. 112）

手順 5 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。（→P. 108）

手順 6 サードシートがバックドアに触れる位置までうしろに移動させる。（→P. 108）

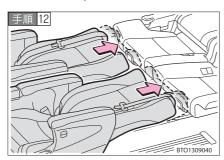
手順 7

8 人乗り車は、セカンドシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟み、プレートをクリップの穴部に挿し込む。

手順 8 セカンドシートをいちばん前まで移動させる。（→P. 101）

手順 9 7 人乗り車のマニュアルシートは、左右位置を中央に移動させる。（→P. 102）

手順 10 セカンドシートのヘッドレストをはずす。（→P. 110）

手順 11 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。（→P. 101）

手順 12

セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるようにシートを移動させる。（→P. 101）

フルフラットシート状態にするとき

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 サードシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟む。

中央席シートベルトはホルダーに格納します。（→P. 129）

手順 3 サードシートをいちばんうしろまで移動させる。（→P. 108）

手順 4 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる。（→P. 101）

手順 5 フロントシートをいちばん前まで移動させる。（→P. 95）

手順 6 フロントシートのヘッドレストをはずす。（→P. 110）

手順 7 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。（→P. 95）

手順 8 フロントシートとセカンドシートのすき間がなくなるようにセカンドシートを移動させる。(→P. 101)

手順 9 8 人乗り車は、セカンドシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟む。(→P. 116)

手順 10 7 人乗り車のマニュアルシートは、左右位置を中央に移動させる。(→P. 102)

手順 11 セカンドシートのヘッドレストをはずす。(→P. 110)

手順 12 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す。(→P. 101)

手順 13 セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるようにサードシートを移動させる。(→P. 108)

手順 14 サードシートの背もたれをバックドアに触れるまで倒す。(→P. 108)

知識

■サイドリフトアップシート装着車について

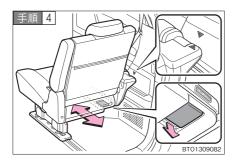
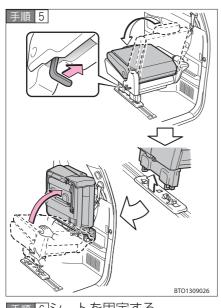
サイドリフトアップシートは、フラット状態にすることができません。

サードシートを格納状態にするとき

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

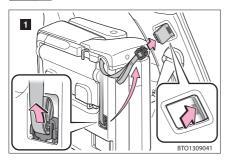
手順 2 サードシート左右席のシートベルトをシートベルトクリップに挟み、中央席シートベルトを格納する。(→P. 129)

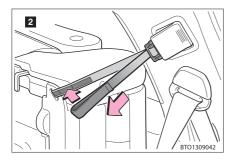
各シートベルトのバックルも格納します。

手順 3 サードシート中央席のヘッドレストを取りはずし収納する。(→P. 112)

サードシートを前後に動かし、シート側のマークをトリム側のマークに合わせる。

シートをはね上げる。

シート裏側のスペースアップレバーを引いて背もたれを倒し、シートをはね上げます。

・シートのはね上げと連動して、シート脚部が格納されます。

手順 6 シートを固定する。

1 シートクッション裏側にあるシート固定ベルトを取り出し、ロック部に挿し込みます。

ロック部は押して引き出します。

2 シートを手で押さえながら、シート固定ベルトを引っ張りシートを固定します。

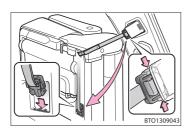
ベルトのたるみを取ったあと、マジックテープを密着させ固定します。

手順 7 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。

知識

■サードシートを格納するときは

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

■シート固定ベルトをはずすときは

シート固定ベルトのツメを押してはずし、シートクッション裏側に格納します。

・シートを押して、ベルトをゆるめた状態でツメを押します。

最大ラゲージモードにするときは

▶ 7 人乗り車

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

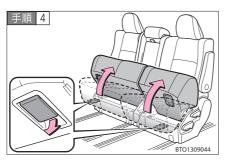
手順 2 サードシートを格納する。（→P. 117）

手順 3 セカンドシートをいちばん前まで移動させる。（→P. 101）

▶ 8 人乗り車

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。

手順 2 サードシートを格納する。（→P. 117）

セカンドシートの背もたれを一度前方に倒し、音がするまで少し後方にもどす。

シートクッション下のチップアップレバーを引き、クッションを持ち上げる。

手順 5 セカンドシートをいちばん前まで移動させる。(→P. 101)

スーパーリラックスモードのしかた(7人乗りマニュアルシート装着車)

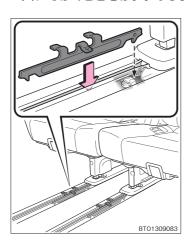
手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。
手順 2 サードシートをいちばんうしろまで移動させる。(→P. 108)
手順 3 センターテーブルを格納する。(→P. 368)
手順 4 セカンドシートの左右位置を中央に移動させる。(→P. 102)
手順 5 スライドストッパーをはずす。
手順 6 セカンドシートを後方へ移動させる。(→P. 102)
手順 7 オットマンを引き起こす。(→P. 102)

エグゼクティブモードのしかた(7人乗りパワーシート装着車)

手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける。
手順 2 サードシートをいちばんうしろまで移動させる。(→P. 108)
手順 3 セカンドシートを後方へ移動させる。(→P. 101)
手順 4 オットマンの角度を調整する。(→P. 101)
手順 5 フットレストを引き倒す。(→P. 105)

知識

■スライドストッパーについて

●スライドストッパーは紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくことをおすすめします。

●取りつけるときは、サードシート足元にあるレール内の穴に、スライドストッパーのツメを挿し込み取りつけてください。

警告

■シートアレンジについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●必ず平坦な場所でシフトレバーをPに入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。

●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。

●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートの間にシートベルト、バックルが挟みこまれていないか確認してください。

警告

■**フラットシートについて**

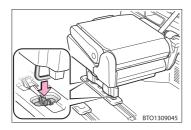
フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

■**シートの格納について**

●ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。

●シートベルトが背もたれや、シートクッションに挟まれていないことを確認してください。

●シートクッションの上に荷物などをのせたままシートを格納しないでください。

●シート格納時にシート固定ベルトで固定されていない場合、シート脚部が動き、荷物やシートが破損したり、けがをするおそれがあります。シートを格納したときは必ずシートを固定してください。

●シートをおろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。

⚠ 注意

■シートアレンジについて

●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

●シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■フラットシートについて

●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。（マニュアルシート）

●フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

■シートの格納、ラゲージモードについて

●セカンドシートのシートクッションを持ち上げたときは、シートクッションの土台部分に乗ったり、手や足を入れないでください。

●サードシートをおろすときは、シート脚部と床面ロック部の間に足を挟まないように注意してください。

●サードシートをおろすときは、床面に物がないことを確認してから行ってください。

●セカンドシートの位置や、サードシートの片側の背もたれが前に倒れている状態だと、サードシートが当たり格納できないことがあります。

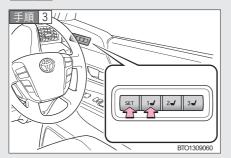
●サードシートを持ち上げるとき、またはおろすときはスライドレバーを操作しないでください。

ドライビングポジションメモリー*

お好みのドライビングポジション（運転席、ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。
ドライビングポジションは 3 パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

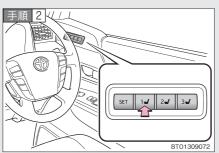
手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モード＜“ パワー ” スイッチを ON モード＞にする。

手順 2 運転席、ドアミラー角度を好みの位置に調整する。

SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に、1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーが P の位置にあることを確認します。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モード＜“ パワー ” スイッチを ON モード＞にする。

1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタン押す。

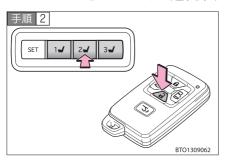
ポジションを呼び出しているときに、ブザーが鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠と連動させるには

お好みのポジションをあらかじめ１～３のいずれかのボタンに登録しておきます。

手順 1 " エンジン スタート ストップ " スイッチ <" パワー " スイッチ> を OFF にし、運転席ドアを閉める。

手順 2

１～３のうち連動させたいボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの 🔓 ボタンをブザーが鳴るまで押す。

スマートエントリー＆スタートシステム、またはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

知識

■ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 " エンジン スタート ストップ " スイッチ <" パワー " スイッチ> を OFF にし、運転席ドアを閉める。

手順 2 SET ボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの 🔓 ボタンをブザーが鳴るまで押す。

■" エンジン スタート ストップ "スイッチ <" パワー "スイッチ>OFF 時の作動

運転席ドアを開け、180 秒以内または運転席ドアを閉め 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、運転席が調整されます。

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めるには

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- １～３のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）

⚠ 警告

■ **シート調整時の警告**

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転者の体がハンドルで圧迫されたりしないよう注意してください。

シートベルト

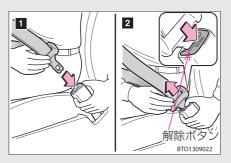
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

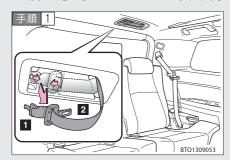
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方（フロントシート、セカンドシート、サードシート外側席）

1 固定

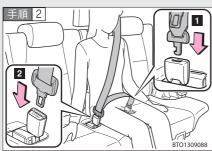
“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

■ 着け方（サードシート中央席）

プレートを取り出す

1 プレート A

2 プレート B

プレートをバックルに挿し込む

1 プレート A

2 プレート B

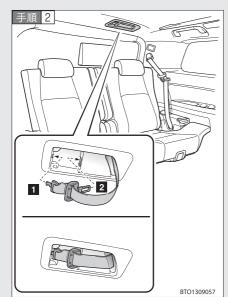
“カチッ”と音がするまで挿し込みます。

■分離・格納のしかた（サードシート中央席）

1 バックルの解除ボタンを押す。

2 メカニカルキーまたはプレートBをバックルに挿し込む。

メカニカルキー（→P. 55）

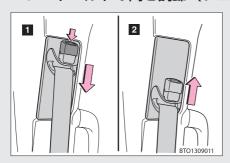
シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

プレートA、Bをホルダーに格納する。

1 プレートA

2 プレートB

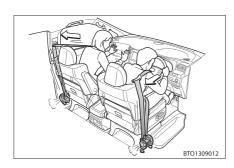
ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

・もとにもどすときは、逆の手順でプレートを取り出し、バックルにプレートを挿し込みます。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティ装着車のフロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 307）

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■サードシート中央席のシートベルトが引き出せないときは

シートベルトとホルダーの間に指を入れ、ベルトを矢印の方向に強く引いてから離すと引き出すことができます。

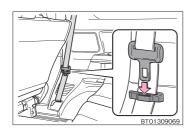
■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 168)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 127)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■セカンドシート左右席のシートベルトについて（8 人乗り車）

シートベルトを使用しないときは、シートベルトクリップに挟み、プレートをクリップに挿し込んでください。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一つにつき一人で使用する
  お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはセカンドシート、またはサードシートに座らせてシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用する
- ●シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させ着用する

警告

●サードシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックルを結合してください。

■**妊娠中の女性の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 127)
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しい着用をしてください。

■**お子さまを乗せるときは**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルからシートベルトがはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

⚠警告

■シートベルトの損傷・故障について

- ●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- ●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- ●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- ●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- ●プリテンショナー付シートベルトの取りつけ、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付シートベルトについて

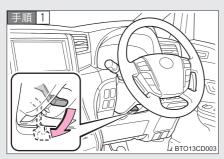
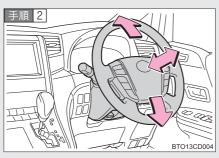
シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

⚠注意

■サードシート中央席シートベルトについて

使用しないときは、シートベルトを格納しておいてください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる。

ハンドルを上下･前後に動かし、適切な位置にする。

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

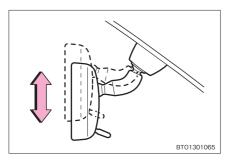
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

インナーミラー

座った姿勢に合わせて、後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

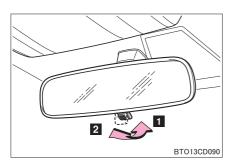
上下調整のしかた

BTO1301065

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

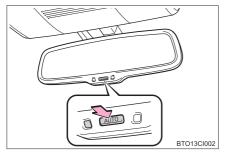
レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

BTO13CD090

1 通常使用時

2 防眩時

▶ 自動防眩ミラー

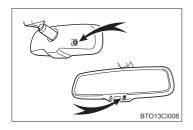
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

BTO13CI002

自動防眩機能の切り替え
ＯＮ／ＯＦＦ

ＯＮ のときはインジケーターが点灯します。
“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモード<“パワー”スイッチを ON モード>にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ＯＮ になっています。
ボタンを押すと ＯＦＦ になりインジケーターが消灯します。

知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

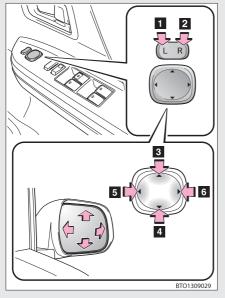
BTO13CI008

センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。

警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ <“ パワー ” スイッチ > がアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード <ON モード > のとき、スイッチで鏡面の角度調整をします。

ミラーを選ぶ

1 L：左

2 R：右

スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する

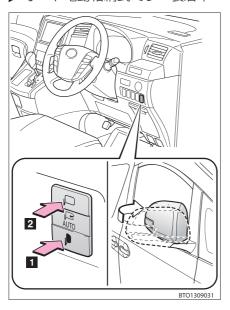
3 上

4 下

5 左

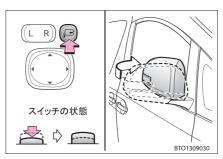
6 右

ドアミラーを格納するときは

▶ オート電動格納式ミラー装着車

1 格納する

2 もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（AUTO）にすると自動モードに切り替わり、ドアの施錠・解錠と連動します。

▶ オート電動格納式ミラー非装着車

ボタンを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

知識

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

リヤウィンドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 334）

■ミラー角度の自動調整*

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 124）

■リバース連動機能*

ミラー選択スイッチが L または R の位置になっているときは、後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R の間）にしてください。

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。
鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光を当てることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能も持っています。

- 次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光を当てることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 383）を行ってください。
  - ・鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手で触れたり汚れた布などでふいたとき
  - ・洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
  - ・地下・屋内駐車場などの日の当たらない場所に長時間駐車したとき
- 次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。
  - ・鏡面にシリコーン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
  - ・鏡面に傷をつけたとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ワイドビューミラーについて

通常よりも広い視界が確保できるよう、ミラー下側の曲率が違うため、ミラー下側に映るものは、実際よりも遠くにあるように見えます。

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるので触れないでください。

注意

■レインクリアリングミラーの取り扱いについて

- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。
  親水膜の効果を持続させるため、鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
- 砂のついた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷つけるものでこすらないでください。

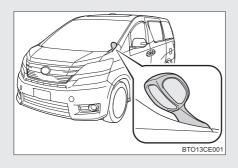
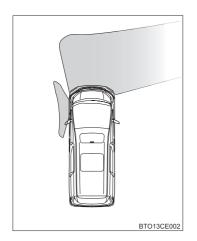
補助確認装置＊

発進時またはごく低速時に、車両前方と助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

BTO13CE001

知識

■ミラーに映るおよその範囲

BTO13CE002

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式ですので鏡面を動かしてミラーの調整をすることはできません。

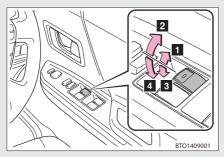
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■**補助確認装置について**

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、柔らかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー、ドアミラーなども併用し十分注意してください。

パワーウインドウ

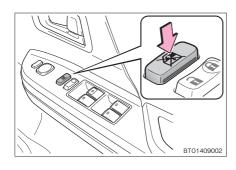
スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める

2 自動全閉※

3 開ける

4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラス、リヤムーンルーフ*を作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスやリヤムーンルーフを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モード＜“パワー”スイッチが ON モード＞のとき

■“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞OFF 後の作動

“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞をアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 43 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能*

●ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでドアガラスを開閉できます。（→P. 67, 486）

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアガラスを閉めることができます。（→P. 57）

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。また、故障などで挟み込み防止機能が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると閉めることができます。ただし、挟み込み防止機能は作動しません。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

●車を停止し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード <“パワー”スイッチを ON モード> の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける。

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける。

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける。

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

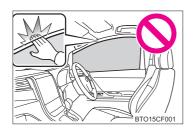
■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 517）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

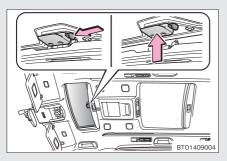
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

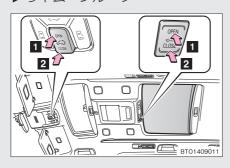
ツインムーンルーフ＊

フロントムーンルーフのチルトアップ／ダウン、天井にあるスイッチでリヤムーンルーフを開閉できます。

▶フロントムーンルーフ

チルトアップ

ボタンを押しながらハンドルを押し上げます。

閉めるときは“カチッ”と音がするまで引き下げます。

▶リヤムーンルーフ

1 開く

全開の少し手前で止まります。（風切音の低減機能）さらに開く場合は、スイッチをもう一度押してください。

2 閉まる

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

知識

■リヤムーンルーフの作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モード＜“パワー”スイッチが ON モード＞のとき
ただし、パワーウインドウのロックスイッチがロック状態のときは作動しません。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■挟み込み防止機能

リヤムーンルーフを閉めるときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■リヤムーンルーフを閉めることができないとき

故障などで挟み込み防止機能が作動してしまい、リヤムーンルーフを自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けることで閉めることができます。

■リヤムーンルーフが反転して閉じ切らないときは

下記の操作を行ってください。

CLOSE 側を押し続ける。※

・スイッチを押し続けている間リヤムーンルーフが開閉作動を繰り返します。
・リヤムーンルーフが全閉したら復帰操作が完了します。

※ 復帰操作作動中はスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから手を離すと最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■サンシェード

手動で開閉できます。リヤサンシェードは、リヤムーンルーフを開けると連動して開きます。

■ムーンルーフ開警告ブザー

リヤムーンルーフが閉まっていない状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞を OFF にし、運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。
また、同時にメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→P. 457)

■風切音の低減機能

自動で開いたときに停止する位置（全開手前位置）で走行すると、風切音を低減できます。

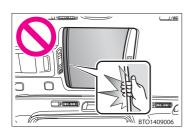
警告

■ムーンルーフを開けているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤムーンルーフを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- お子さまには、ムーンルーフの操作をさせないでください。
  ムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能（リヤムーンルーフ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、リヤムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

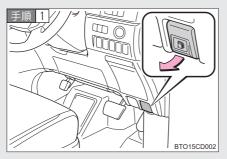
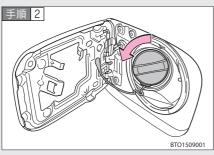
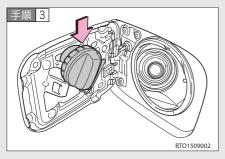
給油口の開け方

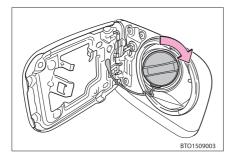
次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

● 燃料の種類を確認してください（→P. 151）

● “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ <“ パワー ” スイッチ > を OFF にして、ドアと窓を閉めてください。

■ 給油口の開け方

給油口を開ける。

キャップをゆっくり回して開ける。

キャップをハンガーにかける。

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

2GR-FE エンジン車：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。

2AZ-FE エンジン車：無鉛レギュラーガソリン

2AZ-FXE エンジン車：無鉛レギュラーガソリン

警告

■給油について

給油前には次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
  放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
  キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
  ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近づけない

警告

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

●ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。

・給油口にノズルを確実に挿入する
・継ぎ足し給油をしない

●そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示にしたがってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジン出力が低下する

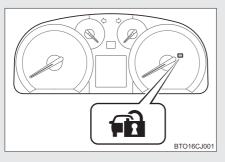
●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

●塗装が損傷する

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジン < ハイブリッドシステム > を始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

BTO16CJ001

"エンジン スタート ストップ" スイッチ <"パワー" スイッチ> を OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、"エンジン スタート ストップ" スイッチ <"パワー" スイッチ> をアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード<ON モード>にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- 電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 電子キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム*

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

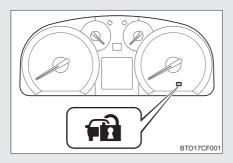
■ オートアラームが作動するとき

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

● 施錠されたドアがスマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、メカニカルキーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき

● ボンネットが開けられたとき

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車で、G-BOOK mX Pro をご利用のお客様は、オートアラームが作動した場合、E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、「ナビゲーションシステム取扱書 /G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉めスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除および作動を停止するには

次のいずれかを行ってください。

● スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、メカニカルキーを使ってドアまたはバックドアを解錠する

● エンジン < ハイブリッドシステム > を始動する(数秒後に解除、停止します)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

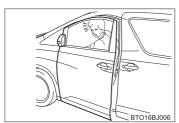
●車内に人が乗っていないか

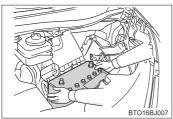
●ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか

●車内に貴重品などを放置していないか

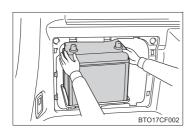
■オートアラームの作動について

次のような場合オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除、作動を停止する操作を行ってください。

BTO16BJ006

●車内に残った人が、ドア、ボンネットを開けたとき

BTO16BJ007

ガソリン車

●施錠後、バッテリーあがりなどで充電や交換をしたとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ハイブリッド車

●施錠後、補機バッテリーあがりなどで充電や交換をしたとき

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

●オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。

●オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがり＜補機バッテリーあがり＞などで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 95）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 95）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 135）

5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる（→ P. 110）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 127）

警告

■走行中は

● 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

● 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

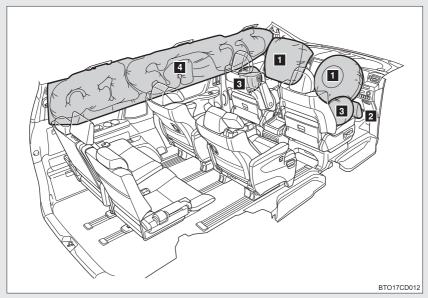
● フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

● 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

● シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

2 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

3 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

4 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とセカンドシート、サードシート外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

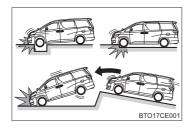
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

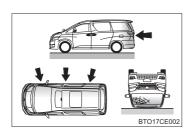
■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 k m/ h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき

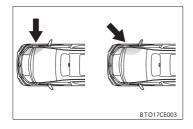
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。

- ●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- ●側面からの衝突
- ●後方からの衝突
- ●横転

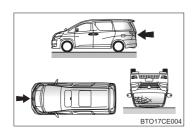
■SRS エアバッグが作動しないとき
（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

BTO17CE003

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

BTO17CE004

●前方からの衝突

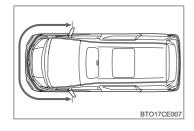
●後方からの衝突

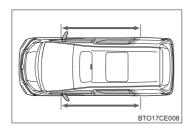
●横転

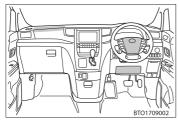
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

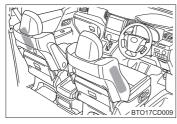
次のような場合には、修理・点検等が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

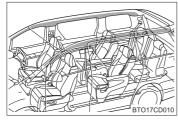
●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

BTO17CE007

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17CE008

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO1709002

●ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO17CD009

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO17CD010

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

● SRS エアバッグは強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合はとくに危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

● お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→P. 180)

● シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

● お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。

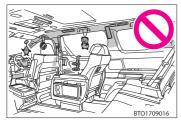
● 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

警告

■SRS エアバッグについて

●ドアやフロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

●サイドガラスに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

●ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部などには何も取りつけたり、置いたりしない。

●ドア、フロントガラス、サイドガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取りつけない。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS　エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●SRS エアバッグの取りはずし・取りつけ・分解・修理
- ●ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- ●フロントフェンダー、フロントバンパー、車内側面部の修理、改造
- ●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取りつけ
- ●サスペンションの改造
- ●CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取りつけ

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0+　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取りつけ器具の記号になります。

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^+ に相当

▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^+、I に相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）（ガソリン車）

質量グループ	着席位置（または他の場所）			
	フロントシート	セカンドシート		
		７人乗り車	８人乗り車	
	助手席	左右席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	U	U
0+（13kg まで）	×	U	U	U
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き　UF うしろ向き ×	U	U	U
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF	U	U	U
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF	U	U	U

質量グループ	着席位置（または他の場所）	
	サードシート	
	左右席	中央席
0（10kg まで）	U	×
0+（13kg まで）	U	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	U	×
Ⅱ（15 ～ 25kg）	U	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）	U	×

● 表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取りつけることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取りつけ）（ハイブリッド車）

質量グループ	着席位置（または他の場所）	
	フロントシート	セカンドシート
	助手席	左右席
0（10kgまで）	×	U
0^+（13kgまで）	×	U
Ⅰ（9～18kg）	前向き　L うしろ向き　×	U
Ⅱ（15～25kg）	L※	U
Ⅲ（22～36kg）	L※	U

質量グループ	着席位置（または他の場所）	
	サードシート	
	左右席	中央席
0（10kgまで）	U	×
0^+（13kgまで）	U	×
Ⅰ（9～18kg）	U	×
Ⅱ（15～25kg）	U	×
Ⅲ（22～36kg）	U	×

● 表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

L：子供専用シートのリストに示す特定の子供専用シートに適しています。
（リストに記載があれば「特定自動車」、「限定」、「準汎用」カテゴリーの子供専用シートにも適しています。）

×：子供専用シートを取りつけることはできません。

※車両座席のヘッドレストが、子供専用シートに当たり、バックレスト（子供専用シートの裏側）と車両座席シートバックに隙間ができる場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

子供専用シートのリスト（ハイブリッド車）

▶ 助手席

質量グループ	子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
0+ （13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅰ（9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether	汎用
Ⅱ（15 ～ 25kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用
Ⅲ（22 ～ 36kg）	トヨタ純正 ジュニアシート	汎用

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取りつけ）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			セカンドシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0^+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取りつけることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0 （10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0+ （13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO BABY	準汎用

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取りつけ専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、セカンドシート、またはサードシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取りつけるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 170、172)を参照し、子供専用シートを取りつけ可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 174)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する。

(例 1):体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。

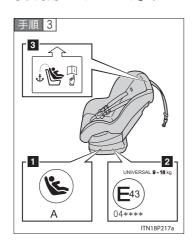
(例 2):体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する。

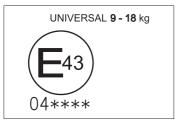
手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1):質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例2):質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 175)で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク/ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する。

汎用(ユニバーサル)子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 180）を示すマーク

商品の取りつけ装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

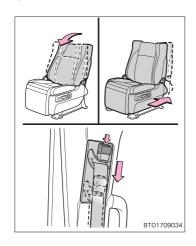
A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取りつけるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取りつけてください。

▶ ガソリン車

- ●背もたれを直立状態にする
- ●シートをいちばんうしろに下げる
- ●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

▶ ハイブリッド車

- ●ヘッドレストを取りはずす
- ●背もたれを直立状態にする
- ●シートをいちばんうしろに下げる
- ●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取りつけることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

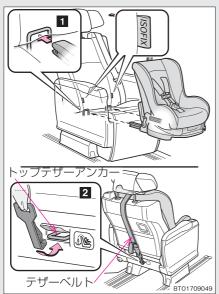
⚠ 警告

■子供専用シートを使用しない場合

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取りつけた状態にしてください。シートにしっかりと固定されていない状態で客室内に置くことは避けてください。固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに子供専用シートが動いて乗員に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、荷室内に収納し、しっかりと固定しておいてください。固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに子供専用シートが動いて乗員に当たるなどして、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

チャイルドシートの取りつけ

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシート、またはサードシートに取りつけてください。
取りつけ方法は、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。

シートベルトによる取りつけ
(→ P. 181)

1 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→ P. 183)

セカンドシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています。)

2 トップテザーアンカー
(→ P. 184)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはセカンドシートの外側の座席に装備されています。

シートベルトで固定する

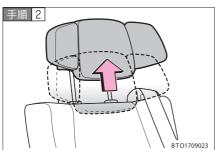
手順 1 背もたれの角度を調整する。

●背もたれをいちばん前にします。（7 人乗りパワーシート装着車）

●いったん背もたれを前に倒してから、一段目の固定位置まで起こします。（7 人乗りマニュアルシート装着車、8 人乗り車）

手順 2

ヘッドレストをいちばん上まで上げる。

手順 3

チャイルドシート本体をセカンドシートに置く。

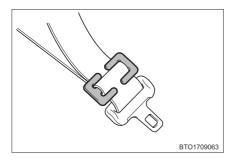
セカンドシートの背もたれとの間にすき間ができないようにしてください。

手順 4

シートベルトを引き出し、ねじれがないか確認しながら、シートベルト通し位置に通す。

シートベルトの通し方は、商品によって異なるため、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。

チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

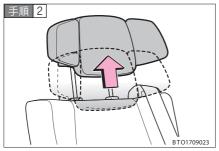
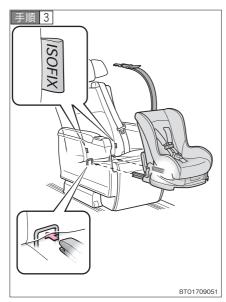
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取りつけ後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

背もたれの角度を調整する。

チャイルドシートが取りつけられる角度まで倒します。

・マニュアルシートは、背もたれが固定されていることを確認します。

ヘッドレストをいちばん上まで上げる。

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取りつける。

固定専用バーは、シートクッションと背もたれの間にあります。

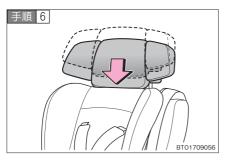
チャイルドシートの取りつけ金具をチャイルドシート固定専用バーに取りつけます。
取りつけ方法は、それぞれの商品付属の取扱説明書にしたがってください。

背もたれの角度を調整する。

チャイルドシートが安定するまで起こします。

・マニュアルシートは、背もたれが固定されていることを確認します。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

ヘッドレストをいちばん下まで下げる。

取りつけたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取りつけられていることを確認する。

警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してセカンドシートまたはサードシートに取りつけてください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取りつけるときは

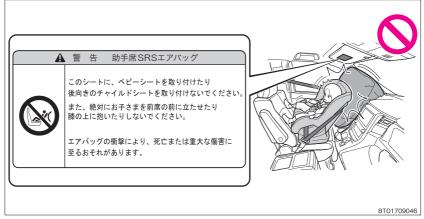
●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルからシートベルトがはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているかを確認してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取りつけるときは

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取りつけられない場合は、助手席側のセカンドシートに取りつけてください。

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取りつけないでください。
うしろ向きに取りつけていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

警告

■チャイルドシートを取りつけるときは

BTO1709062

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取りつける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取りつけてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

注意

■サイドリフトアップシート装着車のトップテザーアンカーについて

BTO1709047

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

▶ ガソリン車

■ エンジンをかける（→P. 203）

▶ ハイブリッド車

■ ハイブリッドシステムを始動する（→P. 208）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。
（→P. 217、222）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 226）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

▶ ガソリン車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。
（→P. 217、222）

▶ ハイブリッド車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→P. 217、222）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。（→P. 226）

手順 3 シフトレバーを P にする。（→P. 217、222）

▶ ガソリン車

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてエンジンを止める。

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

▶ ハイブリッド車

手順 4 “ パワー ” スイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止する。

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

知識

■ヒルスタートアシストコントロール（ガソリン車）*について

ヒルスタートアシストコントロールにより、急な上り坂やすべりやすい上り坂からの発進を容易に行うことができます。（→P. 305）

■燃費を良くする走り方（ハイブリッド車）

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。P. 53 の 「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について（ガソリン車）

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■運転標識の取りつけ

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取りつけることはできません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■環境に配慮した運転をするには（ガソリン車）

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。
次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトポジションが D 以外のとき

●車速が約 100km/h 以上のとき

警告

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■発進するときは

車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジンがかかったまま <READY インジケーターが点灯している状態で > 停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。
クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

警告

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気がつかない場合があります。車両接近通報装置を ON にしても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気がつかない場合がありますので、十分注意して運転してください。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

●前進側のシフトレバーのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

⚠ 警告

- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P にしないでください。
  機械に重大なダメージを与えると共に、車両がコントロールを失う場合があります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R にしないでください。
  機械に重大なダメージを与えると共に、車両がコントロールを失う場合があります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
  機械に重大なダメージを与えると共に、車両がコントロールを失う場合があります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジン＜ハイブリッドシステム＞の動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止しないでください。走行中にエンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 506を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
  フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 216、P. 222）
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジン＜ハイブリッドシステム＞の破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

●シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員に当たったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■すべりやすい路面を運転するときは

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。（ガソリン車）
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。（ハイブリッド車）
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたまま＜長時間 READY インジケーターが点灯したまま ＞にしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中 <READY インジケーターが点灯しているとき ＞は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■駐車するときは

●必ずパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏んだときに急発進するおそれがあります。また、車から離れるときは、必ずエンジン <ハイブリッドシステム> を停止し、施錠してください。
ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取りつけないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●エンジン回転中<READYインジケーターが点灯しているとき>またはエンジン <ハイブリッドシステム> 停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたまま<ハイブリッドシステムを作動させたまま> にしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 排気が悪い場所ではエンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止してください。とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

必ずエンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止してください。
エンジンをかけたまま <READY インジケーターが点灯した状態のまま > 仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジン＜ハイブリッドシステム＞の異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■**ブレーキをかけるときは**

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。
また、下り坂や急カーブを避けてください。（ガソリン車）
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。（ガソリン車）
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。（ハイブリッド車）
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。（ガソリン車）

●ブレーキシステムは３つの独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、のこりは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）の点灯と同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。
（ハイブリッド車）

警告

■万一脱輪したときは（ガソリン車は 4WD オートモード作動時）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
脱出できないときは、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

注意

■運転中は

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

⚠注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ●ハンドルがとられる
- ●異常な音や振動がある
- ●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 466 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- ●エンストする
- ●電装品がショートする
- ●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン、トランスアクスル、トランスファー（4WD 車）、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化（ガソリン車）
- ●エンジン･ハイブリッド用トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化（ハイブリッド車）
- ●プロペラシャフト（ガソリン車の 4WD 車）、各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ（ガソリン車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを切り替えることができます。

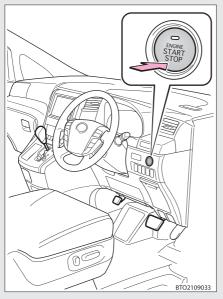
■ エンジンの始動方法

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

どのモードからでもエンジンを始動できます。

■ エンジンの停止方法

手順 1 車両を停止させる

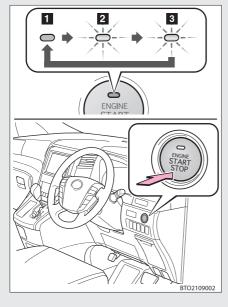
手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 226）

手順 4 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

■ “エンジン スタート ストップ”スイッチ切り替え

ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。(スイッチを押すごとにモードが切り替わります)

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

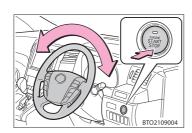
手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーを P の位置にする。

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを 1 回押す。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する。

知識

■ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してください。

ステアリングロックが解除されていないときは“ エンジン スタート ストップ ”スイッチのインジケーターが緑色に点滅します。

■エンジンが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P. 153)
トヨタ販売店へご連絡ください。

■“ エンジン スタート ストップ ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ ” スイッチが自動で OFF になります。

■クランキングホールド機能

エンジン始動操作をしてすぐ手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大 25 秒間保持します。
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約 25 秒間です。約 25 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 62

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 486

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 66

■ご留意いただきたいこと

→P. 63

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P. 506)
ただし、緊急時以外は走行中に “ エンジン スタート ストップ ” スイッチに触れないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パワー（イグニッション）スイッチ（ハイブリッド車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動または“パワー”スイッチのモードを切り替えることができます。

■ ハイブリッドシステムの始動方法

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

“パワー”スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

“パワー”スイッチを押す

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動します。

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

どのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

■ ハイブリッドシステムの停止方法

手順 1 車両を停止させる

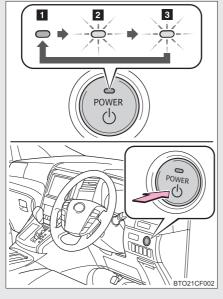
手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 226）

手順 4 “パワー”スイッチを押す

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離して“パワー”スイッチ上のインジケーターが消灯していることを確認する

■ “パワー”スイッチ切り替え

ブレーキペダルを踏まずに“パワー”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。(スイッチを押すごとにモードが切り替わります)

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したときは

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、“ パワー ”スイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

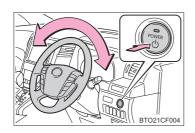
手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーを P の位置にする。

手順 3 “ パワー ”スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、“ パワー ”スイッチを 1 回押す。

手順 4 “ パワー ”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する。

知識

■ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、“ パワー ” スイッチを押してください。

ステアリングロックが解除されていないときは“ パワー ” スイッチのインジケーターが緑色に点滅します。

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリーモードか ON モード（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしたままにしておくと、“パワー”スイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、駆動用電池付近から“コトン”、“カチッ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 62

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 66

■ご留意いただきたいこと

→P. 63

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P. 153）
トヨタ販売店へご連絡ください。

■"パワー"スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADYインジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P. 454

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 486

■"パワー"スイッチの操作について

"パワー"スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せていない場合は、モードの切り替えやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

警告

■ハイブリッドシステムを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、“パワー”スイッチを3秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→P. 506)
ただし、緊急時以外は走行中に“パワー”スイッチに触れないでください。走行中にハイブリッドシステムが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

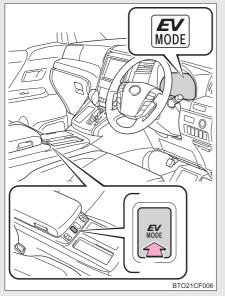
- ハイブリッドシステム停止中は、“パワー”スイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、“パワー”スイッチのインジケーターが消灯していない場合、“パワー”スイッチが OFF になっていません。“パワー”スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

EV ドライブモード（ハイブリッド車）

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、エンジン音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。（→P. 30）

EV ドライブモードの ON･OFF を切り替える

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

知識

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切り替えについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切り替えることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの切り替えについて

次のとき※は EV ドライブモードに切り替わらない場合があります。EV ドライブモードに切り替わらないときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントデフロスターを使用しているとき

※状況により、上記の他にも EV ドライブモードに切り替わらない場合があります。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

●駆動用電池の充電量が低下したとき

●車速が約 25km/h を超えたとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は、車速約 25km/h 以下で、数百 m から 1km 程度です。（走行可能距離は、駆動用電池の充電量やハイブリッドシステムの状況によって異なります）

■走行モード（→P. 223）の切り替えについて

EV ドライブモードとエコドライブモードは併用することができます。

■燃費について

ヴェルファイアハイブリッドは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

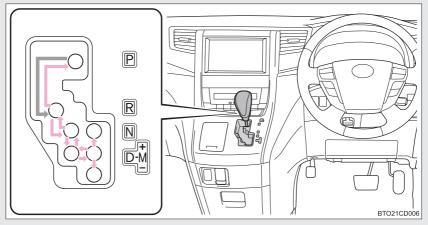
警告

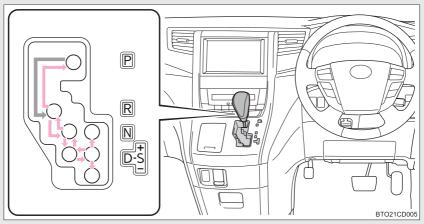
■EV ドライブモードについて

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気がつかない場合があります。とくに車両接近通報装置を OFF にしている場合は、十分注意して運転してください。

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車

← “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

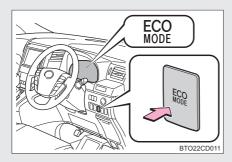
▶ 2GR-FE エンジン搭載車

← “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	2AZ-FE エンジン搭載車	2GR-FE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※1	
M	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行 (→P. 218)	
S		S モード走行※2 (→P. 218)

※1　D ポジションを使用することで、その時の走行状況に最適な変速比・ギヤ段が自動で選択されます。通常は D ポジションを使用してください。

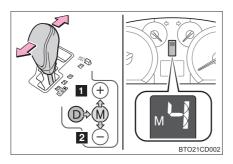
※2　S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキ力を切り替えたり、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えた走行ができます。

■ エコドライブモードの選択

エコドライブモード

車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。
ECO MODE表示灯が点灯します。

- もう一度スイッチを押すと、通常走行モードにもどります。
- エコドライブモードが ON の状態は “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしても記憶されています。

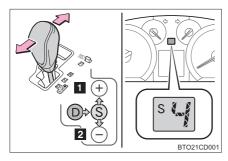
7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切り替え

シフトレバーを M の位置にして、シフトレバーを操作します。
(2AZ-FE エンジン搭載車)

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。
1 ～ 7 の間で選択されている変速段がメーターに表示されます。

S モードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーを S の位置にして、シフトレバーを操作します。
(2GR-FE エンジン搭載車)

1 シフトレンジアップ

2 シフトレンジダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 レンジずつかわります。
シフトレバーをシフトレンジアップ側へ保持すると 6 レンジに設定されます。
1 ～ 6 の間で選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて 5 レンジもしくは 4 レンジに設定されます。ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれにしたがい、初期のシフトレンジが 3 レンジになる場合があります。(→P. 221)

■ シフトレンジ機能（2GR-FE エンジン搭載車）

● 車速や走行状況に応じて、1 ～ 6 のシフトレンジを自動的に選択します。ただし、選択したシフトレンジに応じて最高ギヤ段は制限されます。

● エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。

● より大きなエンジンブレーキ力を使用するときは、シフトレンジの数字を小さくしてください。

知識

■7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について（2AZ-FE エンジン搭載車）

●エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 段シフトアップされます。

●エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に 1 段シフトダウンされます。

■S モードに関する自動変速について（2GR-FE エンジン搭載車）

●エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に1レンジずつシフトレンジアップされます。

●トランスミッションフルードの温度が高くなると、オートマチックトランスミッションの保護のため、自動的にシフトレンジアップされます。

■シフトダウン制限警告ブザー（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード、または S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウン（S モードはシフトレンジダウン）が行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 484

■レーダークルーズコントロール*、クルーズコントロール*を使って走行しているとき

2AZ-FE エンジン搭載車：
エンジンブレーキを目的に 7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行中で M6 または M5、M4 へシフトダウンしてもクルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。（→P. 265）

2GR-FE エンジン搭載車：
エンジンブレーキを目的に S モード走行中で 5 レンジまたは 4 レンジへシフトレンジダウンしてもクルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。（→P. 265, P. 275）

■シフトレバーを M、または S にしても、シフトポジション・シフトレンジ表示部に M、または S 表示灯が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■M ポジションで走行中に停車したときは
（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

・ 停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
・ 停止後走行するときは M1 からの発進となります。
・ 停止後は M1 に固定されます。

■NAVI・AI-SHIFT *について

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■AI-SHIFT について

●AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切な変速比・ギヤ段切り替えを行います。

●AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。シフトレバーを M（2AZ-FE エンジン搭載車）、または S（2GR-FE エンジン搭載車）にすると、機能が解除されます。

警告

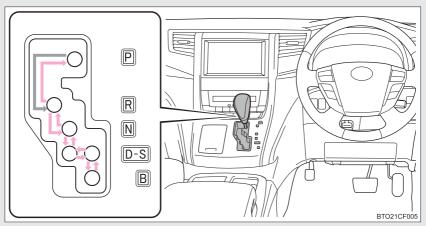
■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

トランスミッション（ハイブリッド車）

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

（←）“パワー”スイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。
P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

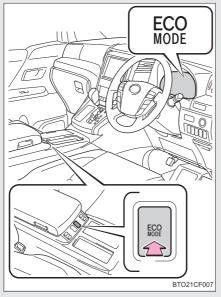
■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※　燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

■ エコドライブモードの選択

エコドライブモードは車両駆動力とエアコン（暖房 / 冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

BTO21CF007

エコドライブモードスイッチを押す

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。

知識

■ エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。
空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整、またはエコドライブモードの解除してください。

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 484

■クルーズコントロール*またはレーダークルーズコントロール*を使用して走行しているとき

エンジンブレーキを目的に D で走行中に S にしても、クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。（→P. 265、275）

■EV ドライブモード時の走行モードの切り替えについて

→P. 213

警告

■すべりやすい路面では

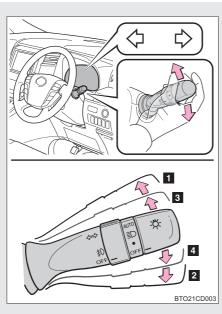
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

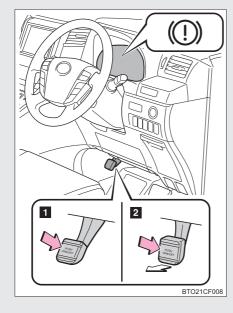
知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード＜“ パワー ” スイッチが ON モード＞のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかける

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

2 パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキがかかっている状態で、再度パーキングブレーキを踏み込みます。

知識

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 447

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 315

警告

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

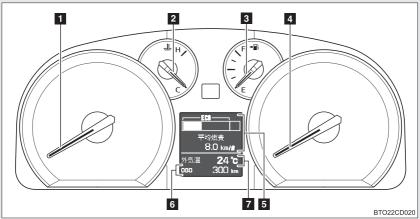
ハンドルの [ホーンマーク] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 135）

計器類

▶ ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車（ガソリン車）

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。（→P. 239）

6 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

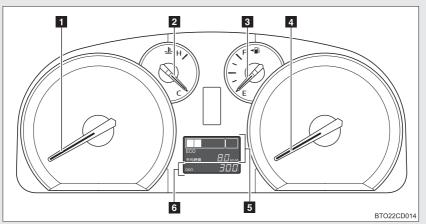
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップA、トリップBの２種類で使い分けることができます。

7 外気温表示

外気温度を表示します。

▶ セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車（ガソリン車）

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

3 燃料計

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。(→P. 239)

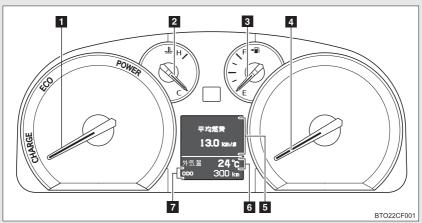
6 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

▶ ハイブリッド車

“パワー”スイッチを ON モードにするとメーターが点灯します。

1 ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。

2 水温計

ガソリンエンジン冷却水の温度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。(→P. 239)

6 外気温表示

外気温度を表示します。

7 オドメーター、トリップメーター

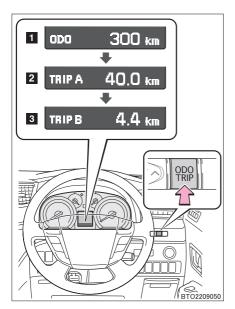
● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップA、トリップBの2種類で使い分けることができます。

表示切り替えボタン

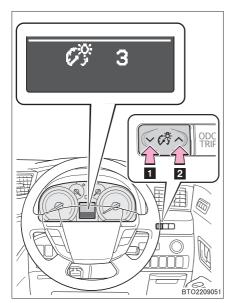
ボタンを押すごとに次のように切り替わります。

1 オドメーター

2 トリップメーターA ※

3 トリップメーターB ※

※ 長押しで0にもどります。

メーター照度調整スイッチ

メーター照明の明るさを調整できます。

1 暗くなる

2 明るくなる

スイッチを押すとマルチインフォメーションディスプレイの表示が切り替わります。

・車幅灯消灯時と点灯時それぞれ 8 段階に、明るさのレベルを調整することができます。

知識

■**減光について**

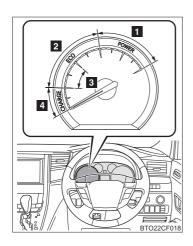
周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明が減光されます。
周囲が明るいとき（昼間など）車幅灯を点灯しても、メータ照明は減光されません。

■**外気温表示について**

●外気温の測定が正しく行われないときは「−−℃」と表示されます。

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■ハイブリッドシステムインジケーターについて（ハイブリッド車）

1 パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を越えている状態を示します。

2 エコエリア

環境に配慮した走行をしている状態を示します。

3 ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。
ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

4 チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

- インジケーターの針をエコエリア（グリーンエリア）に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。
- チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに交換することです。

注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

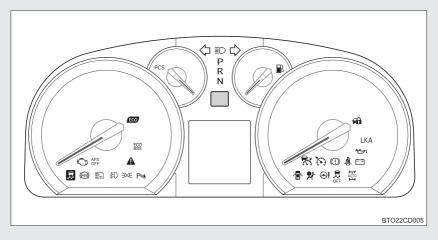
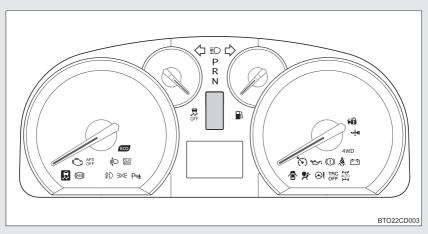
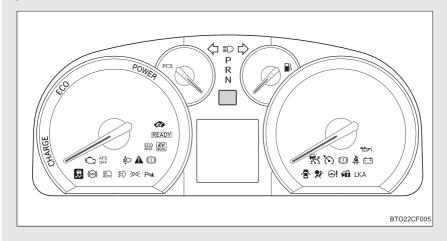
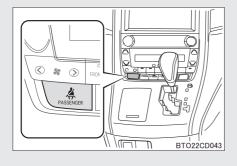
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。（ガソリン車）
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 498、500）

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯／警告灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を示しています。

▶ ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車

▶ セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車

▶ ハイブリッド車

▶ センターパネル

■ **表示灯**

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P. 225）

尾灯表示灯（→P. 248）

クリアランスソナー表示灯（→P. 287）

※
AFS OFF 表示灯*（→P. 251）

ハイビーム表示灯（→P. 248）

セキュリティ表示灯（→P. 153、P. 154）

READY インジケーター*（→P. 208）

ECO MODE 表示灯（→P. 217、P. 223）

※
エコドライブインジケーターランプ*（→P. 193）

4WD オートモード表示灯*（→P. 262）

※
（点滅）
スリップ表示灯（→P. 299）

※
VSC OFF 表示灯*（→P. 300）

（緑色）
クルーズコントロール表示灯*（→P. 263）

レーダークルーズコントロール表示灯*（→P. 267）

フロントフォグランプ表示灯（→P. 256）

E V ドライブモード表示灯*（→P. 213）

（緑色）
オートマチックハイビーム表示灯*（→P. 251）

LKA 表示灯*（→P. 280）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

※
TRC OFF 表示灯*
(→P. 300)

※
(点灯または
速い点滅)

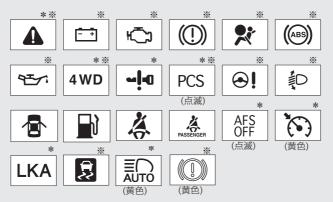
PCS 警告灯*
(→P. 308)

E V ドライブ
インジケーター*
(→P. 213)

シフトポジション・シフトレンジ表示
(→P. 216、P. 222)

※作動確認のために“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード＜“ パワー ”スイッチを ON モード＞にすると点灯し、数秒後またはエンジン ＜ ハイブリッドシステム ＞ を始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのとき、または点滅する場合はシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 447)

※作動確認のために“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード＜“ パワー ”スイッチを ON モード＞にすると点灯し、数秒後またはエンジン ＜ ハイブリッドシステム ＞ を始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

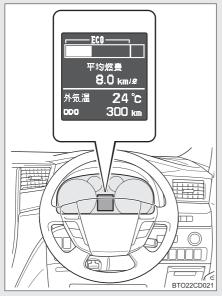
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モード <“ パワー ” スイッチを ON モード> にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、以下のような情報を表示します。

● トリップインフォメーション（→P. 240）

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

● レーダークルーズコントロール表示＊（→P. 267）

レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

● クリアランスソナー表示＊（→P. 287）

クリアランスソナー使用時に、障害物を感知すると自動で表示されます。

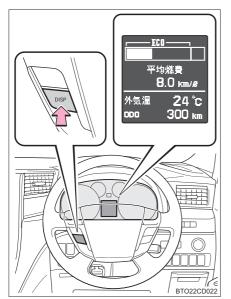
● レーンキーピングアシスト表示＊（→P. 280）

レーンキーピングアシスト使用時に自動で表示されます。

● 警告メッセージ＊（→P. 454）

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

表示切り替え

表示を切り替えるには、ハンドルにある DISP ボタンを押します。

トリップインフォメーション

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

（ドット表示式）

（セグメント表示式）

● エネルギーモニター（ハイブリッド車）

車両駆動状況、ハイブリッド作動状況およびエネルギーの回収状況を表示します。（→P. 48）

● 平均燃費・エコドライブインジケーターゾーン表示（ガソリン車）

リセットしてからの平均燃費とエコドライブインジケーターゾーン表示を表示します。

・ リセットするには、平均燃費・エコドライブインジケーターゾーン表示の表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

（ドット表示式）

（セグメント表示式）

● 平均燃費（ハイブリッド車）

リセットしてからの平均燃費を表示します。

・ リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 給油後平均燃費

燃料を補給してからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

（ドット表示式）

（セグメント表示式）

● 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・ 表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。給油の際は“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞を OFF にしてください。万一“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞を OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

（ドット表示式）

（セグメント表示式）

● 外気温

外気温を表示します。

－40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

（セグメント表示式）

エコドライブインジケーターランプの設定（ガソリン車）

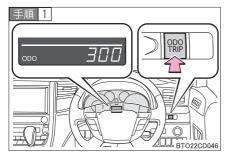
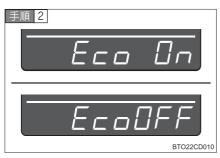
▶ ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車

停車中（車速 8km/h 未満）の状態で、DISP ボタンを押し、「設定」画面を表示する。

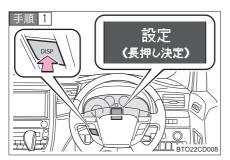
手順 2 DISP ボタンを押し続け、ECO インジケーターを表示する。

DISP ボタンを押し、ON または OFF を選択する。

設定後 DISP ボタンを長押しすると、「設定」画面にもどります。

▶ セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車

オドメーターが表示された状態で、表示切り替えボタンを 5 秒以上長押しする。

DISP ボタンを 2 秒以上長押しし、ON または OFF を選択する。

EV ドライブインジケーターランプの設定（ハイブリッド車）

BTO22CD008

停車中（車速 8km/h 未満）の状態で、DISP ボタンを押し、「設定」画面を表示する。

手順 2 DISP ボタンを押し続け、EV ドライブインジケーターを表示する。

BTO22CF017

DISP ボタンを押し、ON または OFF を選択する。

設定後 DISP ボタンを長押しすると、「設定」画面にもどります。

知識

■システムチェック表示（ガソリン車）*

“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のため次の表示になります。チェックが終わると通常の画面表示にもどります。

● 4WD システムチェック（4WD ＜ 4 輪駆動＞）

■外気温表示について

●外気温の測定が正しく行われないときは「ーー℃」と表示されます。

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■バッテリー ＜ 補機バッテリー ＞ 端子の脱着をしたときは

バッテリー＜補機バッテリー＞端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

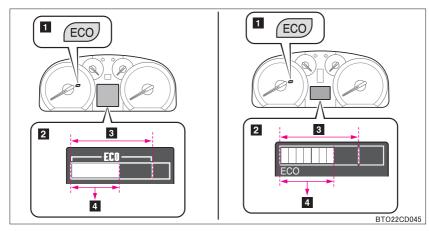
・ 平均燃費
・ 航続可能距離

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■エコゾーン表示について（ガソリン車）

▶ ドット表示式　　▶ セグメント表示式

1 エコドライブインジケーターランプ
環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）中は、エコドライブインジケーターランプが点灯します。

2 エコドライブインジケーターゾーン表示
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

3 エコ運転の範囲

4 現状のアクセル開度
エコ運転の範囲を超えると、非エコ運転中と判断し、お客様に知らせるため、エコドライブインジケーターが消灯し、エコドライブインジケーターゾーンの右側が点滅します。

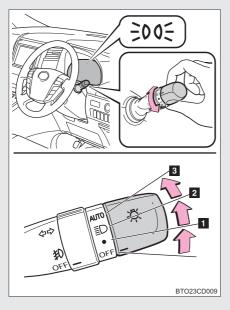
次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトポジションが D 以外のとき

●車速が約 100km/h 以上のとき

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

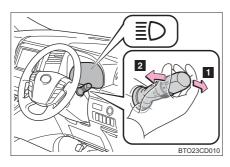
BTO23CD009

1 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

2 上記ランプとヘッドランプを点灯

3 ヘッドランプ、車幅灯などを自動点灯・消灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モード＜“パワー”スイッチが ON モード＞のとき

ハイビームにする

BTO23CD010

1 ランプ点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

オートマチックハイビーム装着車は、ランプスイッチが AUTO のときはオートマチックハイビームが作動します。（→P. 251）
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

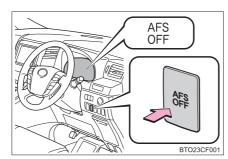
2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどるまたは消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）*

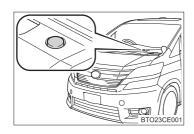
AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドランプの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには

スイッチを押して OFF にする

メーター内のAFS OFF表示灯が点灯します。

知識

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ ＜“ パワー ” スイッチ＞ をアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モード ＜“ パワー ” スイッチを ON モード＞ にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または の位置にします。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ランプ消し忘れ防止機能が働かない場合に作動します。

● “エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞が OFF のときに働きます。

● ランプスイッチが ● または の位置にあると、運転席ドアを開けたとき警告音（ピーという連続音）が鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 517）

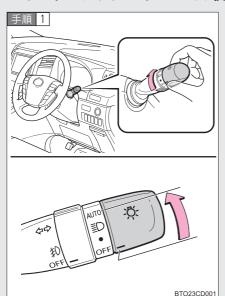
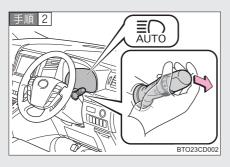
注意

■バッテリー＜補機バッテリー＞あがりを防止するために

エンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム*

オートマチックハイビームは、インナーミラーに設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

■ オートマチックハイビームの使い方

ランプスイッチを AUTO にする。

レバーを前方に押す。

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が緑色に点灯します。

カメラセンサーが遮断物などで状況を検知できないときは、オートマチックハイビーム表示灯は点灯しません。

ハイビーム点灯中は、ハイビーム表示灯も点灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ハイビームとロービームの自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

● 車速が約 30km/h 以上

● 車両前方が暗い

● 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない

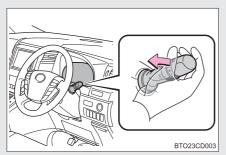
次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

● 車速が約 25km/h 以下

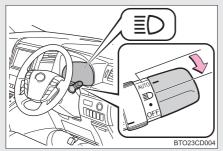
● 車両前方が明るい

● 対向車または先行車がランプを点灯している

■ 手動切り替えのしかた

▶ ロービームへの切り替え

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

▶ ハイビームへの切り替え

ランプスイッチを にする

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションON モード＜“パワー”スイッチがON モード＞のとき

■オートマチックハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切り替わる場合があります。

●街路灯や信号、広告などの照明、または標識、看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の要因により、ハイビームとロービームの切り替えのタイミングが変化する場合があります。

・対向車または先行車のランプの明るさ
・対向車または先行車の動きや向き
・対向車または先行車のランプの片側のみ点灯しているとき
・対向車または先行車が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●オートマチックハイビームは、車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。したがって、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

● 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

・悪天候時（霧、雪、砂嵐、大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・インナーミラーやカメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・オートマチックハイビーム表示灯が黄色に点灯、または警告メッセージが表示されているとき

■オートマチックハイビーム表示灯が黄色に点灯、または警告メッセージが表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。（→P. 449、456）

■カスタマイズ機能

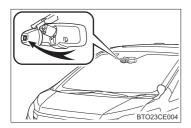
オートマチックハイビームを非作動にすることができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 518）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

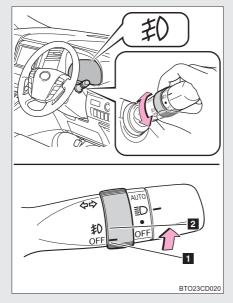
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

注意

■オートマチックハイビームを正しく作動させるために

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- カメラセンサーのレンズに触れない
- インナーミラーやカメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーやカメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- インナーミラーやカメラセンサー周囲にアクセサリーを取りつけない
- 荷物を積みすぎない
- 車両を改造しない
- トヨタ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

フロントフォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。
ランプスイッチ（→P. 248）と同じレバーに装着されます。

1 消灯

2 フロントフォグランプ点灯

知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

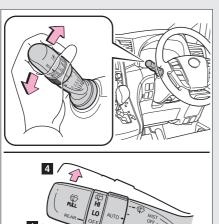
注意

■バッテリー＜補機バッテリー＞あがりを防止するために

エンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

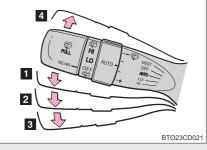
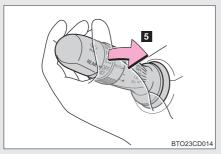
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

▶ 雨滴感知式ワイパー*
AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー*
INT を選択しているとき、間欠作動の頻度を調整することができます。

1 雨滴感知式ワイパー：
オート作動（AUTO）
間欠時間調整式ワイパー：
間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。（雨滴感知式ワイパー装着車は、数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します）

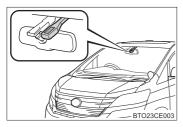
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

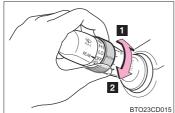
■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード＜“ パワー ” スイッチが ON モード＞のとき

■AUTO 作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）

BTO23CE003

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的に当たるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。

BTO23CD015

●ツマミを回すとセンサーの感度が調整できます。

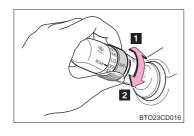
1 雨滴センサーの感度調整（低）

2 雨滴センサーの感度調整（高）

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード＜“ パワー ”スイッチが ON モード＞のときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が90℃以上または－10℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■間欠作動（間欠時間調整式ワイパー装着車）

BTO23CD016

1 間欠ワイパーの作動頻度（減）

2 間欠ワイパーの作動頻度（増）

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーに触れたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウィンドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウィンドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

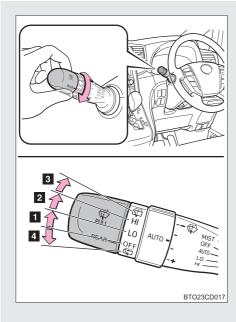
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

1 間欠作動（LO）

2 通常作動（HI）

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード＜“ パワー ” スイッチが ON モード＞のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

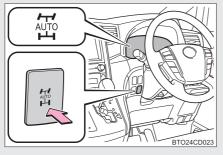
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

4WD オートモード（ガソリン車）*

走行の安定性や運転性能を高めるため、走行状況に応じてＦＦ（前輪駆動）走行と４ＷＤ（４輪駆動）走行を自動的に切り替えます。

４ＷＤ オートモードを使用する。

4WD オートモード表示灯が数回点滅後点灯し、4WD オートモードになります。

再度押すと表示灯が消灯し、FF モードになります。

知識

■4WD オートモード表示灯について

●4WD オートモードで走行中、前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた場合などには、4WD オートモード表示灯が点滅します。
表示灯の点滅中は駆動系部品の保護のため、後輪への駆動力配分を休止し、FF モードとなります。
この場合は、エンジンをかけたまま次の対応を行ってください。

・ 表示灯が点滅しなくなるまで車速を落とす。
・ 表示灯が点滅しなくなるまで停車する。（エンジンは停止しない）

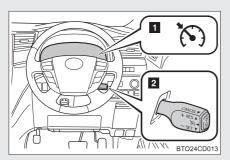
●4WDシステムに異常が発生したときには、4WDオートモード表示灯が消灯することがあります。この場合には、4WD オートモードスイッチの位置にかかわらず FF モードとなります。

■4WD オートモードを使用しないときは

スイッチを押し、FF モードにしてください。FF モードにすることにより燃費性能を高めます。

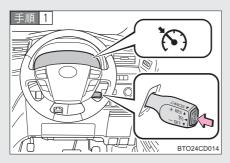
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

クルーズコントロール＊

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

1 クルーズコントロール表示灯

2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する

手順 1

ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする。

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

手順 2

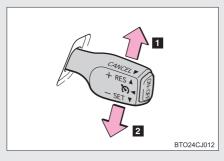
希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

BTO24CJ012

1 速度を上げる

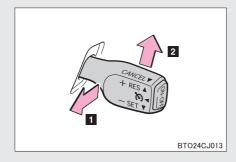
2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：
微調整：レバー操作するごとに約 1.6 km/h
調整：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる

BTO24CJ013

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。（2GR-FE エンジン搭載車）

●シフトレバーが D または M の 4 レンジ以上のとき設定できます。（2AZ-FE エンジン搭載車）

●シフトレバーが D または S のとき設定できます。（2AZ-FXE エンジン搭載車）

●車速は約 40km/h から約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

■定速走行中に表示灯が黄色に点灯（セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車）し、警告メッセージが表示（ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車）されたときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときはON-OFFスイッチでシステムをOFFにしてください

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

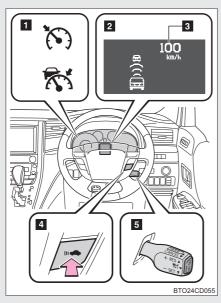
●雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面

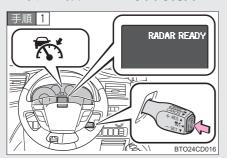
●急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

●車両けん引時

レーダークルーズコントロール＊

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

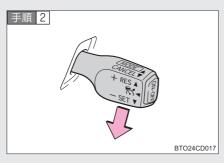
先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

1 表示灯
2 ディスプレイ
3 設定速度
4 車間距離切り替えスイッチ
5 レーダークルーズコントロールスイッチ

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 車速を設定する（車間制御モード）

手順 1

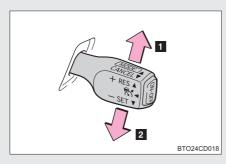
ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする。

OFF にするには再度 ON-OFF スイッチを押します。

手順 2

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度をかえるには

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

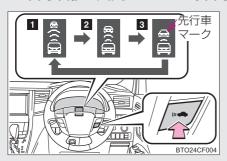
車間制御モードでは、設定速度は、次の通りに増減されます：

レバーを保持する間
微調整で設定速度を変更することはできません。

定速制御モード（→P. 274）では、設定速度は、次の通りに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切り替えます

1 長い

2 中間

3 短い

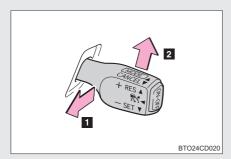
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションON モード＜“パワー”スイッチが ON モード＞になるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80 km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長	約 50 m
中	約 40 m
短	約 30 m

■ 制御を解除する・復帰させるには

1 解除するにはレバーを手前に引く

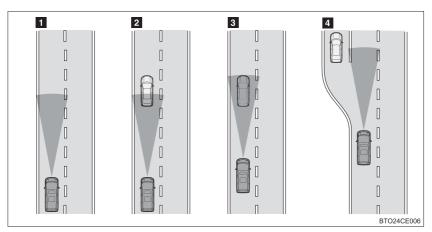
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。
ただし、実際の速度が約 40 km/h以下のときは復帰しません。
また、定速制御モードで使用しているときは、約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。

1 定速走行
先行車がいないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切り替えスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行
設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行
設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行
設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

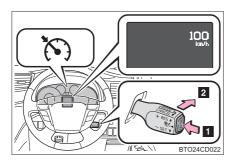
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。

BTO24CD022

1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度 ON-OFF スイッチを押します。

2 定速制御モードに切り替え（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

定速制御モードに切り替えると、定速制御モード表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードにもどすには、再度レバーを前方に約１秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切り替えることはできません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチ ＜“パワー”スイッチ＞を OFF にし、再度“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード ＜“パワー”スイッチを ON モード＞ にした場合は、自動で車間制御モードにもどります。

設定速度をかえるには
→P. 269

制御を解除する・復帰させるには
→P. 271

知識

■設定条件について

●シフトレバーがDまたはSの4レンジ以上のとき設定できます。(ガソリン車)

●シフトレバーが D または S のとき設定できます。(ハイブリッド車)

●車速は約 50 km/h から約 100 km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

●車速が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した(ワイパースイッチを“AUTO”モードまたは高速作動の位置にしたとき)

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

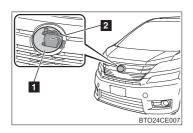
次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した

●車速が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく働かせるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。）
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージや警告ブザーで注意をうながします。（→P. 458）

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

警告

■**システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■**誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

⚠警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

●高速道路の出入り口

●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

●車両けん引時

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 273）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●停車中の車がいるとき

●先行車の車両の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

⚠ 警告

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- ●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- ●カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ●ハンドル操作が不安定な場合や車線内の自車の位置が一定でない場合
- ●先行車が急ブレーキをかけた場合

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ●センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、柔らかい布を使ってください。
- ●センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。
- ●センサーを分解しない
- ●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない
- ●センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- ●純正品以外の部品に交換しない
- ●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼りつけられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

LKA（レーンキーピングアシスト）*

白（黄）線の整備された高速道路や自動車専用道路を走行中に、白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

■ 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、ピピピピ・・・というブザーやマルチインフォメーションディスプレイ表示、ハンドルの動きによる体感警報を用いて注意をうながします。

■ 車線維持支援機能

車線の中央付近を走行する際に、小さい力の範囲で操舵力を付加することによりドライバーのハンドル操作を支援します。

車線維持支援機能作動中は体感警報は作動しません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ **設定のしかた**

LKA スイッチを押すと、白（黄）線の認識状態、車速、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）の設定状況に応じて車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が作動します。

設定

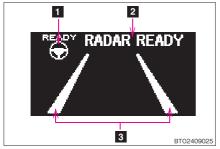
解除するには再度スイッチを押します。

■ 各機能の作動条件

LKA スイッチ設定	レーダークルーズコントロールのシステム設定	車線逸脱警報機能	車線維持支援機能
		車速が約 50 ～ 120km/h	車速が約 65 ～ 100km/h
ON	OFF	○	×
	ON 設定車速が約 64km/h 以下で車間制御走行しているとき	○	×
	ON 設定車速が約 65km/h 以上で車間制御走行しているとき	○ （車速約 50 ～ 65km/h、100km/h ～）	○

マルチインフォメーションディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。

BTO2409025

1 ハンドル表示

ハンドル表示+READYという表示が出ているとき：車線維持支援機能が開始可能な状態

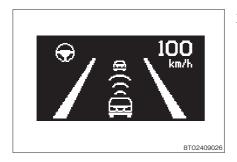
ハンドル表示のみのとき：車線維持支援機能作動中

2 レーダークルーズコントロール表示

3 車線表示

線が細いとき：白（黄）線が認識できていないまたは、機能を一時解除している（このときピピッというブザーが鳴ります。）

線が太いとき：車線逸脱警報機能作動中

BTO2409026

車線維持支援機能作動中

知識

■機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

●方向指示レバーを操作したとき

●車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき

●ブレーキペダルを踏んだとき
レーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキ操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。

●作動条件以外の車速になったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）

●ワイパーが連続で作動したとき（車線維持支援機能の作動中はブザーあり）

●車線維持支援機能の作動中に手放し運転警告が作動したとき（ブザーあり）

●車線逸脱警報機能が作動したとき
車線逸脱警報機能が作動したあとは、数秒間経過するまで機能は再開しません。

■手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒手放し運転と判断された場合は、ピピッとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ただし、路面状況により、作動が中断しない場合があります。

■炎天下に駐車したとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→P. 286）の温度が適温になると作動開始となるので、一旦 LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■LKA 作動中について

LKA 作動中にドライバー操舵操作が加えられた場合は、作動を中断しその操作を優先させます。

警告

■LKA をお使いになる前に

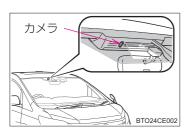
LKA を過信しないでください。前方不注意を補助するものではないので、常にハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

■正しく作動させるには

次の場合に LKA を使用すると、システムが正しく機能しないため、LKA を OFF にして走行してください。なお、手放し運転を行った場合は十分な性能が確保できません。

- ●白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき
- ●雨、雪、霧、逆光などで白（黄）線が見えにくいとき
- ●ヘッドランプのレンズが汚れていたり、劣化などにより照射が弱いときや光軸がずれているとき
- ●検札所や料金所手前など、白（黄）線が途切れるとき
- ●急激な明るさの変化が連続するとき
- ●道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまったわだちなど、白（黄）線と紛らわしい線が見えるとき
- ●高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- ●工事による車線規制や仮設車線を走行するとき
- ●車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- ●先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- ●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき
- ●反射ポール等の構造物がある場合
- ●うねった道路や荒れた道路を走行するとき
- ●対向車のヘッドランプ光がカメラに入射した場合
- ●雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行しているとき
- ●タイヤ、サスペンションの改造など、指定された部品以外を装着した際は、十分な性能を確保できません。

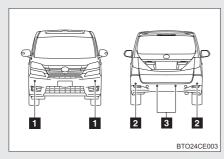
注意

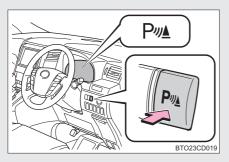
■白線認識用カメラ

LKA の故障や誤操作を避けるために、次のことをお守りください。

- フロントガラスは、いつもきれいにしておく
  雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取りつけを変更したり、取りはずしたりしない
- インナーミラーの位置をカメラのレンズ前に調整しない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用してると、フロントガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスター（→P. 324）でガラスの曇りを取る
- ダッシュボードの上にものを置かない
  フロントガラスに映りこんだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズを汚したり、傷をつけたりしない
- カメラのレンズ前のフロントガラスにシール等を貼らない

クリアランスソナー

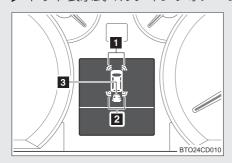
クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内の表示とブザー音で運転者にお知らせします。
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、モニター画面でも距離を表示します。

■ センサーの種類

1 フロントコーナーセンサー
2 リヤコーナーセンサー
3 バックセンサー

■ クリアランスソナースイッチ

ON ／ OFF

スイッチを押すとクリアランスソナーは ON になり、表示灯が点灯します。
OFF にするには再びスイッチを押します。

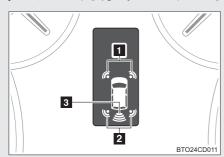
■ メーターの表示

▶ ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車

マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

1 フロントコーナーセンサー作動表示

2 リヤコーナーセンサー作動表示

3 バックセンサー作動表示

▶ セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車

メーター内に表示されます。

1 フロントコーナーセンサー作動表示

2 リヤコーナーセンサー作動表示

3 バックセンサー作動表示

■ モニター画面の表示（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

1

2

BTO24CD024

障害物を感知すると自動的に表示されます。

1 バックガイドモニター・パノラミックビューモニター非表示時

表示されないように設定することができます。（→P. 294）

2 バックガイドモニター・パノラミックビューモニター表示時

画面上に簡略表示されます。
（左の画面はバックガイドモニターの場合です。）

距離表示の見方

■ コーナーセンサー

障害物までのおおよその距離	メーター表示		モニター表示		
	ドット表示式	セグメント表示式		割り込み表示	
約 60 ～ 45cm	（点灯）	（点灯）	（点灯）	（点滅）	（点滅）
約 45 ～ 30cm	（点灯）	（点灯）	（点灯）	（早い点滅）	（早い点滅）
約 30cm 以下	（点滅）	（点滅）	（点灯）	（点灯）	（点灯）

■ バックセンサー

障害物までのおおよその距離	メーター表示		モニター表示（割り込み表示）	
	ドット表示式	セグメント表示式		
約 150 ～ 60cm	（点灯）	（点灯）	（遅い点滅）	（遅い点滅）
約 60 ～ 45cm	（点灯）	（点灯）	（点滅）	（点滅）
約 45 ～ 35cm	（点灯）	（点灯）	（早い点滅）	（早い点滅）
約 35cm 以下	（点滅）	（点滅）	（点灯）	（点灯）

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

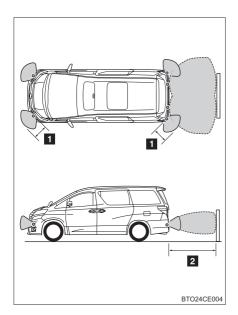
● 障害物との距離が近づくと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。

・ フロントコーナーセンサーまたはリヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が 30cm 以下
・ バックセンサーが感知した障害物との距離が 35cm 以下

● 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
ただし、感知した障害物のどちらかが上記の距離より近づくと、ブザーは断続音「ピピピピピピ」と連続音「ピー」を繰り返します。また、両方が上記の距離より近づくと、ブザーは断続音「ピピ」と連続音「ピー」を繰り返します。

● ブザーの音量と鳴るタイミングは、変更することができます。

・ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車 (→P. 293)
・ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車 (→P. 519)

障害物を感知できる範囲

1 約 60cm（約 0.6m）

2 約 150cm（約 1.5m）

感知できる範囲は左図の通りです。ただし、障害物がセンサーに近づきすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

音声案内・モニター画面表示・ブザーの設定（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モード <“パワー”スイッチが ON モード> のとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

手順 1 画面外の **設定・編集** を押す。

手順 2 画面内の **運転支援** にタッチする。

手順 3 画面内の **クリアランスソナー設定** にタッチする。

■ ブザー音量設定

設定したい音量にタッチする

ブザー音量を調整することができます。

■ ソナー表示の ON・OFF

画面内の ソナー表示なし にタッチする

● 「ソナー表示なし」にすると、タッチスイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の 切替え にタッチする

● タッチするごとに、感知範囲が「遠」（約 150cm 以内）と「近」（約 60cm 以内）に切り替わります。

バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：

・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード <“ パワー ” スイッチが ON モード > のとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車両の速度が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー・バックセンサー：

・“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード <“ パワー ” スイッチが ON モード > のとき
・シフトレバーが R にあるとき

■センサーについて

●次のときクリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- ・センサーに氷、雪、泥などが付着したとき(取り除けば、正常に復帰します)
- ・センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  とくに低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- ・センサーを手などで覆ったとき
- ・炎天下や寒冷時
- ・凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
- ・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近づいたとき
- ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・市販のフェンダーポール、無線機アンテナを車につけたとき
- ・けん引フックを取りつけたとき
- ・標識などの物体によっては感知距離が短くなります
- ・バンパー真下付近は感知しません
  センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- ・ソナーに障害物が近づきすぎたとき
- ・バンパーやセンサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- ・トヨタ純正品以外のサスペンションを取りつけたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

■センサーについて

●正確に感知できないことがある障害物
次のような物は感知しないことがあります。注意して運転してください。

- ・針金、フェンス、ロープなどの細いもの
- ・綿、雪などの音波を吸収しやすいもの
- ・鋭角的なもの
- ・背の低いもの
- ・背が高く上部が張り出しているもの

■クリアランスソナーに異常があるときは

●マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる画面が表示されます。(→P. 456)(ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車)

●ソナーに異常があるときは、異常のあるソナーの位置が点滅し、車両マークが点灯します。警告ブザーが鳴ります。(セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車)

●ソナー部に雪氷や泥などが付着しているときは、汚れが付着しているソナーの位置と車両マークが点滅します。警告ブザーが鳴ります。(セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車)

■カスタマイズ機能

クリアランスソナーの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 519)

警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が 10km/h を超えないようにしてください
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（とくに車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取りつけないでください

注意

■洗車時の注意

高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（Steering-assisted Vehicle Stability Control）*

ABS、TRC、VSC と EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール*

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。
→P. 305

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）*

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・EPS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急なハンドル操作をした際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

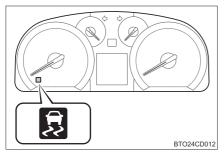
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 307

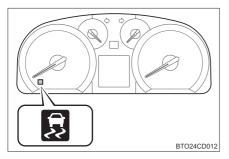
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき（ガソリン車）

BTO24CD012

車両が横すべりしそうになったとき、前輪が空転したとき、ヒルスタートアシストコントロールを作動させ坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

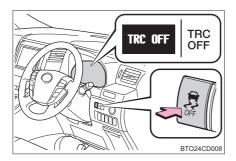
VSC、TRC、ABS が作動しているとき（ハイブリッド車）

BTO24CD012

VSC・TRC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

TRC や VSC を停止するには（ガソリン車）

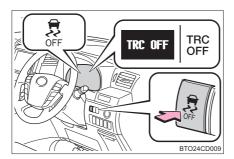
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、[OFF] を押すことにより脱出しやすくなります。

■ TRC の停止方法

BTO24CD008

TRC を停止するには [OFF] を押します。

・TRC OFF 表示が表示されます。（ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車）
・TRC OFF 表示灯が点灯します。（セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に [OFF] を押し3秒以上保持します。

VSC OFF 表示灯が点灯します。

・同時に TRC OFF 表示が表示されます。（ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車）
・同時に TRC OFF 表示灯が点灯します。（セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動状態にもどります。

知識

■TRC や VSC の自動復帰について（ガソリン車）

TRC や VSC を作動停止したあと、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と VSC は作動復帰状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限（ガソリン車）

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■TRC と VSC OFF の作動制限（ガソリン車）

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC の作動音と振動

●エンジン＜ハイブリッドシステム＞始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・ 車体やハンドルに振動を感じる
・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く（ガソリン車）
・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る（ガソリン車）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

次の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したときはとくに慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは（ガソリン車）

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 514）
異なったタイヤを装着すると、VSC、TRC、ABS が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

警告

■ **タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール（ガソリン車）*

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両の後退を緩和し発進を容易に行うことができます。

車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むと“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

● ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約 2 秒間です。

● ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

● ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。（車両が後退しない程度）その後もう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。
それでも作動しないときは以下の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

● 次の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。

・シフトレバーが P 以外の位置のとき
・パーキングブレーキがかかっていないとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき

● スリップ表示灯が点灯しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

●ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると“ピッ”とブザーが 1 回鳴ります。

●ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが 2 回鳴ります。

・ブレーキペダルから足を離して、約 2 秒間運転操作を行わなかったとき
・シフトレバーを P の位置にしたとき
・パーキングブレーキをかけたとき
・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
・ブレーキペダルから足を離さずに約 3 分以上経過したとき

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、車両損傷の低減に寄与します。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 130）
ただし、VSC システムが作動していないときに、横すべりした場合は作動しません。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

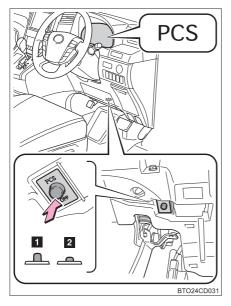
衝突の可能性が高いときにブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

前方の車両や障害物との衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキをかけて、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキをOFF にすることができます。（→P. 308）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

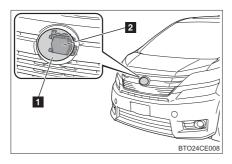
プリクラッシュブレーキの切り替え

BTO24CD031

1 プリクラッシュブレーキ ON

2 プリクラッシュブレーキ OFF

OFFにするとPCS警告灯が点灯します。

プリクラッシュセンサー

BTO24CE008

レーダーセンサーにより、走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その物の位置や車速、進路から衝突する可能性を事前に判断します。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

知識

■ センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■システムの作動条件

●プリクラッシュシートベルトの作動条件①：

・車速が約 30 km/h 以上
・緊急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
・フロント席の乗員がシートベルトをつけている

●プリクラッシュシートベルトの作動条件②：

・フロント席の乗員がシートベルトをつけている
・車速が約 5 km/h 以上
・自車からみた対向車か障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：

・車速が約 30 km/h 以上
・自車からみた先行車や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件：

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・自車速度が約 15 km/h 以上
・自車からみた先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されてない状況では有効に作動しないこともあります。

●きついカーブや起伏がある場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨、霧、雪、砂嵐等の悪天候の状況

●VSC システムが作動していないときに、車が横すべりしている状態

●車両姿勢が極端に変化している状態

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合やセンサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

●カーブ入り口に障害物があったとき

●カーブで、対向車とすれ違ったとき

●細い鉄橋を走行したとき

●路面に金属物があったとき

●凹凸のある路面を走行したとき

●右折時に対向車とすれ違ったとき

●前を走っている車に急に近づいたとき

●ETC ゲートを通過するとき

●立体交差・道路上の標識・案内看板など

●車高が極端に変化しているとき

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

●路面の勾配のため、衝突しない位置の金属物が進行方向に見えたとき

●陸橋を通過したとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

レーダーセンサーやフロントグリルのカバーの前後面が雪や氷などで汚れた場合、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「PCS 現在使用できません」と表示されます。雪や氷などの汚れを取りのぞき、走行すると警告灯は消灯します。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯、点滅または表示されます。(→P. 448、455)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

⚠警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

● センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、柔らかい布を使ってください。

● レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。

● センサーを分解しない。

● センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼りつけられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

● センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。

■**プリクラッシュセーフティシステムの限界**

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 次の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - フタのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

警告

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
  これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリー＜補機バッテリー＞の点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは４輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（→P. 514）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■タイヤチェーンについて

取りつけ・取りはずし・取り扱い方法については次の指示にしたがってください。

・ 安全に作業できる場所で行う
・ 前 2 輪に取りつける
・ タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう
・ 取りつけ後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締めなおしを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

警告

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

- トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
  トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくことがあります。

■フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

フロントエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。

手順 1 AUTO を押す。

吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 設定温度を上げるときは TEMP の∧を、下げるときは∨を押す。

手順 3 A/C を押す。

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

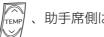
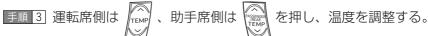
手順 1 AUTO を押す。

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2 FRONT DUAL を押す。

手順 3 運転席側は TEMP 、助手席側は PASSENGER/REAR TEMP を押し、温度を調整する。

再び FRONT DUAL を押すと、連動モードになります。

手順 4 A/C を押す。

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切り替えるには

を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

運転席側は 、助手席側は を押し、温度を調整する

連動モード使用時、助手席側の を押すと独立モードに切り替わります。

■ 風量をかえるには

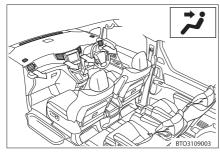
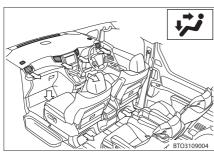
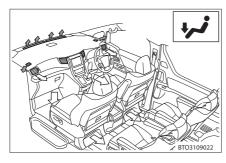
の＞（増）か＜（減）を押す

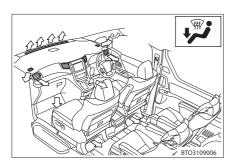
風量は 7 段階に調整できます。

送風を停止するときは OFF を押します。

■吹き出し口を切り替えるには

MODE を押す

押すたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は次の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

⇦ ：AUTO モードのとき

足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

▶ AUTO 内外気切り替え装着車

 を押すごとに次のように切り替わります。

外気導入モード → 内気循環モード →AUTO モード

フロントエアコンが作動しているときに AUTO モードにすると、車両外気（排気ガスなど）の状態などにより、外気導入と内気循環を自動で切り替えます。

▶ AUTO 内外気切り替え非装着車

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。

前席からリヤエアコンを操作するには

を押す

表示部に「REAR」が表示され、前席からリヤエアコンが操作できます。

■ 設定温度をかえるには

設定温度を上げるときは の∧を、下げるときは∨を押す

■ 風量をかえるには

の＞（増）か＜（減）を押す

風量は 7 段階に調整できます。

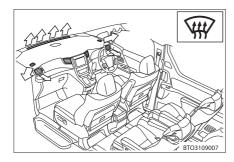
送風を停止するときは、OFF を押します。

■ 吹き出し口を切り替えるには

MODE を押す

押すたびに吹き出し口が切り替わります。（→P. 331）

フロントガラスの曇りを取るには

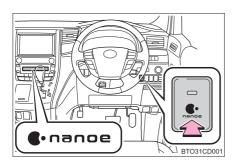
を押す

エアコンが作動します。

花粉除去機能を使うには

 を押す

内気循環に切り替わり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約３分後に（外気温が低いときは 約１分後に） を押す前のモードにもどります。

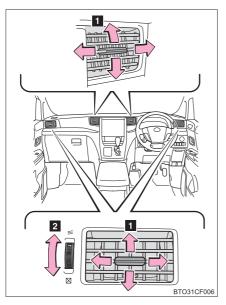
途中で動作を止めるときは、再度 を押すと前のモードにもどります。

「ナノイー」を使うには*

スイッチを押す

スイッチの表示灯が点灯します。

エアコンの送風時に「ナノイー」が作動し、表示部に「nanoe」が表示されます。

リヤエアコンのみ送風時は、後席のみ「ナノイー」が作動します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

次のような制御をする場合があります。

● AUTO を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

 を押してもエアコンは作動しない場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

■AUTO 内外気切り替えのセンサー感度調整*

内外気切り替えの AUTO は、センサーにより外気導入と内気循環を自動で切り替えます。センサーの感度は調整できます。

  を AUTO の表示灯が点滅するまで長押しします。

手順 2 を押して感度を調整します。

スイッチ	∨						∧
表示	−3	−2	−1	0	1	2	3
感度	低い						高い

■花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のために次のような作動をすることがあります。

●内気循環に切り替わらない

●エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はエアコンフィルターで取り除かれています。

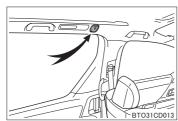
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

●水に包まれた微粒子イオン「ナノイー」を車内に放出します。

●「nanoe」・「ナノイー」および「nanoe」マークはパナソニック電工株式会社の商標です。

●実際の効果は季節・車室内の環境（温度・湿度）・風量・風向き・使用時間などにより異なります。

●運転席側吹き出し口付近で、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

●後席の「ナノイー」吹き出し口付近で、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エコドライブモード（→P. 223）を使用しているときは（ハイブリッド車）

燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

●A/C が ON のとき、内気循環に切り替わる場合があります。

●エンジン回転数やコンプレッサーを制御して、暖房／冷房の能力を抑制します。

●オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

上記のような制御により、暖房／冷房の効きが弱いと感じられることがあります。空調の効きをより良くしたいときは、設定温度や風量の調整、またはエコドライブモードの解除をしてください。

■リヤエアコンの操作について

を押して約 10 秒間操作を行わないと、フロントエアコン操作にもどります。

■カスタマイズ機能

エアコンの設定を変更できます。（→P. 518）

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

「ナノイー」は、高電圧を利用しています。危険ですので、修理などは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■バッテリー＜補機バッテリー＞あがりを防ぐために

エンジン＜ハイブリッドシステム＞停止中はエアコンを使用しないでください。

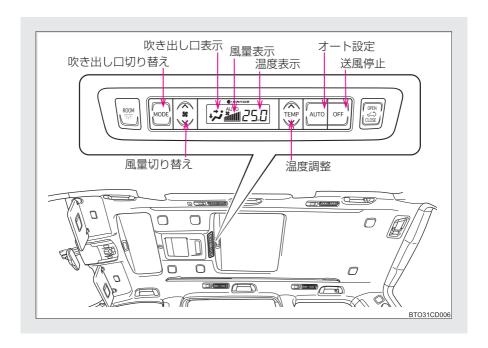
■「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

運転席側吹き出し口、後席の「ナノイー」吹き出し口付近にスプレーを噴霧したり、棒などの異物を挿入したり、ものを取りつけたりしないでください。システムが正常に働かないおそれがあります。

リヤエアコン

吹き出し口表示
風量表示
オート設定
吹き出し口切り替え
温度表示
送風停止
風量切り替え
温度調整
BTO31CD006

オート設定を使うとき

を押す。

エアコンが作動し、吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは

の∧を、下げるときは∨を押す。

お好みの設定で使うとき

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは TEMP を∧を、下げるときは∨を押す

■ 風量をかえるには

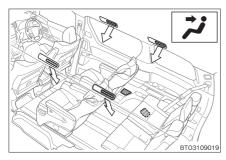
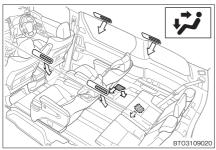
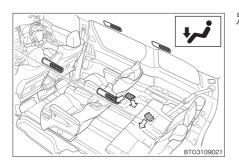
の∧（増）か∨（減）を押す

風量は 7 段階に調整できます。

送風を停止するときは、OFF を押します。

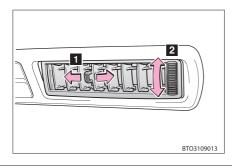
■ 吹き出し口を切り替えるには

を押す

押すたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は次の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

「ナノイー」を使うには*

→P. 325

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整と吹き出し口の開閉

2 風向きの調整

知識

■オート設定の作動について

次のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

● AUTO を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

●フロントエアコンが停止しているときは、暖房と送風の制御のみとなります。

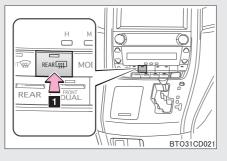
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■**バッテリー＜補機バッテリー＞あがりを防ぐために**

エンジン＜ハイブリッドシステム＞停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

1 オン／オフ

押すごとにオン／オフに切り替わり、作動中はインジケーターが点灯します。
リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは自動的にオフになります。
作動時間は外気温度や車速によってかわります。

知識

■作動条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード <“ パワー ” スイッチが ON モード > のとき

■ミラーヒーターについて

ミラーヒーター装着車は、リヤウインドウデフォッガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告

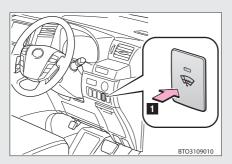
ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

注意

■バッテリー < 補機バッテリー > あがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリー < 補機バッテリー > あがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー＊

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

1 オン／オフ

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■作動条件

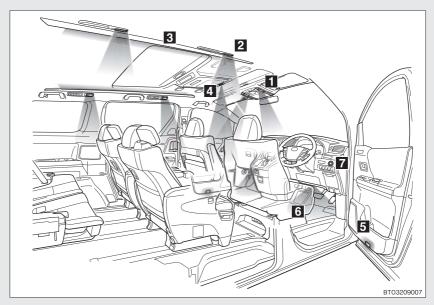
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード＜“ パワー ” スイッチが ON モード＞のとき

警告

■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるので触れないでください。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内灯一覧

1 マップランプ（→P. 338）

2 リヤルームランプ（→P. 339）

3 LED 室内間接照明（→P. 340）

4 ダウンランプ

5 ドアカーテシランプ*

6 フロント足元照明*

7 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明 < “ パワー ” スイッチ照明 >

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■バッテリー＜補機バッテリー＞あがりを防ぐために

半ドア状態でマップランプのメインスイッチがドア連動のときに、各部照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

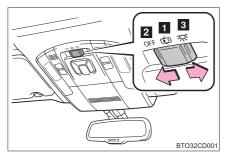
■カスタマイズ機能

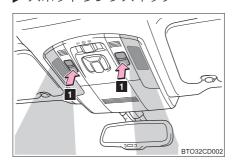
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 519）

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知、ドアの施錠・解錠／開閉、“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞により、各部照明が自動的に点灯、消灯します。

マップランプ

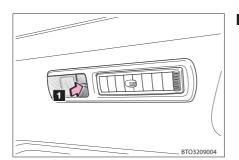
▶ メインスイッチ

1 ドア連動
2 消灯
3 点灯

▶ スポットランプスイッチ

1 点灯 / 消灯

知識

■マップランプについて

メインスイッチがドア連動のとき、イルミネーテッドエントリーシステムにより自動的に点灯、消灯します。

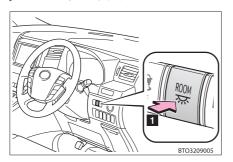
リヤルームランプ

1 点灯 / 消灯

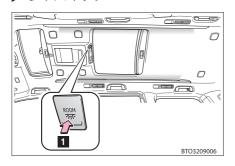
知識

■セカンドシート側のリヤルームランプについて

マップランプのメインスイッチがドア連動のとき、イルミネーテッドエントリーシステムにより自動的に点灯、消灯します。

LED 室内間接照明

▶ フロントスイッチ

1 点灯 / 消灯

▶ リヤスイッチ

1 点灯 / 消灯

押すたびに明るさを 4 段階に切り替えることができます。

知識

■LED 室内間接照明について

イルミネーテッドエントリーシステムにより自動的に点灯、消灯します。

注意

■LED 室内間接照明について

天井と LED 室内間接照明のすき間（発光部分）にものを引っかけたり、強く引っ張ったりしないでください。破損するおそれがあります。

収納装備一覧

▶ ガソリン車

1 グローブボックス

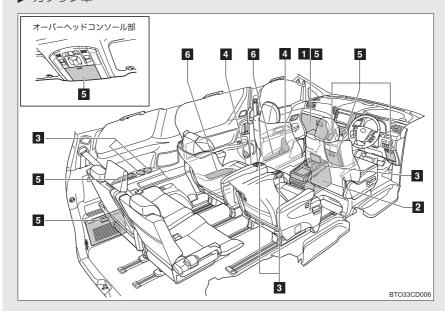
2 コンソールボックス

3 カップホルダー

4 ボトルホルダー

5 小物入れ*

6 ドアポケット

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ ハイブリッド車

1 グローブボックス

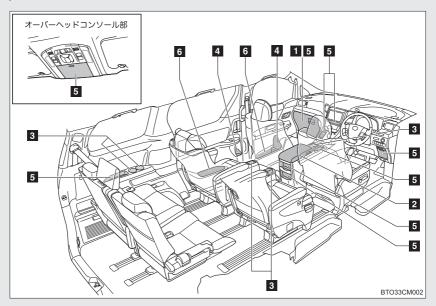
2 コンソールボックス

3 カップホルダー

4 ボトルホルダー

5 小物入れ*

6 ドアポケット

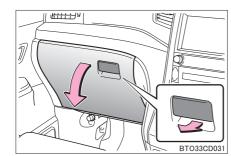
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

● 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

● 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

レバーを引き、開ける

知識

■グローブボックスランプについて

車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとランプが点灯します。

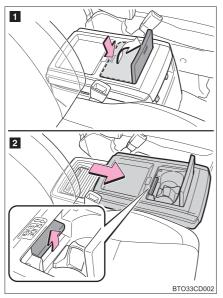
⚠ 警告

■走行中の警告

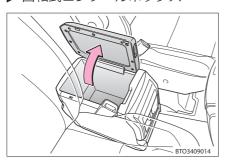
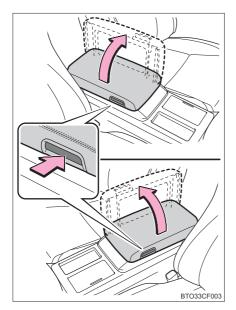
グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

▶ スライド式コンソールボックス

1 カップホルダーのフタを押して開ける

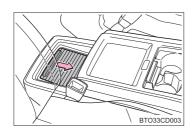
2 中のレバーを引きスライドさせる

▶ 回転式コンソールボックス

フタを持ち上げる

▶ ハイブリッド車

ボタンを押して開ける

左右どちらからでも開けられます。

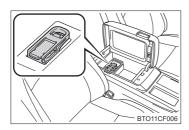
知識

■スライド式コンソールボックスの下段トレイについて

トレイ部分をスライドさせることもできます。

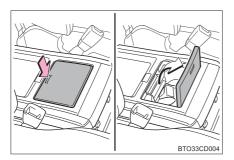
警告

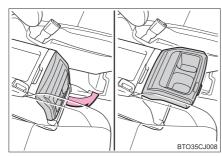
■**走行中の警告**

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

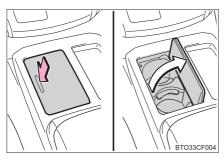
■**コンソールボックス下部について（ハイブリッド車）**

コンソールボックス下部にサービスプラグがあります。サービスプラグはトヨタ販売店で車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。

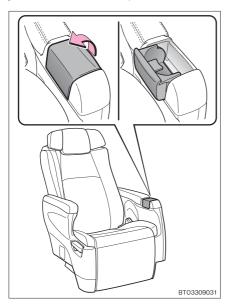
カップホルダー

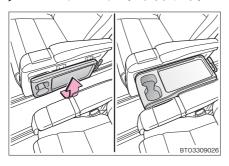
▶ フロント（ガソリン車）（スライド式コンソールボックス）

フタを押して開ける

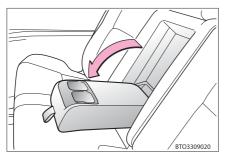
▶ フロント（ガソリン車）（回転式コンソールボックス）

カップホルダーを回転させる

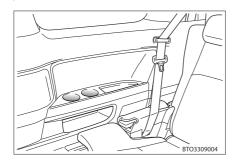
格納方法（→P. 350）

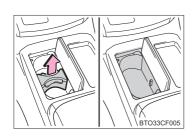
▶ フロント（ハイブリッド車）

フタを押して開ける

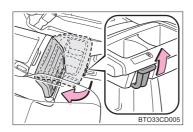
▶ セカンドシート（7 人乗りセカンドシートパワーシート）

カップホルダーを回転させる

▶ セカンドシート（7 人乗り車）

センターテーブルを引き起こす

▶ セカンドシート（8 人乗り車）

センターアームレストを引き出す

▶ サードシート

知識

■フロントカップホルダーの仕切りについて（ハイブリッド車）

仕切りをはずし、小物入れとして使用できます。

■フロントカップホルダー（ガソリン車）（回転式コンソールボックス）について

格納するときは、カップホルダー下部のレバーを引きながら下に回転させます。

警告

■収納してはいけない物

カップホルダーにはカップや飲料缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしておいてください。

■使わないときは

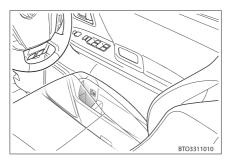
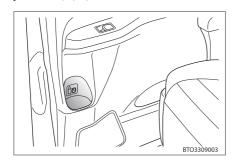
カップホルダーのフタを閉めておいてください。
急ブレーキをかけたときや衝突時に、開いたカップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

ボトルホルダー

▶ フロントドア

BTO3311010

▶ スライドドア

BTO3309003

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

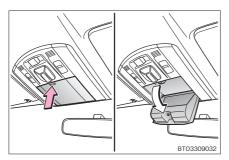
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

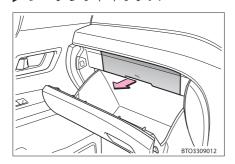
注意

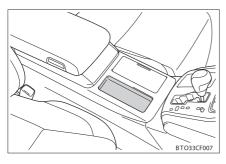
■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

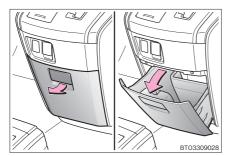
小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール*

押して開ける

▶ シークレットボックス

グローブボックスを開け、手前に引き出す

▶ オープントレイ（ハイブリッド車）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ センターロアボックス（ガソリン車）

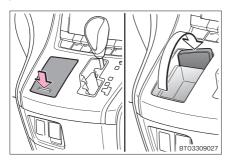
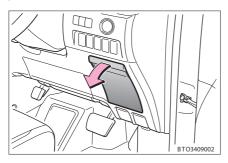
BTO3309028

レバーを引いて開ける

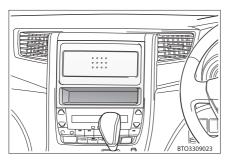
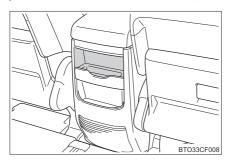
▶ センターアッパーボックス

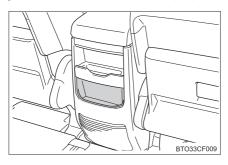
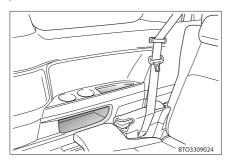
BTO3309027

フタを押して開ける

▶ 運転席ロアボックス

BTO3409002

手前に引いて開ける

▶ センタートレイ*

▶ コンソールボックス後部小物入れ上（ハイブリッド車）

▶ コンソールボックス後部小物入れ下（ハイブリッド車）*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ サードシートトレイ、ポケット

知識

■運転席ロアボックスについて

運転席ロアボックスの中に ETC ユニット*、またはカードホルダー*が装着されています。

警告

■走行中の警告

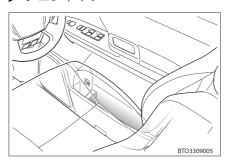
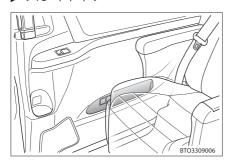
小物入れを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

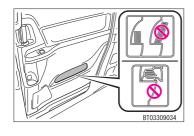
■収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソールのみ）

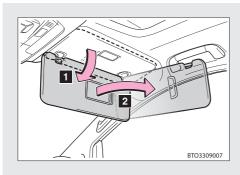
200ｇ 以上のものを入れないでください。200ｇ 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアポケット

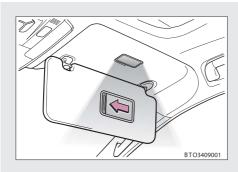
▶ フロントドア

▶ スライドドア

注意

■スライドドアポケットに収納するときは

スライドドアのドアポケットには、雑誌などをドアポケットからはみ出した状態で収納しないでください。また、ドアポケットが変形するような大きいものを入れないでください。スライドドアの開閉のさまたげになるばかりでなく、開閉の際にボデーまたはドアポケットに傷がついたり、故障につながるおそれがあります。

サンバイザー

1 おろす

2 おろした状態でフックからはずし、横へ回す

バニティミラー

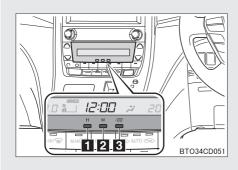
BTO3409001

カバーを開けるとランプが点灯します。

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード＜“ パワー ” スイッチが ON モード＞のとき

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

1 “ 時 ” を調整する（H）

2 “ 分 ” を調整する（M）

3 “ 分 ” を 00 にする※（:00）

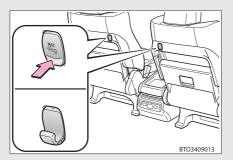
※（例）1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00

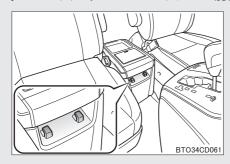
知識

■時刻が表示されるとき

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ <“ パワー ” スイッチ > がアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード <ON モード > のとき

コンビニフック

▶ フロントシートうしろ側

フックを引き起こします

▶ スライド式コンソールボックス前側（ガソリン車）*

警告

■使用しないときは

格納しておいてください。
指を挟むなどして、けがをするおそれがあります。

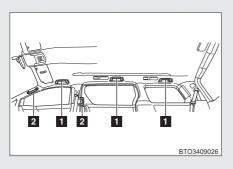
注意

■破損を防ぐために

4kg 以上のものや大きいものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

アシストグリップ

天井に取りつけられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。
乗降時などでは、ピラーに取りつけられているアシストグリップ（固定式）をお使いください。

1 アシストグリップ（回転式）
2 アシストグリップ（固定式）

警告

■アシストグリップ（回転式）について

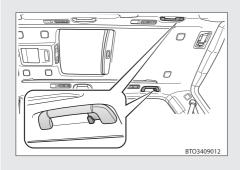
アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

リヤのアシストグリップにはコートフックがついています。

警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

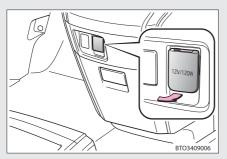
注意

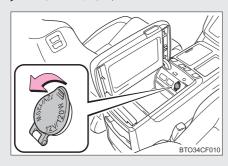
■破損を防ぐために

コートフックに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

▶ ガソリン車

フタを手前に引いて開ける

▶ ハイブリッド車

コンソールボックス内にあります。

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ <“ パワー ” スイッチ > がアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード <ON モード > のとき

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A を超えないようにしてください。

■バッテリー＜補機バッテリー＞あがりを防止するために

エンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント*

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

▶ ガソリン車

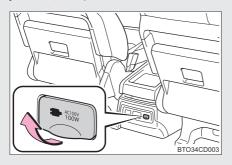
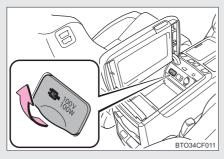
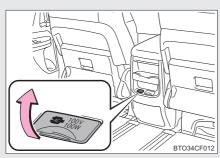
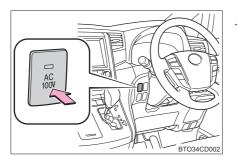
BTO34CD003

▶ コンソールボックス内（ハイブリッド車）

BTO34CF011

▶ コンソールボックス後部（ハイブリッド車）

BTO34CF012

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

メインスイッチ

メインスイッチを ON にする。

ON にすると作動表示灯が点灯します。

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード＜“ パワー ” スイッチが ON モード＞のとき

■アクセサリーコンセントについて

●AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使用してください。
最大消費電力が 100W を超える電気製品を使用すると、保護回路が働き、使用できなくなります。この場合、電気製品のプラグをアクセサリーコンセントから抜いて消費電力が 100W 以下になれば使用することができます。

●消費電力が 100W 以下であっても次のような機器は正常に作動しない場合があります。

・起動時の消費電力が大きい機器（ブラウン管式テレビ、コンプレッサー式冷蔵庫、電気ポンプ、電動工具など）。
・電源周波数（50 ／ 60Hz）の切り替えのある機器（時計、オーディオなど）。
・精密なデータを計測する機器（医療機器、計量器など）。
・その他（マイコン制御式電気毛布、タッチセンサー付ランプなど）

●使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。

●アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正確な電圧を測定できません。

●メインスイッチを ON にしたままにしておくと、アイドル回転が下がらず、燃費の悪化につながることがあります。

注意

■ショートや故障を防ぐために

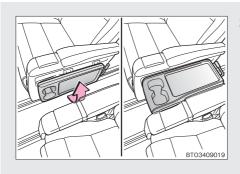
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

AC100V で最大消費電力 100W を超えないようにしてください。

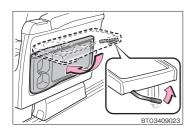
■バッテリー＜補機バッテリー＞あがりを防止するために

エンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止した状態でアクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

センターテーブル*

引き上げて使用します。

知識

■センターテーブルについて

●セカンドシートの左右位置が外側にあるときに使用できます。（マニュアルシート装着車）

●もとにもどすときは、テーブル下部のレバーを引いておろします。

注意

■シートテーブルの破損を防ぐために

テーブルの上に乗ったり、重いものを置かないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

アームレスト

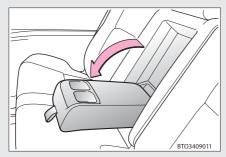
▶ フロントシート（ガソリン車）
／セカンドシート（7人乗りマニュアルシート車）

BTO1309016

アームレストを一度いちばん上まで上げ、その後いちばん下まで下げる。
お好みの位置まで上げると、アームレストが固定される。

アームレストが固定されると、下げることはできなくなります。
下げたいときは一度いちばん上まで上げてください。

▶ 8人乗り車セカンドシート

BTO3409011

引き出して使用します。

▶ セカンドシート外側（8人乗り車）／サードシート

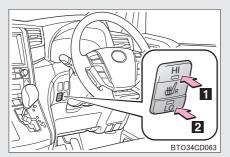
BTO13CD087

いっぱいまで前方に倒す。

■アームレストの破損を防ぐために

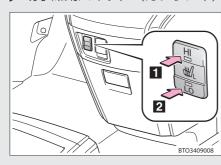
過度の負荷をかけないでください。

シートヒーター＊

▶ 運転席用スイッチ（ガソリン車）

1 HI（強）

2 LO（弱）

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。

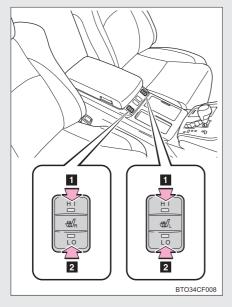
▶ 助手席用スイッチ（ガソリン車）

1 HI（強）

2 LO（弱）

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ ハイブリッド車

1 HI（強）

2 LO（弱）

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード < “ パワー ” スイッチが ON モード > のとき

■シートヒーターについて

- HI（強）にすると、シートの肩部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。
- LO（弱）にすると、シートの肩部分と背もたれ中央部のみを暖めます。

警告

■やけどを防ぐために

●低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたはとくにご注意ください。

・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
・皮膚の弱いかた
・疲労の激しいかた
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

●シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

注意

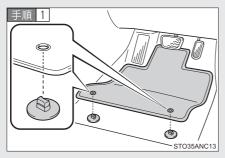
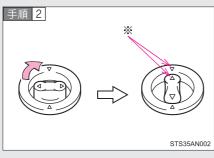
■シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリー＜補機バッテリー＞あがりを防止するために

エンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止しているときはスイッチをオフ（中立）にしてください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取りつけ穴をはめ込む。

固定フック（クリップ）上部のレバーを回して、フロアマットを固定する。

※△マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

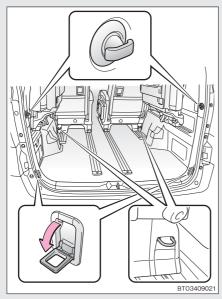
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- ●トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

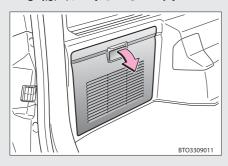
■運転する前に

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン＜ハイブリッドシステム＞停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

ラゲージルーム内装備

■ ラゲージフック

■ 小物入れ（ガソリン車）

取っ手を引きカバーをはずす

⚠ 警告

■ラゲージフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

■小物入れについて（ガソリン車）

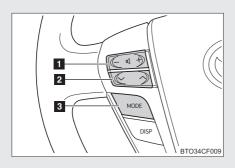
カバーを必ず閉めてください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ステアリングスイッチ

トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオを操作することができます。

モードの切り替えや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

● メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのかたは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

● 販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取扱書をご覧ください。

1 音量を調節する

2 CD、ラジオなどの操作

3 電源を入れる、モードを切り替える

電源を入れる

を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

・ 装着されたオーディオにより“ピッ”と音が鳴ることがあります。

モードを切り替える

電源が ON のとき

を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切り替わります。

音量を調節するには

の＋または－を押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調節できます。運転のさまたげにならない適度な音量でお聞きください。

選局または選曲するには

電源が ON のとき　を押す

スイッチを押して、お聞きになりたい放送局や CD で再生したい曲を選択します。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う。

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボディコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。
- リヤスポイラーがひっかかり、洗車できない場合や、傷ついたりするおそれがあります。
- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■高圧洗車機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光を当てることにより徐々に回復します（→P. 140）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す。

手順 2 水を含ませたきれいな柔らかい布などで汚れを落とす。

手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す。

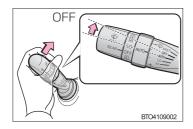
手順 4 きれいな柔らかい布などで鏡面についた水をふき取る。

手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度当てる。
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手で触れたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近づけたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内からセンサー本体に触れるなどして衝撃を与えたとき

警告

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン<ハイブリッドシステム>停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ルーフの上を清掃するときは

ルーフの上に手をついたり、重いものをのせないでください。
ルーフがへこむなど損傷させるおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 室内の手入れ

- カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取ります。
- リヤウインドウガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5%の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いた柔らかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ･ほつれ･傷などを定期的に点検してください。(→P. 127)

■スーパー UV カットガラスについて*

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉を繰り返さないでください。

■ドアの植毛部分について*

表面をこすったときに植毛部分が立ち、跡が残ることがありますが、異常ではありません。布用の柔らかいブラシを前からうしろへかけてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P. 35)
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。(ハイブリッド車)

●SRS エアバッグの構成部品やワイヤーを濡らさないでください。(→P. 159)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(とくにインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

■シート周辺の注意

室内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤

・シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

革の部分の損傷・消耗を避けるために、次のことをお守りください。

●革についたほこりや砂はすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。とくに夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に貼りつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

■スーパー UV カットガラス*を清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

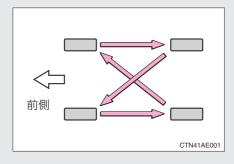
● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

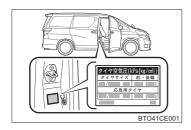
● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

BTO41CE001

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm^2)]
	前後輪
235/50R18 97V	240 (2.4)
215/60R17 96H	240 (2.4)
215/65R16 98H	ガソリン車： 240（2.4）
	ハイブリッド車： 250（2.5）

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2)

※：タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**日常点検について**

●日常点検として必ずタイヤを点検してください。

●タイヤの点検は法律で義務付けられています。
タイヤは以下の点について点検してください。

・タイヤの空気圧
・タイヤの亀裂・損傷の有無
・タイヤの溝の深さ
・タイヤの異常な摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

■**指定空気圧について**

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボデー側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP. 514で正しい空気圧を確認のうえ調整してください。
指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
日常点検で、応急用タイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

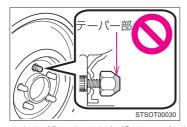
※高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

●異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

●異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因になることがあります。

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取りつけてください。テーパー部を外側にして取りつけると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■タイヤのサイズ、種類について

●タイヤはすべて指定サイズで、同一のサイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。

●タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■**タイヤのサイズ、種類について**

- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤ空気圧の点検は必ず行ってください。
  - ・4 輪の空気圧の差が著しいとき
  - ・空気圧が指定値からはずれているとき
- タイヤの摩耗を４輪とも均等にし、寿命を延ばすためにタイヤのローテーションを行ってください（→P. 389）
- ディスクホイールを交換するときも指定以外のディスクホイールを装着しないでください。
- 指定以外のタイヤおよび 4 輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

  ・ABS ＆ブレーキアシスト
  ・TRC
  ・VSC
  ・VDIM ＊
  ・クルーズコントロール＊
  ・レーダークルーズコントロール＊
  ・AFS ＊
  ・オートマチックハイビーム＊
  ・PCS ＊
  ・ナビゲーションシステム＊
  ・バックガイドモニター＊
  ・パノラミックビューモニター＊
  ・LKA（レーンキーピングアシスト）＊

  また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

  ・4WD システム（ガソリン車）＊
  ・電気式 4WD システム（ハイブリッド車）

■**冬用タイヤについて**

冬用タイヤ装着時も、必ず標準タイヤと同じサイズで同一種類のタイヤを装着し、指定空気圧で走行してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■摩耗限度について

タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、雨の日に制動距離が長くなったり、ハイドロプレーニング現象※により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

■タイヤサイズの変更について

新車時に装着されているタイヤサイズによってホイールサイズやステアリングギヤの設定※が異なるため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。サイズの異なるタイヤやホイールを装着した場合に車両の安定性が十分に確保できなくなるおそれがあり危険です。
例えば 215/65R16 タイヤ装着時に 235/50R18 タイヤを装着することはできません。

※ハンドルを操作した量に対してタイヤが切れる角度

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

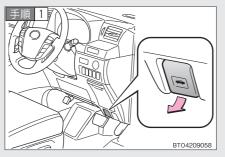
■タイヤ空気圧が低いとき

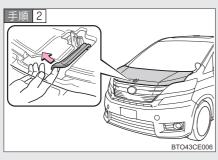
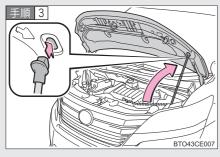
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

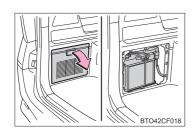
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける。

ボンネットステーをステー穴に挿し込む。

知識

■バッテリー端子をはずすときは（ガソリン車）

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて（ハイブリッド車）

● この車両の補機バッテリーは、ラゲージルーム（助手席側）の小物入れにあり、エンジンルームには搭載されていません。（補機バッテリーはバッテリー液の補充が必要ないタイプのため、バッテリー液量等の点検は不要です）

● 補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P. 492）

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は（ハイブリッド車）

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの交換について（ハイブリッド車）

交換する際はヴェルファイアハイブリッド専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。
補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

警告

■けがを防ぐために

- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ボンネットを開ける前に“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞をOFFにしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。とくにガソリン車の電動ファンはエンジン停止後も最大8分間作動しますので、しばらくたってからボンネットを開けてください。

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

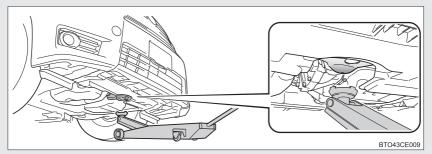
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

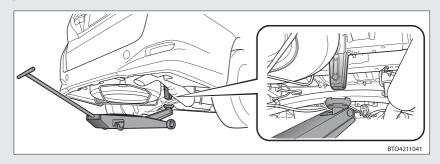
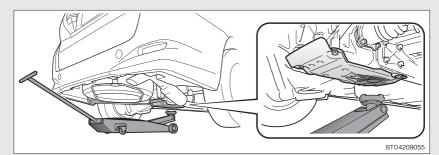
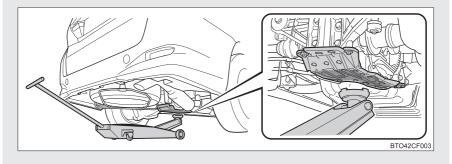
■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

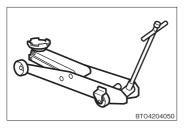
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取りつけてください。正しい位置に取りつけないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

▶ FF 車（前輪駆動）（ガソリン車）

▶ 4WD 車（4 輪駆動）（ガソリン車）

▶ ハイブリッド車

警告

■車両を持ち上げるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する

●車両がジャッキアップされた状態でエンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにする

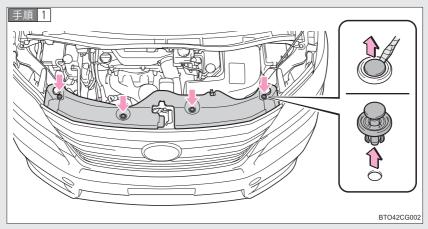
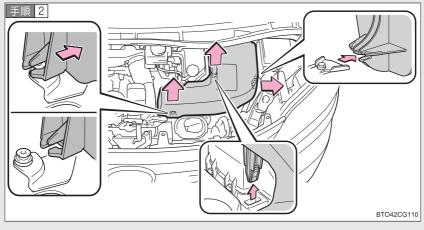
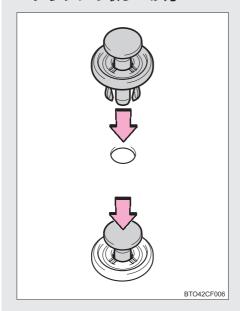
●ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上または下にものを置かない

エンジンルームカバー（ハイブリッド車）

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

■ クリップの取りつけ方

警告

■けがを防ぐために

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“ パワー ” スイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

■エンジンルームカバーを取りはずしたときは

高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらないでください。
感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■エンジンルームカバーを取りはずすときは

クリップをエンジンルームの中に落とさないよう注意してください。

■エンジンルームカバーを取りつけたあとは

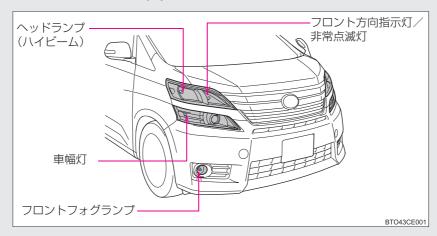
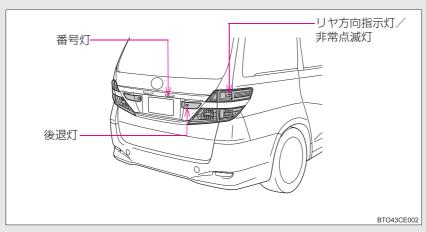
もとの場所に確実に取りつけられていることを確認してください。

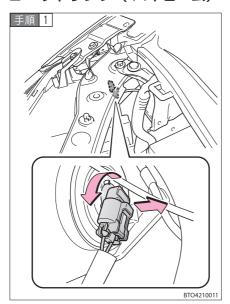
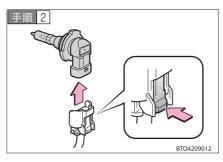
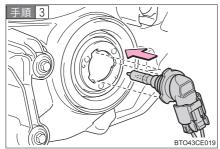
電球（バルブ）の交換

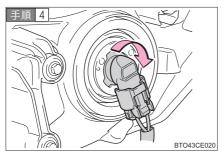
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球のW数を確かめてください。（→P. 514）

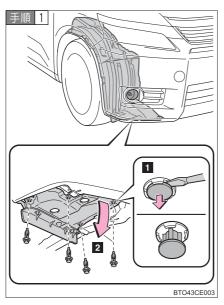
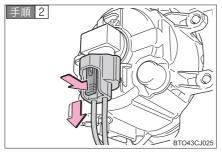
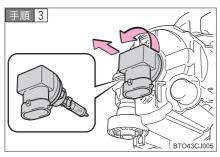
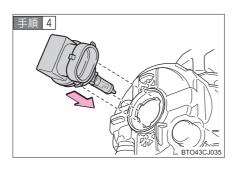
■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

電球交換のしかた

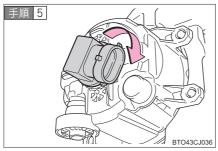
■ ヘッドランプ（ハイビーム）

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

電球を交換し、ソケットを取りつける

取りつけ部と電球のツメ（3 か所）をあわせて挿し込みます。

ソケットを回して固定する。

ソケットを取りつけたあとは、いったんヘッドランプ（ハイビーム）を点灯させ、バルブの取りつけ部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

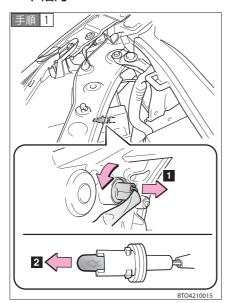
手順 5 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ フロントフォググランプ

1 クリップの中心を引き出し、クリップを引き抜く
2 フェンダーライナーをめくる

コネクターを引き抜く。

電球を取りはずす。

電球を交換し、取りつける。

取りつけ部と電球のツメ（3 か所）をあわせて挿し込みます。

電球を回して固定し、コネクターを取りつける。

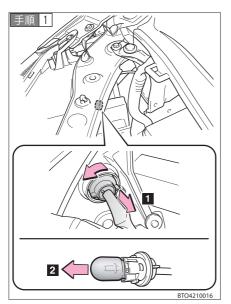
電球を軽くゆさぶって、ぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、電球の取りつけ部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

手順 6 フェンダーライナーをもとにもどしクリップを取りつける。

■ 車幅灯

1 ソケットを取りはずす

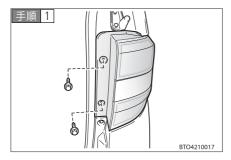
2 電球を取りはずす

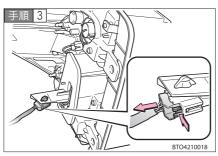
手順 2 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ソケットを取りはずす

2 電球を取りはずす

手順 2 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

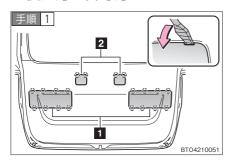
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

バックドアを開け、ボルト 2 本をはずす。

ランプ本体を取りはずす。

コネクターのツメを押し、コネクターをはずす。

1 ソケットを引き抜く

2 電球を取りはずす

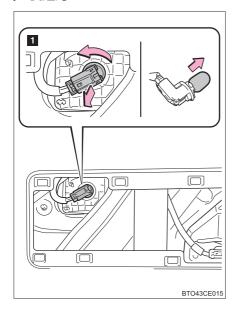
手順 5 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

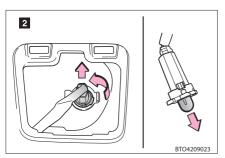
■ 後退灯、番号灯

バックドアを開け、交換したい電球のカバーをはずす。

1 後退灯

2 番号灯

手順 2 ソケットを取りはずし、電球を取りはずす。

▶ 後退灯

1 後退灯

▶ 番号灯

2 番号灯

手順 3 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（ロービーム）
- サイド方向指示／非常点滅灯
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ランプ内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドランプの作動

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

⚠ 警告

■電球を交換するときは

- ●ランプは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。やけどすることがあります。
- ●電球のガラス部を素手で触れないでください。
  プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- ●電球や電球を固定するための部品はしっかり取りつけてください。取りつけが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- ●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ディスチャージヘッドランプについて

- ●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- ●点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
  瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電して、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■**お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取りつけられていることを確認してください。

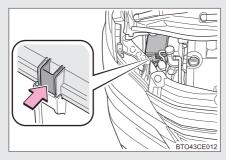
ヒューズの点検、交換

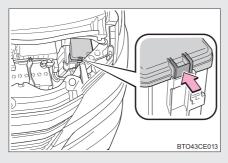
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

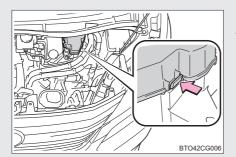
手順 1 “エンジン スタート ストップ”スイッチ <“パワー”スイッチ>を OFF にする。

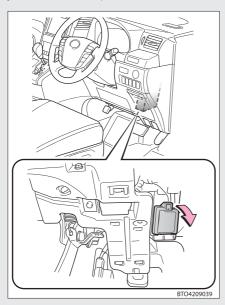
手順 2 エンジンルーム(ヒューズボックス C)のヒューズボックスを開けるときは、エンジンルームカバーをはずす。(ハイブリッド車)(→P. 402)

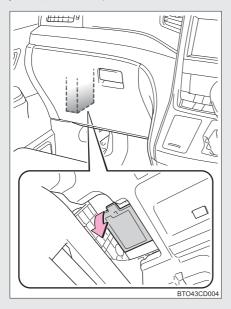
手順 3 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム(ヒューズボックス A)(ガソリン車/ハイブリッド車)

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

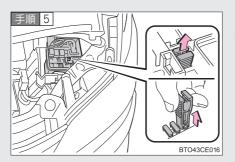
▶ エンジンルーム(ヒューズボックス B)(ガソリン車/ハイブリッド車)

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

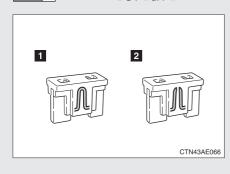
▶ エンジンルーム（ヒューズボックス C）（ハイブリッド車のみ）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 運転席足元（ガソリン車／ハイブリッド車）

カバーを取りはずす。

▶ 助手席足元（ガソリン車／ハイブリッド車）

カバーを取りはずす。

手順 4 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 422)で確認する。

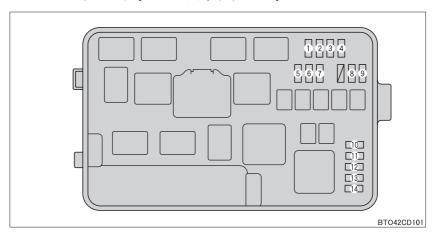
手順 5

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

手順 6 ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

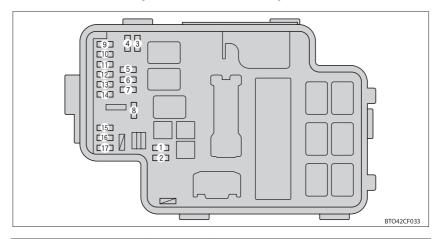
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	HORN	10 A	ホーン
2	STRG LCK	20 A	ステアリングロック
3	AMP NO.2	30 A	オーディオアンプ
4	AMP NO.1	30 A	オーディオアンプ
5	ECU-B3	7.5 A	スマート ECU
6	ECU-B2	7.5 A	エアコン
7	S/HORN	10 A	S/HORN
8	DEICER	20 A	フロントワイパーデアイサー
9	FOG	20 A	フロントフォグランプ
10	H-LP RH ※1	15 A	右側ヘッドランプ（ハイビーム）
	H-LP RL ※2	15 A	右側ヘッドランプ（ロービーム）
11	H-LP LH ※1	15 A	左側ヘッドランプ（ハイビーム）
	H-LP LL ※2	15 A	左側ヘッドランプ（ロービーム）
12	H-LP RL ※1	15 A	右側ヘッドランプ（ロービーム）

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
13	H-LP LL ※1	15 A	左側ヘッドランプ（ロービーム）
	H-LP RH ※2	15 A	右側ヘッドランプ（ハイビーム）
14	H-LP HI NO.2 ※1	20 A	オートマチックハイビーム
	H-LP LH ※2	15 A	左側ヘッドランプ（ハイビーム）

※１：オートマチックハイビーム装着車

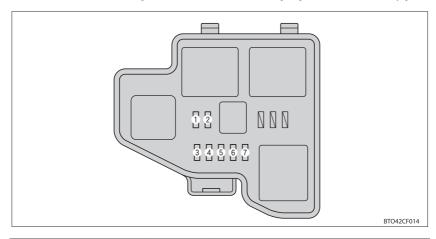
※２：オートマチックハイビーム非装着車

■ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ABS NO.2 ※1	30 A	VSC アクチュエーター
2	DEF	30 A	リヤウインドウデフォッガー
3	EFI	20 A	EFI
4	CAPACITOR ※2	15 A	ハイブリッドシステム
5	ECU-B	10 A	パワースライドドア
6	DOME	7.5 A	室内灯
7	RAD NO.1	15 A	ナビゲーションシステム
8	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
9	SLOPE NO.2 ※1	30 A	スロープ
	ABS MAIN1 ※2	10 A	ブレーキシステム
10	ABS MAIN2 ※2	10 A	ブレーキシステム
11	ETC-S	10 A	EFI
12	AM2 NO.2	7.5 A	ボデー ECU
13	TRN HAZ	15 A	方向指示 兼 非常点滅灯
14	IG2	15 A	インジェクション
15	ABS MAIN3 ※2	15 A	ブレーキシステム
16	FR DOOR	30 A	ボデー ECU

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	A/F※1	30 A	EFI
	A/C W/P※2	10 A	エアコン

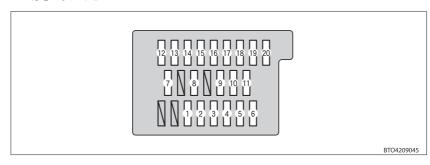
※1：ガソリン車

※2：ハイブリッド車

■ エンジンルーム（ヒューズボックス C）（ハイブリッド車）

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI NO.1	7.5 A	ハイブリッドシステム
2	OIL PMP	10 A	ハイブリッドシステム
3	PCU	10 A	ハイブリッドシステム
4	IGCT NO.1	7.5 A	ハイブリッドシステム
5	INV W/P	10 A	ハイブリッドシステム
6	IGCT NO.2	7.5 A	ハイブリッドシステム
7	BATT FAN	10 A	ハイブリッドシステム

■ 運転席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	FR WIP	30 A	フロントワイパー
2	SEAT HTR RH	10 A	シートヒーター（運転席側）
3	RH ECU-IG	10 A	エアコン
4	P/SEAT RL	20 A	助手席側セカンドシート
5	P/SEAT RR	20 A	運転席側セカンドシート
6	P/POINT	15 A	アクセサリーソケット
7	CIG	15 A	アクセサリーソケット
8	RAD NO.2	7.5 A	ナビゲーションシステム
9	ECU-ACC	7.5 A	ドアミラー
10	IGN	10 A	イグニッション
11	MET	7.5 A	メーター
12	PSB	30 A	プリクラッシュシートベルト
13	RR FOG	7.5 A	リヤフォグランプ
14	P/W FR	20 A	パワーウインドウ
15	P/SEAT RH	30 A	運転席シート
16	AM1	7.5 A	ドライビングポジションメモリー
17	STOP	15 A	制動灯
18	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
19	PSD RH	30 A	パワースライドドア
20	P/W RR	20 A	パワーウインドウ

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	LH ECU-IG	10 A	ボデー ECU、パワースライドドア
2	SEAT HTR LH	10 A	シートヒーター
3	GAUGE NO.2	10 A	後退灯
4	STP RR	7.5 A	制動灯
5	STP HI MT	7.5 A	ハイマウントストップランプ
6	STP RL	7.5 A	制動灯
7	RR WIP	15 A	リヤワイパー
8	GAUGE NO.1	10 A	メーター、 フロントワイパーデアイサー
9	PANEL	10 A	スイッチ照明
10	TAIL2	10 A	尾灯
11	TAIL	10 A	尾灯
12	P/SEAT LH	30 A	助手席シート
13	4WD	7.5 A	4WD システム
14	AC INV	15 A	アクセサリーコンセント
15	DR LOCK	30 A	ボデー ECU
16	P/W FL	20 A	パワーウインドウ
17	S/R	20 A	ムーンルーフ
18	PSD LH	30 A	パワースライドドア
19	P/W RL	20 A	パワーウインドウ
20	PBD	30 A	パワーバックドア

知識

■ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 405)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリー <補機バッテリー> からの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

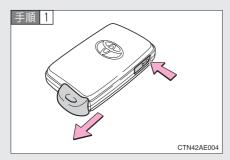
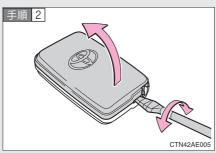
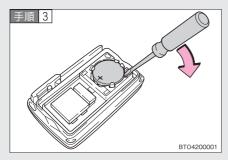
ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- ● テープを巻いたマイナスドライバー
- ● リチウム電池 CR1632

■ 電池交換の仕方

メカニカルキーを抜く。

カバーをはずす。

消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取りつけます。

手順 4 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

知識

■電池が消耗していると

次のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■取りはずした電池と部品について

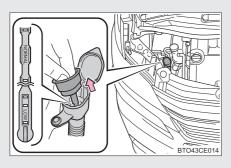
お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

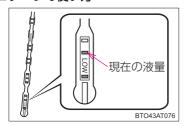
■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーにテーピングをしたり布きれを当ててからはずしてください。
  カバーに傷がつくおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

液面が LOW の位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。

知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下回った（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジン <ハイブリッドシステム> が熱いときやエンジン <ハイブリッドシステム> が始動中は、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジン <ハイブリッドシステム> などにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

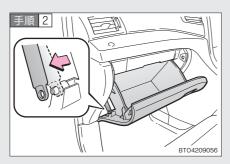
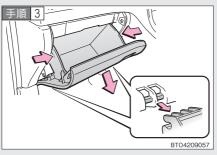
■**ウォッシャー液の薄め方**

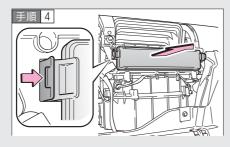
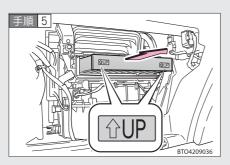
必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの清掃、交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃、または交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ < “ パワー ” スイッチ > を OFF にする。

グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす。

グローブボックス側面を押してツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす。

下部のツメを取りはずすときは、グローブボックスを水平に引き出して取りはずします。

フィルターカバーを取りはずす。

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する。

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取りつけます。

手順 6 取りつけるときは、取りはずしたときと逆の手順で取りつける。

知識

■エアコンフィルターの清掃・交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に清掃、または交換してください。

清掃：15,000km[7,500km※] ごと

交換：30,000km[15,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃、または交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

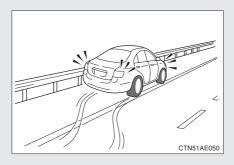
トラブルが起きたら 5

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示にしたがってください。

CTN51AE050

非常点滅灯（→P. 439）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

ITIRMO001

高速道路や自動車専用道路では、次のことにしたがう

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→P. 440）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

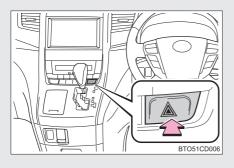
■停止表示板・停止表示灯について

ITIRMO004

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

BTO51CD006

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

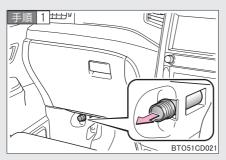
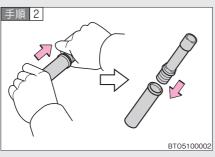
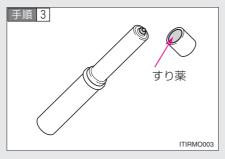
もう一度押すと消灯します。

知識

■非常点滅灯について

エンジン停止中 < ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）> に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリー < 補機バッテリー > があがるおそれがあります。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください。）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す。

本体を回しながら抜き、本体を逆さにして挿し込む。

先端のフタをとり、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる。

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期間がきれる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

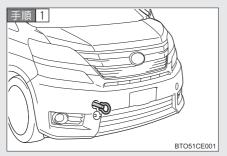
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

■ けん引する前に

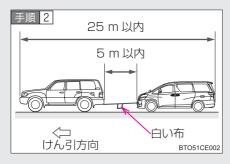
次の場合は、けん引を行う前に、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジン＜ハイブリッドシステム＞は始動するが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

手順 1

車体に傷がつかないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

手順 2

ロープの中央に白い布をつける。

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動する。

エンジン＜ハイブリッドシステム＞が始動しないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞をアクセサリーモードまたはイグニッション ON モード＜ON モード＞にしてください。

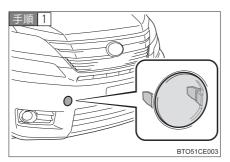
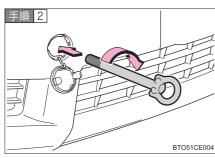
手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキンググブレーキを解除する。

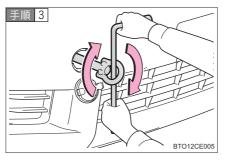
けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取りつけ方

BTO51CE003

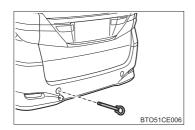
手順 1 運転席側のフタをはずす。

BTO51CE004

手順 2 けん引フックを穴に挿し込み軽く締める。

BTO12CE005

手順 3 ホイールナットレンチを使い確実に取りつける。

知識

■他車をけん引する

BTO51CE006

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。（助手席側）

■けん引フックの収納位置

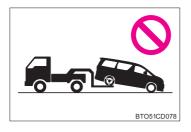
→P. 466

⚠警告

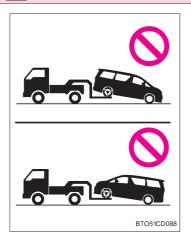
■けん引フックを車両に取りつけるとき

指定の位置に指定のけん引フックをしっかりと取りつけてください。
指定位置にしっかり取りつけないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■車両を運搬するときは

BTO51CD078

ＦＦ 車（前輪駆動車）

前輪が地面に付いた状態で後ろからけん引しない

警告

ガソリン車の 4WD 車（4 輪駆動車）

必ず 4 輪接地または 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼きつきを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

ハイブリッド車

タイヤが接地した状態でけん引しないでください。
モーターから電気が発電され、故障や破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

■他車をけん引するときは

自車より重い車のけん引はできません。自車より重い車をけん引しようとすると、駆動系に悪影響を与えたり、けん引フックや車体が破損するおそれがあります。

■けん引中の運転について

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ <“ パワー ” スイッチ> を OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジン <ハイブリッドシステム> が停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

⚠注意

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは次のことを必ずお守りください。

- ●ワイヤーロープは使用しない
- ●速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
- ●前進方向でけん引する
- ●サスペンション部などにロープをかけない

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(赤色)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）※** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常（ハイブリッド車） ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・トランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
4WD	**4WD 警告灯（ガソリン車）**＊ 4WD システムの異常
	ディスチャージヘッドランプ オートレベリング警告灯＊ ・自動光軸調整システムの異常
PCS （点滅）	**PCS 警告灯**＊ プリクラッシュセーフティシステムの異常（→P. 311） ・システム作動中は、早い点滅でお知らせします。（→P. 309） ・プリクラッシュブレーキを OFF にしたときは点灯します。（→P. 308） ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。（→P. 309）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
AFS OFF（点滅）	**AFS OFF 表示灯＊** ・AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常（→P. 250）
（黄色）	**ブレーキ警告灯（ハイブリッド車）** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常
（点灯）	**スリップ表示灯** ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールの異常（ガソリン車）＊ 上記のシステムの作動時には点滅します。（→P. 299）
（黄色）	**クルーズコントロール表示灯＊** クルーズコントロールシステムの異常（→P. 265）
AUTO（黄色）	**オートマチックハイビーム表示灯＊** オートマチックハイビームシステムの異常

知識

■パワーステアリング警告灯について

バッテリー＜補機バッテリー＞の充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■充電警告灯の点滅がひんぱんに発生するときは（ハイブリッド車）

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯／半ドア警告表示* **(警告ブザー) ※ 1** いずれかのドアが確実に閉まっていない	開いているドアを閉める
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 2** 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	燃料残量警告灯 燃料の残量 （約 10L 以下）	燃料を補給
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 454

※ 1 **半ドア走行時警告ブザー：**
車速が 5km/h を超えると警告ブザーが鳴ります。

※ 2 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

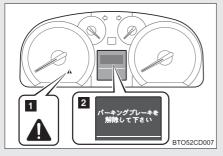
ただちに処置してください。＊

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		スマートエントリー&スタートシステム警告灯	警告内容	対処方法
車内	車外			
1回	なし	(8秒間点灯)	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1回	3回		電子キーを携帯していない状態かつ“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
			電子キーを携帯していない状態かつシフトレバーがPの状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにする または電子キーを携帯する
連続	連続		電子キーを携帯していない状態かつシフトレバーがP以外の状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを携帯する

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージが表示されたときは＊

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

1 マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。(ハイブリッド車)

次の警告はハイブリッドシステムの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
ハイブリッド システムチェック 安全な場所に 停車して下さい	**ハイブリッドシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
4WD システムチェック (警告灯)	**4WDシステム＊＜電気式4WDシステム＞の異常** 警告ブザーが鳴ります。
ステアリングロック システム確認 (警告灯)	**ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。
PCS システムチェック PCS（点滅） (警告灯)	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。
クルーズ システムチェック (警告灯)	**クルーズコントロールシステム＊、レーダークルーズコントロールシステム＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。 ・メインスイッチを一度OFFにし、再度設定してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
ソナー チェック	**クリアランスソナーの異常** 異常のあるソナーの位置が点滅し、警告ブザーが鳴ります。
AHB システムチェック	**オートマチックハイビームシステム＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。
LKA システムチェック	**LKA（レーンキーピングアシスト）＊の異常** 警告ブザーが鳴ります。 エンジン <ハイブリッドシステム> を再始動後、LKA を再起動してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

▶ ガソリン車／ハイブリッド車の警告メッセージ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
運転席ドア開	**各ドアが確実に閉まっていない** 開いてるドアが表示されます。 各ドアが確実にしまっていない状態のまま、車速が 5km/h を超えたときには が点滅し、警告ブザーが鳴ります。	各ドアを閉める
パーキングブレーキを解除して下さい (点滅)	**パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5 km/h を超えた** 警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
ムーンルーフが開いています (点滅)	**ムーンルーフ＊が確実に閉まっていない状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチ<“パワー”スイッチ>を OFF にして運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。	ムーンルーフを閉める

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
給油して下さい	**燃料の不足**	燃料残量を点検し、燃料を補給する。
PCS 現在使用できません PCS	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）＊が現在機能していない** 警告ブザーが鳴ります。	・グリルまたはセンサーの汚れを取り除く ・プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると PCS 警告灯は点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。
レーダー汚れ 清掃必要	**レーダークルーズコントロール＊のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
クルーズ 現在使用できません	**レーダークルーズコントロール＊の車間制御の測定不可** 警告ブザーが鳴ります。	システムが悪天候と判断したため、使用できません。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
100 km/h （点滅）	**（レーダークルーズコントロール＊の車間制御中）衝突の危険性がある** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキペダルを踏む
ブレーキ！ PCS（点滅）	**衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキ＊が作動していることを示す** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキペダルを踏む
LKA 現在使用できません LKA	**・白線認識用カメラの異常高温** **・EPS の作動制限中** 警告ブザーが鳴ります。	しばらく走行してから LKA ＊を再起動する
ソナー 汚れ	**ソナー部に雪氷や泥などの付着＊** 汚れが付着しているソナー部が点滅し、警告ブザーが鳴ります。	汚れを取りのぞく。 ソナー部が汚れていないのに表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ ハイブリッド車のみの警告メッセージ

警告メッセージ	警告内容	対処方法
ハイブリッド システム過熱 出力制限中です	**ハイブリッドシステムの過熱** 警告ブザーが鳴ります。	車両を停車して点検する（→P. 500）
駆動用電池充電低下 N レンジ以外で 充電します （点滅）	**駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが断続して鳴ります。	シフトレバーが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーを P にする
駆動用電池 保護モード P レンジで 再始動して下さい （点滅）	**長時間シフトレバーが N になっているため駆動用電池の残量が低下** 警告ブザーが連続して鳴ります。	車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動する
駐車時は P レンジに 入れて下さい （点滅）	**ハイブリッドシステムが始動している状態でシフトレバーが P 以外のとき、運転席ドアを開けた** 警告ブザーが連続して鳴ります。	シフトレバーを P にする
EV モード 現在使用できません	**EV ドライブモードに切り替えできない状況にいる** 警告ブザーが鳴ります。	EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用する

警告メッセージ	警告内容	対処方法
N レンジです (点滅)	**シフトレバーが N のとき、アクセルペダルを踏んだ** 警告ブザーが鳴ります。	アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D、S、B または R にする

知識

■レーダークルーズコントロールの車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、次のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

●先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき

●先行車が非常にゆっくりした車のとき

●速度を設定した直後

●アクセルが踏まれたとき

ただちに処置してください

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

<table>
<tr><th>車内警告ブザー</th><th>車外警告ブザー</th><th>警告メッセージ</th><th>警告内容</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>1 回</td><td>なし</td><td>キーが見つかりません
（点滅）</td><td>電子キーを携帯していない状態でエンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動しようとした</td><td>電子キーを携帯する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">3 回</td><td rowspan="2">キーが見つかりません
（点滅）</td><td>電子キーを携帯していない状態かつ、“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞が OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された</td><td>電子キーを携帯する</td></tr>
<tr><td>電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞を OFF にせずに運転席ドアが開閉された</td><td>“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞を OFF にするまたは電子キーを携帯する</td></tr>
</table>

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	なし	Pレンジに入れて下さい (点滅)	シフトレバーがP以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチ＜“パワー” スイッチ＞をOFFにせずに運転席ドアが開閉された	シフトレバーをPにする
連続音	連続音	キーが見つかりません Pレンジに入れて下さい (交互に表示) (点滅)	電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーがP以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチ＜“パワー” スイッチ＞をOFFにせずに運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを携帯する
1回	なし	キーバッテリー残りわずか	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する。 (→P. 430)

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	＜ガソリン車＞ 始動時は ブレーキを踏みなが らエンジンスイッチ を押して下さい ＜ハイブリッド車＞ 始動時は ブレーキを踏みなが らパワースイッチを 押して下さい	“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞が OFF の状態でいずれかのドアを開閉してからエンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動せずに“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞をアクセサリーモードに 2 回した	ブレーキを踏んで“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞を押す
1 回	なし	ステアリングロック 未解除	“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞を押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右に回しながら“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞を押す

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	＜ガソリン車＞ 始動時は ブレーキを踏みながらエンジンスイッチを押して下さい ＜ハイブリッド車＞ 始動時は ブレーキを踏みながらパワースイッチを押して下さい	電子キーが正常に作動していない	→P. 486
1 回	なし	＜ガソリン車＞ ブレーキを 踏みながらキーで エンジンスイッチに 触れて下さい ＜ハイブリッド車＞ ブレーキを 踏みながらキーで パワースイッチに 触れて下さい		
1 回	なし	始動時は P レンジに 入れて下さい (点滅)	シフトレバーが N の状態でハイブリッドシステムを始動しようとしている（ハイブリッド車）	シフトレバーを P にしてからハイブリッドシステムを始動させる

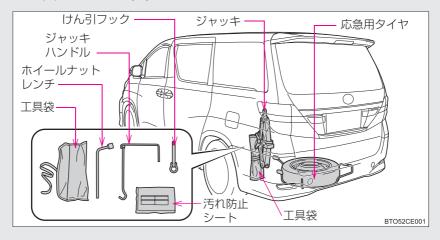
※ 電子キーが車内にあってもエンジン＜ハイブリッドシステム＞が始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。（→P. 66）

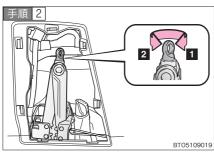
パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備えつけの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 389 をご覧ください。)

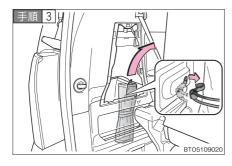
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

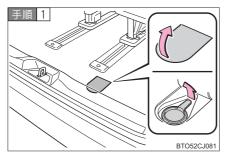
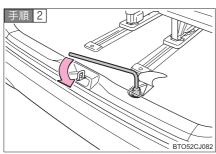
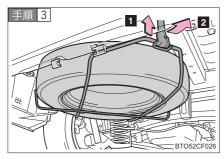
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジン <ハイブリッドシステム> を停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

工具袋、ジャッキの取り出しかた

カバーをはずす。

ジャッキを取り出す。

1 締める

2 ゆるめる

固定バンドをはずし、工具袋を取り出す。

応急用タイヤの取り出し方

ラゲージルーム後部床上にあるマットの切り欠き部分をめくり、キャップをはずす。

ホイールナットレンチを使用し、ボルトを応急用タイヤ格納具がフックから取りはずせるぐらいまでゆるめる。

格納具をフックからはずす。

1 格納具を少し持ち上げる

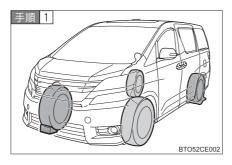
2 フックをはずす

手順 4 格納具を地面におろし、応急用タイヤを両側から持ち、手前に引き出す。

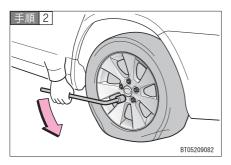
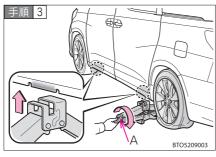
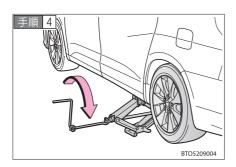
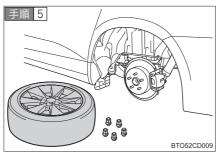
応急用タイヤを少し引き出すと、応急用タイヤが格納具から落下します。そのまま引き出してください。

手順 5 格納具をもとにもどす。

格納具をフックにかけ、ボルトを十分に締めつけて、もとにもどします。

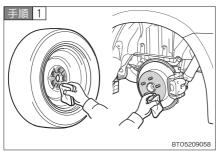
パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ナットを少し(約1回転)ゆるめる。

ジャッキの A 部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。

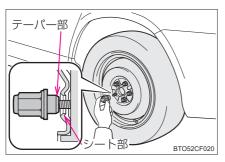
タイヤの取りつけ

BTO5209058

ホイール接触面の汚れをふき取る。

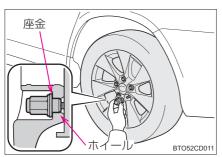
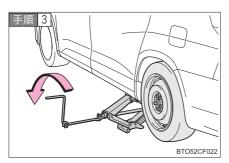
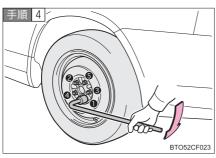
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取りつけ、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

BTO52CF020

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す。

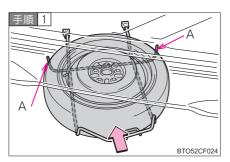
▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

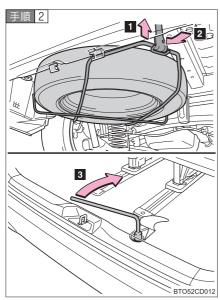
BTO52CD011

ナットの座金がホイールに当たるまで回す。

車体を下げる。

図の番号順でナットを2、3度しっかり締めつける。

締めつけトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

応急用タイヤの格納

タイヤを格納具にのせる。

ホイールの意匠面を上にしてタイヤを格納具の奥（A 部）に当たるまで押し込みます。

格納具を持ち上げてフックをかけ、ボルトを締めつける。

1 格納具を少し持ち上げる
2 フックをかける
3 ボルトを締めつける

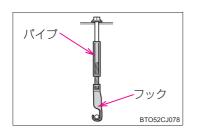
格納具を持ち上げて、タイヤがボデー側に収まっていることを確認してからフックをかけてください。

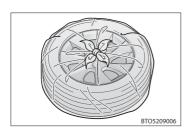
知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。

●空気圧を必ず点検してください。(→P. 514)

■スペアタイヤ格納具のフックについて

スペアタイヤ格納具をおろす際に、ボルトをゆるめすぎてフックが脱落した場合は、図のようにパイプを入れてからフックを取りつけてください。

■標準タイヤの格納について

標準タイヤは、応急用タイヤ格納具に格納できません。パンクなどではずした標準タイヤは、汚れ防止シートにつつんでラゲージルームに格納してください。

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

●ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取りつけ、取りはずし以外の目的で使用しない

●備えつけのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない

●ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる

●ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない

●ジャッキで支えられている状態で、エンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動したり走らせない

●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない

●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない

●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない

●車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります

・ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取りつけには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取りつけるときは、必ずテーパー部を内側にして取りつける（→P. 392）

■パワースライドドア・パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチ（→P. 75）・パワーバックドアメインスイッチ（→P. 87）を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチ・パワーバックドアスイッチを操作したときにスライドドア・バックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

警告

■**応急用タイヤを取り出すときは**

●格納具からタイヤを落とすなどして手や腕、足を挟まないように注意してください。

●格納具のボルトをゆるめるときは、20 回転程度にしてください。50 回転以上回すとフックがはずれてタイヤが落下し、思わぬけがをするおそれがあります。

●応急用タイヤはジャッキアップする前に必ず取り出してください。ジャッキアップしたあとに応急用タイヤを取り出すと、作業中にジャッキがはずれるなどして思わぬけがをするおそれがあります。

●格納具のボルトをホイールナットレンチで回すときは、ゆっくりと回してください。勢いでホイールナットレンチが車体に当たり傷ついたり、手や指を挟むなどして思わぬけがをするおそれがあります。

●応急用タイヤを取り出すときは、応急用タイヤ上面とボデーの間に手を入れないでください。思わぬけがをするおそれがあります。

■**応急用タイヤを使用するときは**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回は避けてください。

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS ＆ブレーキアシスト
- TRC
- VSC
- VDIM *
- クルーズコントロール*
- レーダクルーズコントロール*
- LKA（レーンキーピングアシスト）*
- AFS *
- PCS *
- オートマチックハイビーム*
- ナビゲーションシステム*
- バックガイドモニター*
- パノラミックビューモニター*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- 4WD システム（ガソリン車）*
- 電気式 4WD システム（ハイブリッド車）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■**パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■**応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■**応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

■**応急用タイヤの格納について**

応急用タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

エンジンがかからないときは（ガソリン車）

正しいエンジンのかけ方（→P. 203）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P. 205）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 190）にしたがって、エンジンをかけてください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
  （→P. 153）

■ スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 488）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターが回らない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 488）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時エンジン始動

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 シフトレバーを P に入れる。

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする。

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒間 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを長押しする。

上記の手順にしたがいエンジンが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

ハイブリッドシステムが始動できないときは（ハイブリッド車）

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

■ 正しいハイブリッドシステム始動のしかた（→ P. 208）にしたがっても始動できない場合

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P. 66）
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 153）

■ 室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 492）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 492）

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーをＰの位置にあることを確認する。

手順 3 “パワー”スイッチをアクセサリーモードにする。

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏んで“パワー”スイッチを約 15 秒以上押し続ける。

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

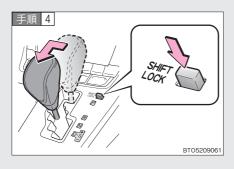
シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 “エンジン スタート ストップ”スイッチ <“パワー”スイッチ> をアクセサリーモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4

シフトロック解除ボタンを押す。

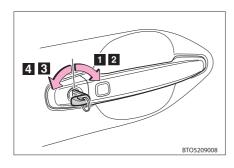
ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 55)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 66）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアの解錠・施錠、エンジン < ハイブリッドシステム > を始動することができます。

ドアの解錠・施錠

メカニカルキー（→P. 55）を使ってドアを解錠・施錠する

1. 全ドア施錠
2. ドアガラスが閉まる（長回し）

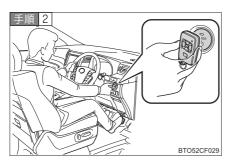
   販売店で設定することにより、作動させることができます。（→P. 517）

3. 全ドア解錠
4. ドアガラスが開く（長回し）

   販売店で設定することにより、作動させることができます。（→P. 517）

エンジン < ハイブリッドシステム > の始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む。

手順 2

電子キーのトヨタエンブレム面で " エンジン スタート ストップ " スイッチ < " パワー " スイッチ > に触れます。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが " エンジン スタート ストップ " スイッチ < " パワー " スイッチ > に触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 次の操作を行う。

モードの切り替え：

ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ < “ パワー ” スイッチ > を押します。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ < “ パワー ” スイッチ > を押すごとにモードが切り替わります。

（→P. 204、209）

エンジン < ハイブリッドシステム > 始動：

ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ < “ パワー ” スイッチ > を押します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン < ハイブリッドシステム > の停止のしかた

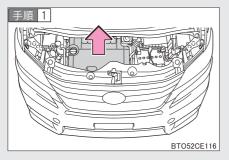
通常のエンジン < ハイブリッドシステム > 停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ < “ パワー ” スイッチ > を押します。

■電池交換について

前ページのエンジン < ハイブリッドシステム > の始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池を交換することをおすすめします。（→P. 430）

バッテリーがあがったときは（ガソリン車）

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

2GR-FE エンジン搭載車
エンジンカバーをはずす

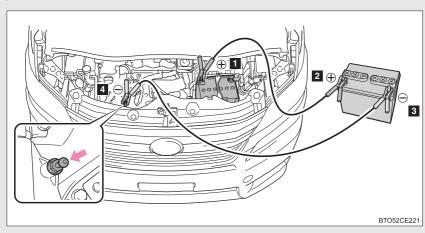
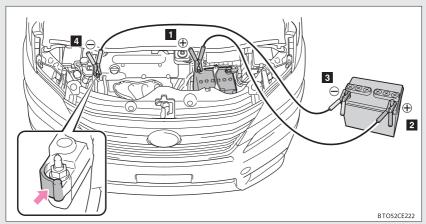
手順 2 ブースターケーブルを次の順につなぐ。

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

▶ 2GR-FE エンジン搭載車

▶ 2AZ-FE エンジン搭載車

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける。

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない
- ●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

警告

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚･衣服･車体につかないようにする

●バッテリーに寄りかかったりしない

●誤ってバッテリー液が身体についたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく

●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近づけない

注意

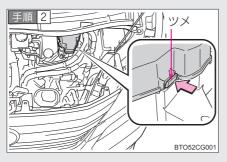
■ブースターケーブルの取り扱いについて

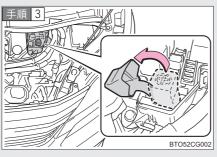
ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

補機バッテリーがあがったときは（ハイブリッド車）

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順にしたがって、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

手順 1 ボンネットを開け、エンジンルームカバーを取りはずす。
（→P. 402）

ヒューズボックスのカバーをはずす。

ツメを押しながら、フタを持ち上げてはずします。

ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける。

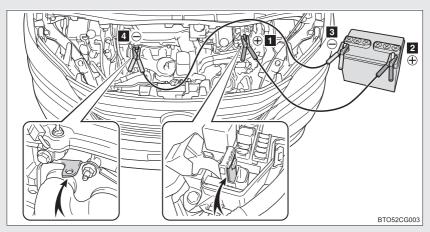
ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。

手順 4 ブースターケーブルを次の順につなぐ。

1 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する。

手順 6 “ パワー ” スイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する。

手順 7 救援車のエンジン回転を維持したまま、“ パワー ” スイッチをいったん ON モードにしてからハイブリッドシステムを始動する。

手順 8 READY インジケーターが点灯したことを確認する。

点灯しない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

手順 9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

手順 10 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーを取りつけ、エンジンルームカバーをもとどおりに取りつける。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがはずされたり、あがってしまった場合は

“パワー”スイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■ハイブリッドシステムの始動について

補機バッテリーあがり発生後や、脱着後は次の操作を行ってください。それでも始動しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

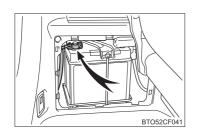
- 補機バッテリーあがり発生後は、補機バッテリーが復帰してもハイブリッドシステムが始動しないことがあります。その場合は、シフトレバーを P、“パワー” スイッチを OFF にしていずれかのドアを開閉し、再度始動操作を行ってください。
- 補機バッテリー脱着後は、運転席ドアを開閉して 10 秒以上待ってから始動操作を行ってください。その際、1 度目の操作では始動しませんが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

■補機バッテリーについて

→P. 396

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーのマイナス端子を脱着するときは

車体側のアース部分(マイナスケーブルの根元)ではなく、必ず補機バッテリー側の端子をはずしてください。

⚠警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させせない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させせない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液 (酸) が皮膚･衣服･車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近づけない

●誤って補機バッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診断を受ける

●補機バッテリーの支柱･ターミナル･その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまを補機バッテリーに近づけない

■**補機バッテリーあがりの処置をしたあとは**

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

警告

■補機バッテリーの交換について

→P. 396

注意

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは（ガソリン車）

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：
　エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

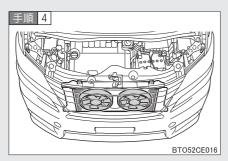
蒸気が出ていない場合：
　エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

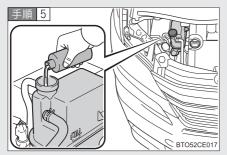
ファンが作動している場合：
　水温計の針が H の位置から下がってきてからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：
　すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する。

手順 4

BTO52CE016

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

手順 5

BTO52CE017

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- 冷却ファンが回転しているときはエンジンルーム内に触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  冷却ファンはエアコンが作動しているときや、冷却水の温度が高いときに自動で作動します。また、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしても最大 8 分間作動することがあります。（2GR-FE エンジン搭載車）
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

オーバーヒートしたときは（ハイブリッド車）

次のようなとき、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計の針が H の位置にある：ガソリンエンジンがオーバーヒートしている可能性があります。
- 「ハイブリッドシステム過熱出力制限中です」がマルチインフォメーションディスプレイに表示：パワーコントロールユニットが過熱している可能性があります。

対処方法

■ 水温計の針が H の位置にあるとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

ハイブリッドシステムを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、ハイブリッドシステムを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

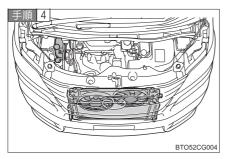
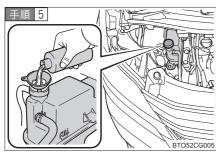
READY インジケーターが点灯した状態のまま、注意してボンネットを開ける。

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：

水温計の針が H の位置から下がってきてから、ハイブリッドシステムを停止する。

ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する。

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する。

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■「ハイブリッドシステム過熱出力制限中です」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

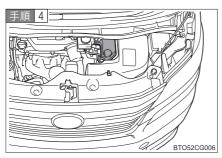
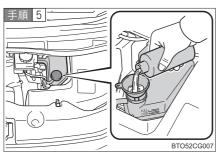
手順 2 READY　インジケーターが点灯した状態のまま、注意してボンネットを開ける。

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：

「ハイブリッドシステム過熱出力制限中です」が消えてから、ハイブリッドシステムを停止する。
しばらく待っても消えない場合は、ハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する。

ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止して、トヨタ販売店に連絡する。

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量や冷却水もれを点検する。

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

オーバーヒートのとき、お車に次のような症状が現れます。

●ハイブリッドシステムの出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●“パワー”スイッチ上のインジケーターとREADYインジケーターが消灯していることを確認してください。

●ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急に回り出すことがあります。冷却ファンに触れたり、近づいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーター・補助タンクが熱いうちは、ラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■冷却水を入れるときの注意

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■損傷を防ぐために

ハイブリッドシステムの損傷を防ぐため以下のことをお守りください。

●不純物や砂利などが混入した冷却水を入れないでください。

●冷却水に市販の添加剤等を入れないでください。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

▶ FF 車（前輪駆動）（ガソリン車）／ハイブリッド車

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジン < ハイブリッドシステム > を停止する。

手順 2 前輪周辺の土や雪を取り除く。

手順 3 前輪の下に木や石を当てがう。

手順 4 エンジン < ハイブリッドシステム > を再始動する。

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む。

▶ 4WD 車（4 輪駆動）（ガソリン車）

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを停止する。

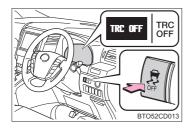
手順 2 前輪前後の土や雪を取り除く。

手順 3 前輪の下に木や石を当てがう。

手順 4 エンジンを再始動し、4WD オートモードになっていることを確認する。（→P. 262）

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む。

知識

■脱出しにくいときは（ガソリン車）

を押して TRC を OFF にしてください。

警告

■脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

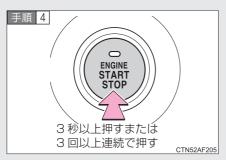
手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

“エンジン スタート ストップ”スイッチ ＜“パワー”スイッチ＞を 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止するときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジン＜ハイブリッドシステム＞を停止する前に、十分に減速するようにしてください。

車両の仕様

6

6-1. 仕様一覧

6-2 カスタマイズ機能

6-3 初期設定

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正オイル以外を使用される場合は、トヨタ純正オイル・液類に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン※ （無鉛ハイオク）	2GR-FE	65
無鉛レギュラーガソリン	2AZ-FE	
	2AZ-FXE	

※ 無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできます。その場合エンジン本来の性能を発揮できません。

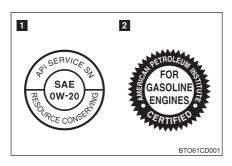
エンジンオイル

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※1）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル　SN 0W-20※2 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル　SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 5W-20 トヨタ純正モーターオイル　SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル　SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 10W-30 トヨタ純正モーターオイル　SM 0W-20 —API SM, EC SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30 —API SM, EC SAE 5W-30 トヨタ純正モーターオイル　SM 10W-30 —API SM, EC SAE 10W-30	2GR-FE	5.7	6.1
	2AZ-FE ／ 2AZ-FXE	4.1	4.3

※ 1：エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

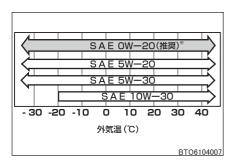
※ 2：0W-20 は、新車時に充填されている最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※：0W-20 は、新車時に充填されている最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について説明します：

- 0W-20の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。Wの前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

冷却水

▶ ガソリン車

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	2GR-FE	10.6
	2AZ-FE	8.4

▶ ハイブリッド車

銘柄	項目	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	ガソリンエンジン用	9.1
	電気モーターおよびインバーター用	3.3

オートマチックトランスミッション（ガソリン車）

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	2GR-FE (FF 車)	6.5
	2GR-FE (4WD 車)	6.7
トヨタ純正 CVT フルード　TC	2AZ-FE	8.7

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ハイブリッド用トランスアクスルフルード（ハイブリッド車）

銘柄	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正オートフルード　WS	4.2

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

リヤモーター用トランスアクスルフルード（ハイブリッド車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正オートフルード　WS	1.8

リヤディファレンシャル（ガソリン車）*

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.5

トランスファー（ガソリン車）*

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.45

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	ガソリン車：124 以上
	ハイブリッド車：160

※ エンジン回転時 ＜ハイブリッドシステム作動時＞ に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	4 ～ 6

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	2.5

タイヤ

▶ 標準タイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
235/50R18 97V	18 × 7 1/2J	240（2.4）	
215/60R17 96H	17 × 7 J	240（2.4）	
215/65R16 98H	16 × 6 1/2J	ガソリン車：240（2.4）	
		ハイブリッド車：250（2.5）	

▶ スペアタイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
T165/80R17 104M	17 × 4T	420 (4.2)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（ディスチャージヘッドランプ）	 60 35
	車幅灯	5
	フロントフォグランプ（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	LED ※
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯	LED ※
	尾灯	LED ※
	後退灯	16

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

電球		W（ワット）数
車外	ハイマウントストップランプ	LED ※
	番号灯	5
車内	フロントパーソナルランプ	8
	リヤパーソナルランプ	8
	LED 室内間接照明	LED ※
	ダウンライト	LED ※
	ラゲージルームランプ	5
	フロント足元照明*	LED ※
	ドアカーテシランプ*	5
	グローブボックスランプ	LED ※
	バニティランプ	8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

▶ ガソリン車

型式	エンジン	駆動方式
GGH20W	2GR-FE（3.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）
GGH25W		4WD（4 輪駆動）
ANH20W	2AZ-FE（2.4L ガソリン）	FF（前輪駆動）
ANH25W		4WD（4 輪駆動）

▶ ハイブリッド車

型式	ガソリンエンジン	モーター	駆動方式
ATH20W	2AZ-FXE（2.4L ガソリン）	2JM（前輪用）	4WD（4 輪駆動）
		2FM（後輪用）	

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。
また、メーカーオプションナビゲーションシステムの画面操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

※ メーカーオプションナビゲーション画面でのカスタマイズ設定の操作は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

車両カスタマイズ設定一覧

1 メーカーオプションのナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能
2 車両側のスイッチ操作などで設定変更可能
3 トヨタ販売店で設定変更可能

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr>
<tr><td>スマートエントリー&スタートシステム(→P. 57)</td><td>スマートエントリー&スタートシステム</td><td>する</td><td>しない</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="5">スマートエントリー&スタートシステム(→P. 57)とワイヤレスドアロック(→P. 67)共通</td><td>作動の合図(非常点滅灯)</td><td>する</td><td>しない</td><td>○</td><td>—</td><td>○</td></tr>
<tr><td>作動の合図(ブザー)</td><td>する</td><td>しない</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="2">解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間</td><td rowspan="2">30 秒</td><td>60 秒</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">—</td><td rowspan="2">○</td></tr>
<tr><td>120 秒</td></tr>
<tr><td>半ドア警告ブザー</td><td>する</td><td>しない</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr>
</table>

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
ワイヤレスドアロック(→P. 67)	ワイヤレス機能	する	しない	—	—	○
	パワーバックドアの作動	長押し	短押し 2 回押し なし	—	—	○
	施錠時のパワーバックドア開機能	なし	あり	—	—	○
ドアロック(→P. 70)	車速感応式ドアロック	する	しない	○	○※1	○
	運転席を開けたときの全ドア解錠	しない	する	○	○※1	○
	シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠	する	しない	○	○※1	○
	シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠	しない	する	○	○※1	○
パワーウインドウ(→P. 144)	ドアキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
	スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機能	なし	あり	—	—	○
パワーバックドア(→P. 85)	パワーバックドアスイッチの作動	長押し	短押し	—	—	○
	作動の合図(ブザー)	する	しない	—	—	○

※1 ナビゲーションシステム装着車を除く

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
ライト自動点灯・消灯システム（→P. 248）	ライトセンサーの感度調整	0	－2～+2	○	－	○
	ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	－	－	○
	オートマチックハイビーム	作動	非作動	－	－	○
エコドライブインジケーターランプ（ガソリン車）（→P. 243）	エコドライブインジケーターランプ	ON	OFF	－	○	○
ＥＶ ドライブインジケーターランプ（ハイブリッド車）（→P. 245）	ＥＶ ドライブインジケーターランプ	ON	OFF	－	○	○
エアコン（→P. 320）	外気導入と内気循環の切り替えがAUTO モード時の排ガスセンサーの感度の調節*	0	－3～+3	○	○	○
	AUTO スイッチがON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切り替える	する	しない	○	－	○

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

項目	機能の内容	初期設定	変更後	1	2	3
イルミネーション（→P. 336）	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒	○	―	○
			30 秒			
			OFF			
	解錠時の作動	あり	なし	―	―	○
	“エンジン スタートストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞OFF 後の作動	あり	なし	―	―	○
その他	周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	－2～+2	―	―	○
	周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	－2～+2	―	―	○
	降車時運転席シート移動量調節	少なめ	OFF	○	―	○
			標準			
クリアランスソナー（→P. 287）	バックソナーの検知開始距離	約 150cm	約 60cm	○※2	―	○
	ブザー音量	3	1～5	○※2	―	○
	画面表示	する	しない	○※2	―	○

※2 →P. 293

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応式ドアロック」と「シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。

・シフトレバーを P 以外にすると全ドア施錠されます。
・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図（ブザー）」の設定に依存します。

■車両側のスイッチで設定を行った場合

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車で、ナビゲーション画面で設定できる項目を、車両側のスイッチで設定した場合、ナビゲーション画面の項目表示は、すぐに切り替わりません。
いったん“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞をOFF にしてから、再度“エンジン スタート ストップ”スイッチ＜“パワー”スイッチ＞をイグニッション ON モード＜ON モード＞にすると画面表示が切り替わります。

警告

■メーカーオプションのナビゲーション画面でカスタマイズを行うときは

エンジン＜ハイブリッドシステム＞を始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**カスタマイズを行うときは**

バッテリー <補機バッテリー> あがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジン <ハイブリッドシステム> が始動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリー＜補機バッテリー＞を再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワースライドドア	・バッテリー＜補機バッテリー＞の充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 75
バックドア	・バッテリー＜補機バッテリー＞の充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 59
パワーバックドア	・バッテリー＜補機バッテリー＞の充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 87

さくいん

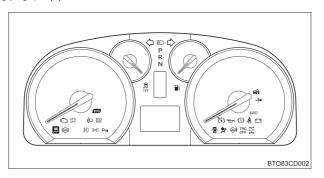
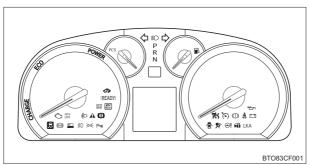
アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
ECO	エコノミー / エコロジー
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AHB	オートマチックハイビーム
DISP	ディスプレイ
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
EV	エレクトリックビークル
LED	ライトエミッティングダイオード
LKA	レーンキーピングアシスト
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
VSC	ビークルスタビリティコントロール
S-VSC	ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール

五十音順さくいん

症状別さくいん

▶ ドット表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車（ガソリン車）

▶ セグメント表示式マルチインフォメーションディスプレイ装着車（ガソリン車）

▶ ハイブリッド車

■警告灯一覧

表示	名称	ページ
	マスターウォーニング	P. 451
	エンジン警告灯	P. 448
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	P. 448
	油圧警告灯	P. 447
	パワーステアリング警告灯	P. 448
	半ドア警告灯	P. 451
	運転席シートベルト非着用警告灯	P. 451
AFS OFF	AFS OFF 表示灯（点滅）	P. 449
	充電警告灯	P. 447
	ブレーキ警告灯（赤色）	P. 447
	ブレーキ警告灯（黄色）	P. 449
	ABS& ブレーキアシスト警告灯	P. 448
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯	P. 448
	燃料残量警告灯	P. 451
PASSENGER	助手席シートベルト非着用警告灯	P. 451
PCS	PCS 警告灯（点滅）	P. 448

オートマチックハイビーム表示灯（黄色） P. 449

スリップ表示灯 P. 449

4WD 警告灯 P. 448

クルーズコントロールシステム表示灯（黄色） P. 449

スマートエントリー&スタートシステム警告等 P. 453

警告メッセージが表示された

P. 454 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認してください。

- 警告灯が点灯、点滅している（→P. 447）
- 警告メッセージが表示されている（→P. 454）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認してください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 64
	車外に出たとき	
	スマートエントリ＆スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 220、223
	ブレーキを踏んだとき	P. 197

ハイブリッドさくいん（ハイブリッド車）

ハイブリッドシステムについての解説

ハイブリッドシステムについての注意事項

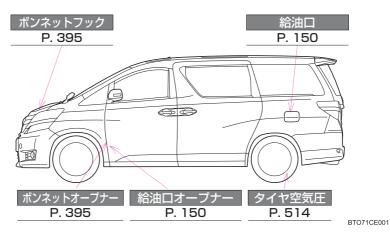
運転のしかた

環境に配慮した経済的な運転

事故が起きたときは

ハイブリッド車特有の説明がある項目

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量（参考値）	65L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（2GR-FE エンジン車） 無鉛レギュラーガソリン（2AZ-FE エンジン車／2AZ-FXE エンジン車） P. 151、P. 508
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 390、P. 514
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 2GR-FE エンジン車：5.7L 2AZ-FE エンジン車／2AZ-FXE エンジン車：4.1L オイルとフィルター交換時 2GR-FE エンジン車：6.1L 2AZ-FE エンジン車／2AZ-FXE エンジン車：4.3L
エンジンオイルの種類	P. 509

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp